

## 青森大学の教育研究活動等情報について

青森大学における主な教育研究活動等の情報については、次のとおりとなっています。本情報は、学校教育法施行規則（昭和22年5月文部省令第11号）第172条の2の規定に即して、提供しているものです。

なお、学則等さらに詳細な情報についても、本学のホームページに掲載しております。

### 1 大学の教育研究上の目的に関すること

#### (1) 大学の基本理念

- ① 青森の豊かな自然と文化の中で人間性と確かな教養を培い、社会に役立つ基礎学力、技術及び専門知識を身に付けさせるための実践的な教育を行う。
- ② 教員と学生の親密なコミュニケーションを通じて、教員が個々の学生の能力を十分に引き出すための親身な指導を行う。
- ③ 大学の知的財産を活用することにより地域への社会貢献を行うとともに、地域との親密な交流を通じて地域から愛される大学となることを目指す。

#### (2) 教育研究の目的

（「青森大学学則」より）

##### ①大学全体

本大学は、教育基本法及び学校教育法に基づき、学術の理論と応用を教授研究して、有能にして良識ある人材を育成し、文化の発展並びに人類の福祉に貢献するとともに、地域社会の向上に資することを目的とする。

##### ②学部・学科

###### (ア) 経営学部経営学科

経営学、経済学、商学に関する基礎的な知識・技術を教授し、企業人として必要な理解力・実務能力・対人関係能力を涵養し、経済のグローバル化やIT化などに対応できる人材、多角的な視点で課題を捉え柔軟で創造的な発想・解決法を提案出来る人材を育成する。

###### (イ) 社会学部社会学科

現代社会の理解に必要な社会学を中心とした関連諸学問に関する幅広い知見を身につけ、現代社会の諸問題を深く理解し、専門的な社会調査・分析能力を持って、地域社会や国際社会が直面している諸問題を実践的に解決していく能力を育成する。

また、基本的人権の尊重、権利擁護を基礎とした社会福祉の知識・技術・価値観の学びと実践を通して総合的で高度な専門知識を教授し、地域社会に貢献できる人材を育成する。

(ウ) ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科

基礎的な知識や情報技術からネットワーク&プログラミング、CG・マルチメディア、インテリジェントシステム等の高度な情報技術までを教授することにより、応用力、実践力を身に付けさせ、情報通信社会の発展に寄与する人材を育成する。

(エ) 薬学部薬学科

薬学の基礎となる科学的知識・技術を受け、さらに医療薬学的知識・技術及び医療人としての心構えと態度を身に付け、わが国の医療環境の進展に応え得る薬剤師を育成することを目的とする。

## 2 教育上の基本組織に関すること

(1) 現在の教育上の基本組織としては、下表のとおり、4学部4学科となっている。

(2) 平成27年度の入学定員は、下表のとおり、320人であり、収容定員は1,500人となっている。( )内は、27年度の入学定員にそれぞれの修学年限を乗じたもので、収容定員との違いは、入学定員を平成25年度に見直しているためである。

学部、学科の構成

学部・研究科	学科・専攻	平成27年度 入学定員	平成27年度 収容定員
経営学部	経営学科	100人	430人(400)
社会学部	社会学科	90人	360人(360)
ソフトウェア情報学部	ソフトウェア情報学科	40人	170人(160)
薬学部	薬学科	90人	540人(540)
合計		320人	1,500人(1,460)

(注) ( )内は、入学定員に修学年限を乗じたもの

(3) ほかに、附属施設として、県内の産業の問題点や地域問題、学際的な情報課題、産学連携などの研究を行う総合研究所を有している。

また、地域貢献や連携の拠点として地域貢献センターを、学生の学習支援を目的とする学習支援センターを設置している。

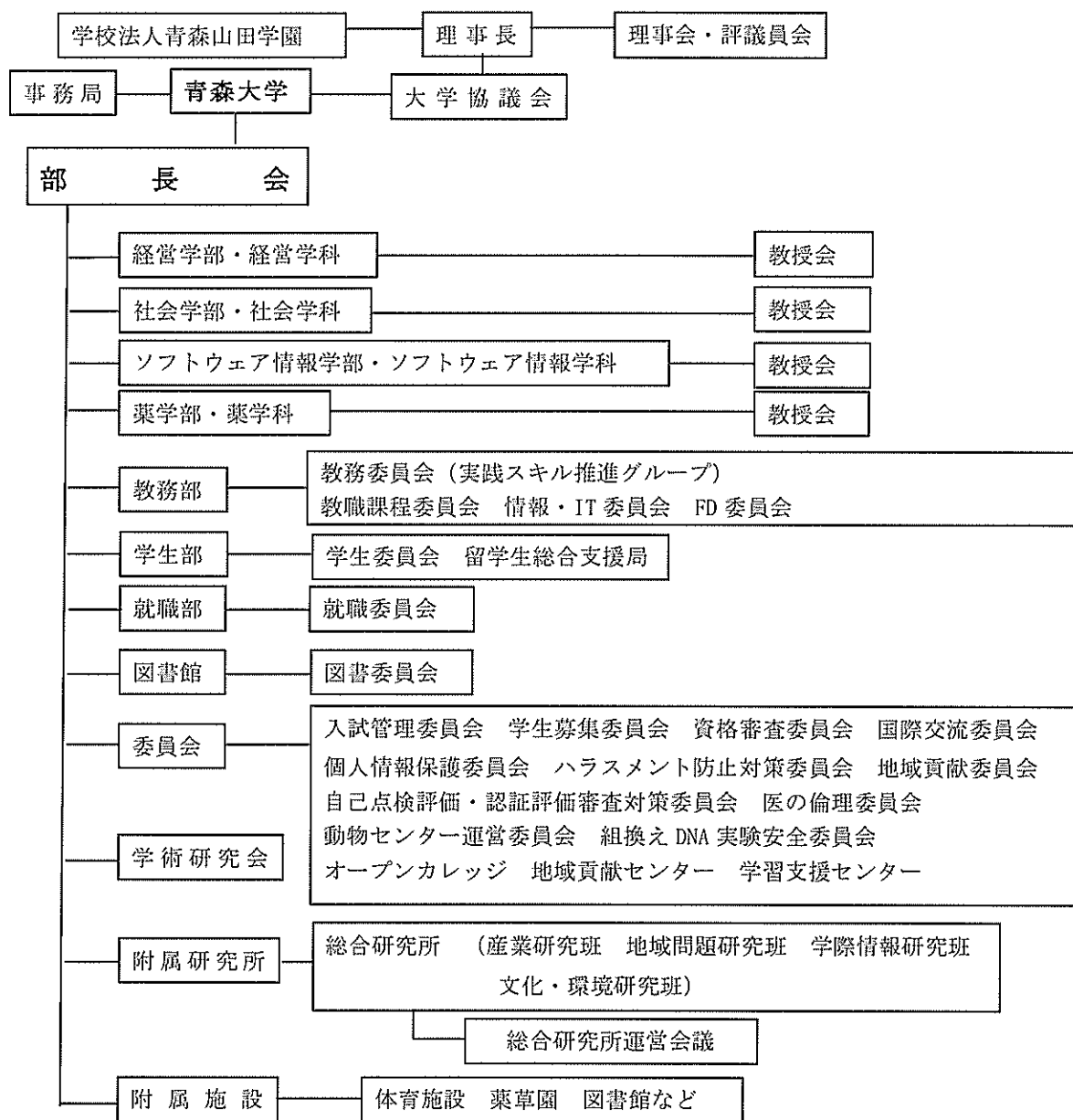
## 3 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

### (1) 教員組織

①教育研究組織の基本的な単位は、教授会であり、各学部の固有の事項について決定を行うにあたり、教授会で意見を述べるものとする。教授会には、教授、准教授、講師、助教が参加している。

- ②大学の運営について重要な役割を果たしているのは、「部長会」である。部長会は、学長が主宰し、ほぼ毎月開催される会議であり、学長、副学長、学長補佐、学部長、教務部長、教務部長、学生部長、図書館長、総合研究所長、就職部長、地域貢献センター長、オープンカレッジ所長、事務局長を持って組織される。ただし、必要があるときは、その他の教職員を加えることができる。部長会では、学長や各教授会及び委員会から提案された議題について議論して意思疎通を図り、共通理解の下に、様々な施策について具体的な方向を確認している。部長会で確認された事項は、各学部や法人本部等が連携協力して実施している。
- ③各組織が相互に関連性をもって適切に活動するため、各学部の委員で構成される全学的な委員会を多く設置している。

### 青森大学組織構成図



## (2) 教員数

教員数は、下表のとおり、専任教員は87人であり、大学設置基準を満たしている。

社会学科とソフトウェア情報学科においては、収容定員が大学設置基準別表第1(第13条関係)に定める収容定員に満たないため、この2つの学科の必要専任教員数は各12名となる。

教員数(平成27年5月1日現在)(学長・副学長を除く)

学 部	学 科	専任教員(人)							兼担 教員 (人)	兼任 教員 (人)
		教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	計	設置基 準上必 要人数		
経営学部	経営学科	12(1)	6(1)	2(1)	0(0)	0(0)	20(3)	14	33	8
社会学部	社会学科	14(3)	5(1)	2(2)	1(0)	0(0)	22(5)	12	26	7
ソフトウェア 情報学部	ソフトウェア 情報学科	7(0)	6(0)	0(0)	1(0)	0(0)	14(0)	12	36	9
薬学部	薬学科	18(3)	8(2)	2(1)	2(0)	1(1)	31(7)	28	34	8
大学設置基準上大学全体の収容定員に応じて必要とされる専任教員数								18		
合計		51(7)	25(4)	6(4)	4(0)	1(1)	87(15)	84	129	32

(注) 1 ( ) 内は女性教員で内数

※「大学設置基準」=昭和31年10月文部省令第28号(教員数は第13条)

## (3) 専任教員の年齢構成

教員の年齢構成を10歳区分で見ると、60～69歳が34.5%で最も多く、次いで40～49歳が29.9%、50～59歳が24.1%の順となっている。また、本学の定年は、65歳(平成19(2007)年度以前の採用者は70歳)となっている。

専任教員の年齢構成(平成27年5月1日現在)

全 学 部	職 位	70以上 (歳)	60～69 (歳)	50～59 (歳)	40～49 (歳)	30～39 (歳)	29以下 (歳)	計
		教 授 (人)	-	28	19	4	-	-
	准教授 (人)	-	1	2	21	3	1	28
	講 師 (人)	-	1	-	1	2	-	4
	助 教 (人)	-	-	-	-	2	1	3
	助 手 (人)	-	-	-	-	-	1	1
	計 (人)	-	30	21	26	7	3	87

(4) 教員の学位、研究内容等

本学ホームページの「教員教育研究業績」欄に掲載している。

4 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

(1) 入学者選考方針

本学では、下表のとおり、各種の入試方法を設けており、それぞれの選考方針を明確にしている。

入試方法と選考方針に関しては、毎年発行し広く配布している「青森大学入学試験ガイド」に明記しており、いずれの試験においても、本学の基本理念に沿った教育を受け入れる能力と意欲を持った学生を選考することになっている。

平成 27 年度入学試験区分と選考方針

入試区分	選考方針
指定校制 推薦入試	指定校の学校長からの推薦を受けた生徒について、調査書と面接により選考する。本学で学ぶ明確な目的意識を持っているかどうか、基礎学力を有するかどうか、豊かな人間性を持っているかどうかを選考基準とする。
公募制 推薦入試	学校長の推薦を受けた評点平均(経営学部、社会学部、ソフトウェア情報学部は 3.0 以上、薬学部は 3.5 以上)の生徒について、調査書、面接により選考する。指定校推薦と同様、明確な目的意識、基礎学力、豊かな人間性を持っているかどうかを選考基準とする。
一般入試 A 日程	調査書及び各学部指定する科目の学力試験の結果に基づいて選考する。試験科目は以下の通りである。 経営学部：国語、外国語、数学から 2 教科 2 科目選択 社会学部：国語、外国語、公民から 2 教科 2 科目選択 ソフトウェア情報学部：数学 I (必須)の他に、数学 II、外国語、情報、国語から 1 教科 1 科目選択、計 2 科目 薬学部：理科、外国語の 2 科目
一般入試 B 日程	経営学部、社会学部：小論文と面接 ソフトウェア情報学部：数学 I (必須)の他に、数学 II、外国語、情報、から 1 教科 1 科目選択、計 2 科目 薬学部：一般入試 A 日程と同じ
一般入試 C 日程	経営学部、社会学部：面接 ソフトウェア情報学部：面接(数学、情報の基礎学力に関する口頭試問を行う。) 薬学部：面接

大学入試センター 試験利用入試 前期、中期、後期	「大学入試センター試験」受験者の中から、各学部指定の科目の成績をもとに選考する。本学独自の試験は課さない。全国共通試験の成績を活用するので、一般試験とは異なった視点から基礎学力を備えた学生を選考することを目的とする。
A O 入 試	受験生が本学の教育理念を良く理解した上で、自ら進んで本学で学ぼうとする目的意識を持っているかを、面接委員(複数)が受験生と面談して把握する。この制度は単なる学力試験とは違って、受験生が本学で学びたいという強い意欲を持っているかどうかを選考基準にする。受験に際しては、「調査書」、「AO入試志望理由・自己推薦書」を提出させる。
編 入 学 試 験	成績証明書、志望理由書(社会学部)を提出させ、面接により選考する。面接時に本人が高い勉学意欲があるかどうか、編入を希望する理由が適切であるかどうか、基礎学力があるかどうかを見極めて選考する。
社 会 人 特 別 入 試	高等学校、大学等を卒業後、社会人としての経験があり、新しい知識や技術について学び直したい、人生をさらに豊かにするため生涯学習を続けたいなどの意欲がある方を対象として選考する。

## (2) 入学者及び在学者の数

①近年の入学者数は、次表のとおりである。

入学定員と入学者数（平成 27 年 5 月 1 日現在）

学部・研究科	学科	区分	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
経営学部	経営学科	入学定員	100	100	100
		入学者数	85	64	91
社会学部	社会学科	入学定員	90	90	90
		入学者数	54	49	47
ソフトウェア 情報学部	ソフトウェア 情報学科	入学定員	40	40	40
		入学者	24	19	36
薬学部	薬学科	入学定員	90	90	90
		入学者数	56	59	60
全学部	合計	入学定員	360	320	320
		入学者	219	191	234

②編入学についての定員は、各学科とも若干名としており、下表のとおり、毎年度 2 年次又は 3 年次への入学者がある。また、平成 23 年度より、薬学部では 4 年次編入を受け入れている。

### 編入学者数

学部	学科	平成 25 年度			平成 26 年度			平成 27 年度		
		2 年次	3 年次	4 年次	2 年次	3 年次	4 年次	2 年次	3 年次	4 年次
経営学部	経営学科	—	1	—	1	1	—	—	—	—
社会学部	社会学科	—	5	—	2	1	—	1	—	—
	社会福祉学科	—	3	—	—	—	—	—	—	—
ソフトウェア情報学部	ソフトウェア情報学科	—	—	—	—	—	—	—	—	—
薬学部	薬学科	6	—	2	10	3	—	6	—	2
全学部	合計	6	8	2	13	5	—	7	—	2

③近年の在籍者数は、次表のとおりで、収容定員より下回っている状況が続いている。

### 収容定員と在籍者数

学部	学科	平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度	
		収容定員	在籍者数	収容定員	在籍者数	収容定員	在籍者数
経営学部	経営学科	490	332	460	284	430	299
社会学部	社会学科	360	191	360	200	360	211
	社会福祉学科	120	78	60	42	0	0
ソフトウェア情報学部	ソフトウェア情報学科	190	102	180	90	170	103
薬学部	薬学科	570	365	540	384	540	383
全学部	合計	1,730	1,068	1,600	1,000	1,500	996

### (3) 卒業、就職、進学状況

①平成 26 年度の卒業、就職、進学状況は、次表のとおりで、民間就職希望者の就職率は 97.5%に達している。また、進学者は、5 人となっている。

### 卒業生数と就職・進学者数

(単位 :

人・%)

学部	学科	卒業生数 ①	就職希望者数		就職者数		就職率		進学者数	
			全体②	民間③	全体④	民間⑤	全体⑥= ④÷②	民間⑦= ⑤÷③	人数⑧	進学率⑨= ⑧÷①
経営	経営	70	69	59	66	59	95.7	100	0	0
社会	社会	32	32	28	32	28	100	100	0	0

	社会福祉	41	40	39	39	38	97.5	97.4	0	0
	小計	73	72	67	71	66	98.6	98.5	0	0
ソフトウェア情報	ソフトウェア情報	22	21	18	18	15	85.7	83.3	0	0
薬	薬	26	21	18	21	18	100	100	5	14.2
合	計	191	183	162	176	158	96.2	97.5	5	2.6

(注) 卒業者数、全体就職関連数、進学者数に関するデータは、平成 27 年 3 月卒業者のデータで算出している。

②就職先については、経営学部は「卸売・小売業」、社会学部は「医療、福祉」、ソフトウェア情報学部は、「情報通信業」が最も多くなっている。薬学部は、調剤薬局（「卸売・小売業」）への就職が多い。

### 産業別就職先（平成 26 年度）

産業分類	経営学部		社会学部		ソフトウェア情報学部		薬学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
農業、林業	1	1.2	0	0	1	4.5	0	0
漁業	0	0	0	0	0	0	0	0
鉱業、採石業、砂利採取業	0	0	0	0	0	0	0	0
建設業	2	3.0	1	1.4	3	13.7	0	0
製造業	4	6.1	3	4.2	1	5.6	0	0
電気・ガス・水道業	2	3.0	0	0	0	0	0	0
情報通信業	5	7.6	1	1.7	8	44.2	0	0
運輸業、郵便業	4	4.7	1	1.4	1	4.5	0	0
卸売業、小売業	13	19.8	12	16.9	4	18.2	14	66.7
金融業、保険業	7	10.6	4	5.6	1	4.5	0	0
不動産業、物品賃貸業	1	1.5	3	4.2	1	5.6	0	0
学術研究、専門・技術サービス	2	3.0	2	3.3	0	0	0	0
宿泊業、飲食サービス業	3	4.5	2	3.3	0	0	0	0
生活関連サービス業、娯楽業	10	15.2	4	5.6	1	5.6	0	0
教育、学習支援業	6	9.1	1	1.7	3	16.7	0	0
医療、福祉	2	3.0	31	43.9	1	4.5	4	19.0
複合サービス事業	5	7.6	1	1.4	0	0	0	0
その他サービス業	1	1.5	4	5.6	3	16.7	0	0
公務	3	4.5	5	7.0	3	13.7	5	27.8
上記以外	0	0	2	2.8	1	5.6	3	14.3
就職者合計	66	100	71	100	18	100	21	100

## 5 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

- (1) 授業科目、授業の方法と内容、年間の授業の計画については、これらを盛り込んだシラバスを本学ホームページで学科別、学年別に掲載している。
- (2) また、本学ホームページの「情報サービス」に掲載している学則には、教育課程表が含まれている。



## 6 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定にあたっての基準に関すること

### (1) 単位の認定

本学の教育課程における成績の評価は、「単位修得試験規程」に基づき行われている。単位の認定に当たり、学修を評価する場合には試験成績のほかに、学習態度を考慮する。試験は原則として、60分又は90分の筆記試験により行われる。試験の成績は100点満点法に従い60点以上を合格とし59点以下を不合格とする。

成績評価と修得単位数は、事務局で学籍簿に記入し保管するが、その際の評点は、平成26年度以降の入学生は、100～90点をS、89～80点をA、79～70点をB、69～60点をC、59点以下をD、評価不能をNとする。平成25年度以前の入学生は、100～80点を優、79～70点を良、69～60点を可、59点以下を不可とする。

病気その他のやむを得ない理由で定期試験を欠席した者に対しては、追試験の機会が与えられる。定期試験の不合格者には、再試験の機会が与えられる場合がある。再試験の不合格者は、その科目を再履修扱いとする。

### (2) 進級・卒業要件

各学部の進級、卒業要件は、次のとおりである。

経営学部では、3年次で1)教職科目以外の総単位数が60以上 2)外国語の単位が8以上でないと、4年次で専門演習を履修させないことにしている(4年次への進級は認める)。

社会学部では、2年次終了時点で教職科目以外の単位数が60単位未満の場合は3年次に進級できない(平成23年度入学生より適用)。

ソフトウェア情報学部では、2年次の終わりには所定の科目の単位を含め60単位以上を取得していること、3年次の終わりには所定の科目の単位を含め100単位以上を取得していること、としている。

薬学部では、薬剤師国家試験に合格するという目標があるので、年次ごとに進級基準を設けている。

卒業に必要な単位数は、4年制度(経営学部、社会学部、ソフトウェア情報学部)では、124単位である。6年制度(薬学部)では、平成26年度以降の入学生は225単位、平成25年度以前の入学生は221単位である。

卒業を認定された者には、学長は、次の学士の学位を授与する。

経営学部	経営学科	学士(経営学)
社会学部	社会学科	学士(社会学)
ソフトウェア情報学部	ソフトウェア情報学科	学士(情報工学)
薬学部	薬学科	学士(薬学)

	学部 学科	経営学部	社会学部	ソフトウェア 情報学部	薬学部
	年次	経営学科	社会学科	ソフトウェア 情報学科	薬学科
進級の要件 (単位数)	1年次	なし	なし	なし	専門必修科目の合計未修得単位数が10未満であること
	2年次	なし	2年次終了時点で教職科目以外の単位数が60単位以上であること	1) 1、2年次の所定の必修単位を取得していること 2) 60単位以上を取得していること	全必修科目及び選択必修科目の合計未修得単位数が10未満であること

進級・卒業要件

	3年次	1) 教職科目以外の総単位数が60以上 2) 外国語の単位数が8以上 3) 1)2)を満たさないと進級は認められずが4年次で専門演習は履修できず	なし	1) 1～3年次の所定の必修単位を取得していること 2) 100単位以上取得していること	全必修科目及び選択必修科目の合計未修得単位数が10未満であること
	4年次	—	—	—	1) 全必修科目及び選択必修科目の合計未修得単位数が8未満であること 2) 薬学共用試験(CBT・OSCE)に合格すること
	5年次	—	—	—	全必修科目及び選択必修科目の合計未修得単位数が8未満であること
卒業の要件(単位数)		124	124	124	平成26年度以降入学生225単位 平成25年度以前入学生221単位

### (3) 履修登録単位数の上限

年間履修登録単位数の上限については、次表に示すとおりである。

経営学部では、1年次、2年次、3年次において、前期20単位、後期20単位以内に制限している。

社会学科では、平成23年度入学生以降は通年48単位以下に制限している。

ソフトウェア情報学部では、1～3年次は通年48単位(教職課程履修者は62単位)、4年次(卒業研究履修者)は30単位(教職課程履修者は36単位)となっている。

薬学部では、ほとんどの科目が必修で、年次ごとに履修科目が厳密に指定されているため、年次ごとに単位数が設定されている。

## 7 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

### (1) 校地・校舎面積

校地・校舎面積は、次表のとおりで、校地面積は、大学設置基準上の必要面積の8.62倍の広さで、校舎面積も基準面積を上回っている。

校地・校舎面積

区 分	校地面積	校舎面積 (設置基準：体育施設、寄宿舎、 課外活動施設、薬草園等は含まない)
青森大学①	129,252 m <sup>2</sup>	26,998m <sup>2</sup>
大学設置基準上の基準面積②	15,000 m <sup>2</sup>	15,436m <sup>2</sup>
比較 ③=①÷②	8.62 倍	1.75 倍

### (2) 学習室

次表のとおり、講義室は31室、学生実験室・実習室が49、演習室は13あるなど、

学習室は整備されている。

また、平成 25 年度私立大学等教育研究活性化設備整備事業により整備を行い、「集いのスペース」として、ワークショップルーム 4 室、ミーティングルーム 2 室などを新たに開設した。

#### 講義室、演習室、学生実習室、ワークショップルーム

室 名		室 数
講義室		31
演習室		13
コンピューター演習室		4
学生自習室		6
学生実験室・実習室		49
会議室		4
集いの スペース	ワークショップルーム	4
	ミーティングルーム	2
	調査実習室	1
	教材開発室	1

### (3) 体育施設

本学は、次表のとおり、体育館を 2 館有するなど十分な体育施設があり、体育活動が盛んである。

#### 体育施設

名 称	面 積	仕 様
第一体育館	1,386.0 m <sup>2</sup>	鉄筋 2 階建て
第二体育館 (正徳館)	3,289.9 m <sup>2</sup>	〃
小体育館	596.8 m <sup>2</sup>	
屋内野球場	1,396.5 m <sup>2</sup>	鉄筋平屋建て
相撲道場	159.0 m <sup>2</sup>	木造平屋建て

弓道場	97.0 m <sup>2</sup>	〃
運動場	66,476.9 m <sup>2</sup>	野球場・陸上競技場・サッカー場
テニスコート	2,012.9 m <sup>2</sup>	コート3面
クラブ棟	579.7 m <sup>2</sup>	木造2建て
クラブ室	187.1 m <sup>2</sup>	木造2建て

#### (4) 図書館

附属図書館は、次表のとおり、本館と新館の2館を有し、本館は平日、19時50分まで開館し、学生の利用の便宜を図っている。

##### 附属図書館の概要（平成27年5月1日現在）

面積	2,719 m <sup>2</sup>
座席数	340席
図書館本館開館時間	平日（月～金）8:30～19:50 土曜日 8:30～16:30
図書館新館開館時間	平日（月～金）8:30～16:50 土曜日 閉館
蔵書数（和書）	142,853冊
（洋書）	28,827冊
視聴覚資料（CD、ビデオ、DVDなど）	1,868点
定期刊行物（和雑誌）	110種
（洋雑誌）	5種
（新聞）	8種

#### (5) 教育機器

様々な教育機器が設置されている。薬学部とソフトウェア情報学部が研究用に使用する機器及び全学の情報教育のための機器は、次のとおりである。

##### 研究用機器

1) ルミノ・イメージアナライザー	2) 透過型電子顕微鏡	3) DNA オートシークエンサー	4) NMR
5) 小型分離用超遠心機	6) 高速冷却遠心機	7) 走査型電子顕微鏡	8) リアルタイム定量PCRシステム
9) 質量分析機	10) 蛍光偏光度測定システム	11) ルミネッセンサー	12) 超純水製造装置
13) ディープ・フリーザー (-80℃) (-135℃)	14) 動物飼育キャビネット	15) 全自動散葉分包機	16) 共焦点レーザー顕微鏡
17) 分離用超遠心機	18) 安全キャビネット	19) 水剤調製台	20) 散剤調製台
21) クリーンベンチ5台	22) 吸光・蛍光プレートリーダー	23) プレートウォシャー	24) フリーザー (-30℃)
25) ショークケース (4℃)	26) 旋光光度計	27) 蛍光光度計	28) 吸光光度計
29) ゲル撮影装置	30) HPLC (高速液体クロマトグラフィー)	31) 溶出試験機	32) 崩壊試験機

33) 摩損度試験機	34) 安息角測定機	35) ベネトロメーター	36) スプレッドメータ
37) 粘度計	38) 表面張力計	39) 光試験機	40) 3DCG 開発用ノートパソコン
41) 3次元スキャナー	42) 基盤加工機	43) 切削機	44) ハイビジョンプロジェクタ
45) 電氣的性質測定装置 AIプロッタ	46) ロボット制御用 ノートパソコン	47) X線回折装置	

### 情報教育用機器

1) ドメインコントローラ 1	2) ドメインコントローラ 2	3) ファイルサーバー 1	4) ファイルサーバー 2
5) UNIX サーバー	6) 教育用ロボット 開発キット	7) コンピュータ 57 台 含む教員用 1 台 (A 演習室)	8) コンピュータ 65 台 含む教員用 1 台 (B 演習室)
9) コンピュータ 73 台 含む教員用 1 台 (C 演習室)	10) プロジェクター	11) ネットワーク スイッチ	

### (6) 学生ホール等

学内には、5つの学生ホールとレストランがある。

#### 学生ホール、レストラン数

名 称	室 数
学生ホール (「いこいのラウンジ」を含む)	5
レストラン	1

### (7) 主要施設

本学の主要施設をまとめると、次表のとおりである。

#### 青森大学の主要施設の概要

施設名・号館	延床面積 (m <sup>2</sup> )	階数	主要施設
1・2号館	4,118.5	3	事務局 (教務課・学生課・入試広報課・総務課)・事務局長室
		2	講義室 (5)・演習室 (2)・実習室 (8)・学生ホール・介護実習室・家政調理実習室
3号館	3,163.2	2	事務局 (就職課)・講義室 (9)・演習室 (3)・実習室 (3)・学生ホール (いこいのラウンジ)・研究室・ワークショップルーム (1)・調査実習室 (1)
4号館	2,789.7	3	図書館閲覧室・書庫・講義室 (7)・演習室 (2)・コンピュータールーム・学生ホール
5号館	8,836.2	6	講義室 (7)・研究実験室 (35)・演習室 (1)・コンピュータ演習室 (3)・自習室 (7)・研究室 (薬学部・ソフトウェア情報学部)・会議室
6号館	2,193.7	4	大講義室 (記念ホール)・ワークショップルーム (3)・ミーティングルーム (2)・講義室 (1)・教材開発室 (1)・
7号館	1,424.5	7	演習室 (5)・学長室・研究室・保健室・学生相談室・会議室
8号館B棟	305.1	2	法人本部棟
8号館C棟	289.0	2	法人本部棟
研究室棟 1	379.1	2	研究室
研究室棟 2	1,061.1	3	研究室・会議室
図書館新館	1,053.9	3	閲覧室・事務室・視聴覚室
食堂棟	814.0	3	食堂・学生ラウンジ・売店
小 計	26,428.0		

第一体育館	1,386.0	2	体育館
第二体育館 (正徳館)	3,289.9	2	講堂兼体育館・トレーニングルーム・ミーティングルーム・研修室・研究室
屋内野球場	1,396.5	1	野球練習場
小体育館	596.8	1	剣道場・柔道場・空手道場
相撲道場	159.0	1	相撲道場
弓道場	97.0	1	弓道場
運動場	66,476.9		野球場・陸上競技場・サッカー場
テニスコート	2,012.9		コート3面
クラブ棟	579.7	2	体育部・文化部クラブ室
クラブ室	187.1	2	体育部クラブ室
小計	76,181.8		
寄宿舎	1,371.6	3	男子寮(戸山寮)
合宿所	587.5	2	スポーツ合宿所
教職員宿舎	427.9	2	蛍ヶ丘ハイツ
教職員宿舎	690.9	1	学園ハイツ(10棟)
倉庫	9.0	1	
貯蔵庫	16.6	1	
動物舎	56.3	1	薬学部所属
薬草園	690.0	1	薬学部所属
8号館A	448.2	3	法人本部棟(法人本部事務室・理事長室・会議室)
小計	4,298.0		
合計	106,907.8		

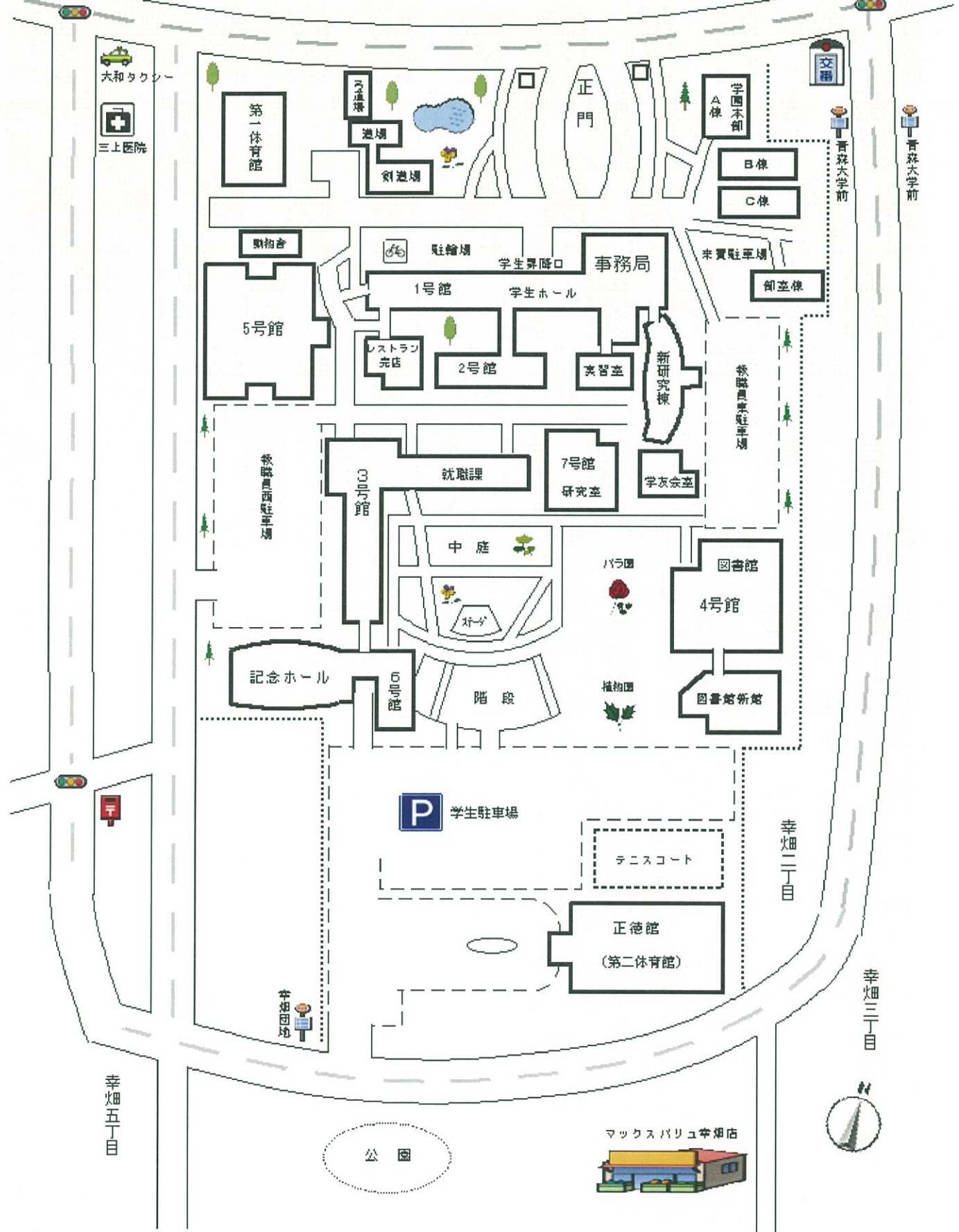
## (8) キャンパス概要

キャンパスは、次の図のとおりで、中央に中庭があるなどゆとりあるものとなっている。キャンパスまでの通学は、バス、自転車、徒歩、自家用車など多様である。

# 青森大学 キャンパスマップ

至る青森市内

至る秋田方面





## 8 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

大学に納付する授業料等は、次のとおりとなっている。なお、入学検定料は、大学入試センター試験利用入試は 15,000 円、それ以外の入試では 30,000 円である。

### 学費及び後援会費等委託徴収金 (単位：円)

区分	項目	年次	経営学部	社会学部	ソフトウェア情報学部	薬学部
			経営学科	社会学科	ソフトウェア情報学科	薬学科
学費	入学金		200,000	200,000	200,000	300,000
	授業料	1	642,000	642,000	1,030,000	1,300,000
		2	642,000	642,000	1,030,000	1,300,000
		3	642,000	642,000	1,030,000	1,300,000
		4	642,000	642,000	1,030,000	1,300,000
		5				1,300,000
		6				1,300,000
	教育充実費	1	300,000	300,000	200,000	465,000
		2	300,000	300,000	200,000	465,000
		3	300,000	300,000	200,000	465,000
		4	300,000	300,000	200,000	465,000
		5				465,000
		6				465,000
	実験実習費	1			30,000	120,000
		2			80,000	120,000
		3			80,000	120,000
		4			80,000	120,000
		5				120,000
		6				120,000
	委託徴収金	1	54,800	54,800	55,500	57,800
		2	50,000	50,000	50,000	50,000
		3	50,000	50,000	50,000	50,000
		4	50,000	50,000	50,000	50,000
		5				50,000
6					50,000	
合計	1	1,196,800	1,196,800	1,515,500	2,242,800	
	2	992,000	992,000	1,360,000	1,935,000	
	3	992,000	992,000	1,360,000	1,935,000	
	4	992,000	992,000	1,360,000	1,935,000	
	5				1,935,000	
	6				1,935,000	

(注) 1 委託徴収金は、学友会費、文化会体育会費、学術研究会費、後援会費、学生教育研究災害障害保険料（1年次のみ）の合計。

2 他に社会学科は3年次に社会調査実習履修の場合4万円、社会福祉学科介護福祉コースは長期実習費として3年次に6万円、薬学部は5ヶ月間の病院・薬局実務実習費として毎年度10万円を別途徴収。

## 9 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

### (1) 学習支援

#### ①入学前教育

推薦入学試験や AO 入学試験で合格した学生は、早く入学が内定するので、高校を卒業するまで長い期間がある。このため、基礎学力アップのため、学部ごとに独自の課題を与えて回答させ、添削した上で返送している。課題を与えるのは、2～3回である。中でも、薬学部においては予備校と提携し、予備校作成の課題を与えて勉強させるなど、入学前教育に力を注いでいる。

#### ②習熟度別のクラス編成

入学直後のオリエンテーションの中で、英語の「基礎学力テスト」を行い、この結果を基に、習熟度別に4クラス程度を設けている。英語の習熟度別クラス編成は、全学部横断で行っている。

#### ③初年次教育の強化

平成25年度より、教養教育を体系的に再編成した「青森大学基礎スタンダード」を開始した。これは、学生が主体的に学ぶことで、「確かな教養」、「実践スキル」と「自己開発力」が身に付くようにしたカリキュラムである。

具体的には、重点科目である「学問のすすめ」、「人間と文化」、「社会と環境」の3科目において、入学直後に学部横断のグループを作り、グループワークなどのアクティブ・ラーニングの手法により授業を行い、設定されたテーマごとに、学生達がパワーポイントや模造紙を使用したプレゼンテーションを行うなどして、「大学での学び」をいち早く身に付けることができる、というものである。

この重点科目を修得することにより、重点科目以外の基礎スタンダード科目や専門科目に対しても、主体的に学ぶことができるようになる。

#### ④基礎学力の強化

基礎スタンダード科目の重点科目以外においても、文系学部では文章能力の養成、理系学部では数学などの基礎学力の養成を行っている。

その他にも、特に薬学部では、化学、物理学、数学などの基礎科目に関する学力が十分ではない学生のために、フォローアップ授業を行い、基礎学力の強化に努めている。

#### ⑤情報教育

基礎スタンダード科目の中に「情報リテラシー」、「情報の集計・分析」といった「情報スキル」科目を用意し、全学的に情報教育に力を入れている。合計195台(教員用の3台を含む)が入るコンピュータ演習室を3つ用意し、授業に使用している。空いている時間は、学生が自由に使えるように開放している。

#### ⑥資格試験に対する支援

経営学部では、中学校教諭一種免許状(保健体育)及び高等学校教諭一種(保健体育、商業)、ITパスポート試験(国家試験)、簿記検定(日商:1級～3級)、販売

士検定、日本体育協会公認スポーツリーダー及びスポーツ指導員の資格取得が可能である。

社会学部では、中学校教諭一種免許状（社会）、高等学校教諭一種免許状（公民）、社会調査士、司書、日本体育協会公認スポーツリーダー及びスポーツ指導員、社会福祉士（国家試験受験資格）、精神保健福祉士（国家試験受験資格）、社会教育主事（任用資格）、社会福祉主事（任用資格）、児童指導員（任用資格）、知的障害者福祉司（任用資格）、身体障害者福祉司（任用資格）の資格取得が可能である。

ソフトウェア情報学部では、中学校教諭一種免許状（数学）、高等学校教諭一種免許状（数学、情報）、基本情報技術者試験（国家試験）、CG 検定、CAD 利用技術者試験などの資格取得が可能である。

薬学部では、薬剤師国家試験受験資格の取得が可能である。

以上のような資格試験の取得に対して、各学部の教員が精力的な支援を行っている。

#### ⑦学生の意見聴取

携帯電話を利用して、学生による授業アンケートを実施している。このアンケートは、講義に対する学生の意見を集約して授業の改善に役立てているものである。

#### ⑧留学生支援

留学生を支援するために「留学生総合支援局」を設け、この下に留学生奨学金選考班、留学生学業支援班、留学生生活支援班、留学生就職支援班などを置いている。これらの班で、留学生の教育・生活指導等を行っている。

留学生に対しては、日本語担当教員（日本語を担当する専任教員）1 人を配置して、日本語教育を行っている。今後、留学生が増加すれば、日本語担当教員を増員していく。

## （2）学生サービス

### ① 学生サービスのための組織

学生サービス、厚生補導、生活指導は、事務局の学生課が担当しており、通常のサービスはもとより、問題事項が発生したときはいち早く対応している。教員組織としては、学生委員会が組織されており、学生サービス・指導を全学的に行っている。

### ② 教員の相談窓口

全学部において「オフィスアワー」を設けている。年度初めに、オフィスアワー一覧表を作成して掲示している。各教員の研究室の扉には、オフィスアワーの時間が明記されている。

ソフトウェア情報学部では「学習アドバイザー」制を、社会学部と薬学部では「担任制」を設けており、経営学部ではゼミ担当教員が担任の役割をしている。これらの学部の教員は、講義のない時間は大部分研究室にいたので、学生は研究室を訪ね

随時相談している。

### (3) 経済的な支援

① 経済的な理由で修学困難な学生に対して、本学独自に3つの奨学制度がある。一つは、「経済特待」と称するもので、勉学に強い意欲がありながら、経済的な理由で修学するのが困難な学生に対して、4年間（薬学部は6年間）授業料を半額免除する制度で、平成19(2007)年から発足させている。申請には保護者の所得証明、学校長の推薦書などを提出させ、これらの書類審査と本人との面談を行い、経済特待生選考会議において決定している。この免除制度には返還義務はない。この制度に応募するものは、まず日本学生支援機構等から奨学金を借りて、その上なお経済的に困難な場合に申請するよう指導している。

また、毎年、学業の状況、家庭の経済状況等について確認し、継続するかどうか判断している。

② もう一つは、「学業特待」と称するもので、入学試験の成績優秀な者に対して授業料半額免除又は全額免除の恩典を与えている。原則として4年間（薬学部は6年間）免除とするが、毎年の審査により、在学中の成績が著しく低下した場合には取り消す場合もある。

③ 平成24年度に後援会が設置した「後援会奨学基金」と称するもので、経済的な理由により学業継続困難となった学生に対し、後援会から貸与している。卒業後1年間は無利子で貸与している。金額は10万円から上限30万円の間である。

④ ほかに、日本学生支援機構から支給される奨学金があり、これを利用している学生は多い。無利子のものは、枠が制限されているが、有利子のものは希望者にほぼ全員貸与されている。金額は月額3万円から14万円（薬学部）の間である。

注：保護者のリストラ、病気、死亡などにより、学費を払えなくなる学生が毎年いる。この場合は、申請書を提出させて一定の期間学費の延納を認めている。また、経済特待の奨学金制度に応募させて認めることも行っている。

奨学金制度の利用状況

年度	経済特待制度	学業特待制度	日本学生支援機構奨学金	後援会奨学基金
平成23年	139人	29人	591人	
平成24年	175人	40人	602人	0名
平成25年	187人	47人	644人	1名
平成26年	193人	75人	613人	0名

### (4) 学生の課外活動への支援

① 学生の課外活動は、学友会を中心に行われている。学友会は、正会員（学部学生）と特別会員（教員と事務職員）から構成されている。特別会員は、学生に適切な助

言を与える役割を担っている。

- ② 学友会には、体育会と文化会が存在する。体育会には 19 の部と 5 のサークルが、文化会には 13 の部と 3 のサークルが存在する。体育会の部では、部長（教職員）、監督、コーチが指導に当たっている。文化会の部には、顧問（教職員）が配置され指導に当たっている。また、体育会・文化会の各サークルにも顧問（教職員）を配置している。

年度はじめに、各部・サークルに対して、活動上の必要経費を配分している。大学祭の開催においては、上記の経費とは別に、各団体に必要経費を配分している。

- ③ 毎年、各学部でスポーツ大会を行い、教員と学生の親睦を図っている。

また、毎年、図書委員会主催で読書感想文コンクールを行い、学生に本を読んだ感想文を書かせ、これを教員が評価して上位数名に学長賞を授与している。

#### （5）学生に対する健康相談、心的支援、生活指導等

- ① 毎年、全学生を対象に健康診断を行っている。

- ② 心的問題で悩む学生には、まず担任教員と学生課事務職員が対応し、必要な場合は社会福祉学科の精神保健福祉士の資格をもつ教員が相談に応じている。さらに必要な場合には、大学の近くにある心療内科の診断・指導を受けるよう指導しているほか、定期的（毎月 1 回）に学生相談室を開設し、精神保健福祉士によるカウンセリング（年 4 回）心理カウンセラーによる学生相談室を毎月実施している。

- ③ 学生の健康相談は、看護師が常駐している保健室で行っている。

- ④ 学生の相談窓口は、学生課が行っている。また、各学部では担任教員あるいはゼミ担当教員が学生の相談に親身に応じている。

#### （6）学生の進路選択支援

- ① 学生への就職支援は、就職委員会で決定した方策をもとに事務局の就職課が就職ガイダンス実施や面接指導などの実務に取り組むという体制で行っている。

就職課は、専用の部屋を持ち、担当職員が常時在室して親身に学生の就職相談に応じている。就職活動の相談や悩み等は担任教員やゼミ担当教員が対応している。

就職支援室には、会社求人資料、公務員募集要項、資格取得資料などが整備されており、学生は自由に利用できるようになっている。

- ② 就職指導に関する年間スケジュール及び実施については、外部会社や団体、行政機関と連携しながら、次表のとおり、組み立てており、学年に応じた緻密な対応を行っている。1 年次、2 年次においては、早くから就職に関する意欲を醸成する必要から、「キャリアデザイン」の講義を開講し、業界研究、コミュニケーション能力育成、問題解決方法などを習得させている。3 年次においては、具体的な就職活動方法や会社・公務員への受験対策、面接対策を行い、3 年次の後半には就職活動準備が完了している。

## 平成 27 年度就職指導年間スケジュール

就職課

月	1 年	2 年	3 年	4 年
4 月	新入生オリエンテーション 4 月～7 月 キャリアデザイン（4 年間をどう過ごすのか／課題解決型インターンシップ）	在学生ガイダンス（進路登録）	在学生ガイダンス（進路登録） 4 月～7 月 就職活動実践演習（自分を活かせる企業を把握する） ・企業研究と自己 PR ・25 年後の自分と日本	在学生ガイダンス 個別企業説明会〔4 月〕
5 月			・業界研究会①～③	教員採用試験ガイダンス
6 月	インターンシップ説明会	インターンシップ説明会	インターンシップ説明会	
7 月	あおもり検定試験 就職アンケート調査	あおもり検定試験 就職アンケート調査	あおもり検定試験 就職アンケート調査	あおもり検定試験 内定獲得塾 業界別個別企業説明会〔7 月〕
8 月				
9 月	しごとカフェ①～⑥（職種研究） 公務員対策講座	しごとカフェ①～⑥（職種研究） 公務員対策講座 9 月～1 月 キャリアデザイン（自分と社会との関わり） ・先輩との座談会①②	しごとカフェ①～⑥（職種研究） 公務員対策講座開始 9 月～1 月 就職活動実践演習（就活突破力を体得） ・エントリーシート履歴書①②	
10 月		・SPI 試験対策①② ・一般常識試験対策	・模擬面接①② ・内定者報告会	東北私大合同 企業セミナー
11 月		・ビジネスマナー①② ・面接演習①②		
12 月		・ライフプラン設計	合同企業セミナー〔12 月〕	合同企業セミナー〔12 月〕
1 月				
2 月			就活キックオフ	
3 月			合同企業説明会〔3 月〕	

### 10 教育上の目的に応じ学生が習得すべき知識及び能力に関する情報に係わること

- (1) 履修モデルについては、毎年度高校等関係機関に幅広く配布している「大学案内」に学科ごとに示している。
- (2) 主要科目の特長や、科目ごとの目標等については、これらを盛り込んだシラバスを本学ホームページで学科、学年別に掲載している。

# 社会学部

氏名 藤林正雄 (FUJIBAYASHI Masao)

所属 社会部社会福祉学科

職名 教授

生年月日 1956年5月11日

[履 歴]

[学歴]

1979年3月 東北福祉大学社会福祉学部福祉心理学科卒業

[学位]

社会学士

[職歴]

1979年5月 布施病院精神科ソーシャルワーカー

2000年4月 医療法人社団清泉会 精神障害者地域生活支援センター施設長(兼精神保健福祉士)

青森大学社会学部社会福祉学科非常勤講師

「精神科リハビリテーション学」

2002年4月 青森大学社会学部社会福祉学科助教授

2007年4月 青森大学社会学部社会福祉学科教授

2015年4月～ 青森大学社会学部社会学科教授

2011年～現在 青森市高等看護学院非常勤講師 「精神保健」(精神看護概論)

[受 賞]

[所属学会]

日本精神保健福祉士協会・学会、日本マイクロカウンセリング学会、日本老年行動科学会、東北精神保健福祉学会

[教育活動]

[担当科目]

精神保健福祉援助精神保健福祉援助実習指導演習(専門)Ⅰ、精神保健福祉援助演習(専門)Ⅱ、精神保健福祉援助実習指導Ⅰ、精神保健福祉援助実習指導Ⅱ、精神保健福祉援助実習指導Ⅲ、精神保健福祉援助実習、精神保健福祉相談援助の基盤(基礎)、精神保健福祉相談援助の基盤(専門)、低所得者に対する支援と生活保護制度、社会福祉学演習Ⅴ・Ⅵ、精神保健(教職科目)

[卒業研究指導]

2009年 卒業論文指導：3名

2013年 卒業論文指導Ⅰ：1名

[ゼミ指導]

2009年 3年ゼミ3名、

2015年 社会学演習Ⅴ・Ⅵ 5名

[教育指導に関する特記事項]

- 1,社会福祉士・精神保健福祉士国家試験支援のため、補講・指導を行っている。
- 2,就職活動、対人関係の悩みなど学生からの相談に応じ支援をしている。
- 3,入学予定者へのレポート課題に対する指導を行っている。
- 4,学生募集のためのオープンキャンパス・大学見学会で、モデル授業を行っている。

[研究活動]

[研究テーマ]

- (1) 精神保健福祉援助実習の効果的な学習のために実習前、実習中、実習後の指導に



ついて現場実習指導者アンケート、学生アンケート、社会福祉援助技術実習指導との比較から研究している。

(2) 精神保健福祉士の援助技術として基礎となる効果的なコミュニケーションの方法、面接技法に関について、加えて援助関係構築の条件を関係のプロセスから研究している。

(3) メンタルヘルス、特にストレスと心理的不調関係性とその軽減の方法について研究している。これまで、心の健康アンケート調査、ケアマネージャーのバーンアウト等を報告している。

(4) 精神保健福祉ボランティアの育成、特にボランティア育成の契機となる効果的な学習プログラムに関する研究とボランティア活動の継続に必要な条件について研究している。

また、自殺予防のための傾聴講座を効果的に教授するためのプログラムづくりの研究もしている。

(5) 電話相談を効果的に実施し継続するための方法及び相談員育成と継続的学習、特に自殺予防としての電話相談の効果について研究している。

#### [著書、論文、総説]

・日本精神保健福祉士協会編集・分担執筆「バウンダリーを理解する」第8巻精神保健福祉士援助演習(基礎・専門)2012 中央法規 p128-131

・日本精神保健福祉士協会編集・分担執筆「逆抵抗の防止」第8巻精神保健福祉士援助演習(基礎・専門)2012 中央法規 p132-135

・藤林正雄、田中志子、佐々木てる「鶴田町心の健康調査報告書」鶴田町 2013.3

・藤林正雄、田中志子、佐々木てる、宮川愛子「鶴田町心の健康調査報告書」ダイジェスト版 鶴田町 2014.2

#### [研究費の取得状況]

#### [その他の活動]

##### [出張講義]

2011年10月25日・28日 ストレスと上手に付き合う～自殺予防のために～  
中泊町

2011年12月20日 認知症への接し方・地域で支える 認知症サポーター研修  
むつ市

2011年12月22日 ストレスに対処する法 青森県障害者職業センター

2012年3月29日 相談技法 ほのぼの交流事業 平内町

2012年4月20日 人間関係で悩まないために 青森大学オープンカレッジ

2012年9月20日・21日 人間関係とストレス 職員研修 (社福)つくし会

2012年12月15日 人間関係力(コミュニケーション能力)を高めるために 鹿角市教育委員会

2013年3月1日 ゲートキーパーについて おいらせ町

2013年10月16日・18日 「傾聴を学ぶ」(2回) 青森市男女共同参画プラザカダール

2013年11月13日 「趣味を持つこととストレス対処」 青森市戸山市民センター

2013年12月10日 「傾聴について」 青森県長寿社会振興センター シニアカレッジ

2013年12月11日 「人間関係で悩まないために」 五所川原市地域包括支援センター

2014年1月28日 「人間関係で悩まないために」 青森市大野市民センター

2014年2月18日・25日・3月7日・18日・4月22日 (5回) スーパービジョン研修  
NPO 法人ほほえみの会

2014年5月31日 「傾聴講座」 青森市男女共同参画プラザ・カダール

2014年10月30日 「人間関係の持ち方、傾聴を学ぶ」 青森大学オープンカレッジ

2014年12月10日 「人間関係で悩まないために」 深浦町学校保健会

2014年11月30日「傾聴力UP実践講座」青森市男女共同参画プラザ・カダール  
 [公開講座、講演、ゼミナー]

2011年4月23日 傾聴研修会 ADRG 研修会（青森県歯科医師研究会）

2011年6月25日 精神医療の歴史と精神保健福祉法 青森県精神科看護技術協会

2011年7月1日・7月26日 傾聴について つがる市保健師研修 つがる市

2011年7月29日・8月16日・9月15日 介護基礎講習講師 きらら弘前

2011年7月30日 プライバシーと人権、ボランティア 精神保健福祉ボランティアエールの会

2011年8月24日 精神障害を抱えた知的障害者への支援 りんどう園（浪岡）

2011年8月27日・9月17日・10月29日・11月19日・12月17日 傾聴講座 精神保健福祉ボランティアエールの会

2011年9月13日・9月27日・10月7日 社会福祉主事講習講師 青森県

2011年9月18日 精神保健福祉士基幹研修Ⅲ専門性 日本精神保健福祉士協会

2011年10月22日 精神保健福祉士のこれまでの10年・これからの10年 福島県精神保健福祉士協会 10周年記念講演

2011年11月15日・29日・12月13日・2012年1月17日・2月21日・3月13日 傾聴講座 野辺地町

2011年11月22日 相談技法研修会講師（民生・児童委員対象）青森県社会福祉協議会

2011年12月9日 苦情事例研修会 青森県福祉サービス第三者評価推進委員会

2011年12月10日 福祉サービス第三者評価調査者継続研修 講師 青森県福祉サービス第三者評価推進委員会

2012年3月12日 いのちの電話の活動 鶴田町傾聴講座 鶴田町

2012年6月23日 精神医療の歴史と精神保健福祉法 青森県精神科看護技術協会

2012年6月29日・8月3日・9月25日 介護基礎講習講師 きらら弘前

2012年7月17日・31日・8月28日・9月4日・18日・10月9日 傾聴ボランティア養成講座 平川市

2012年10月12日 精神障害（者）の理解 青森県弁護士会

2013年1月22日 苦情事例研修会 青森県福祉サービス第三者評価推進委員会

2013年2月3日 福祉サービス第三者評価調査者継続研修 講師 青森県福祉サービス第三者評価推進委員会

2013年2月12日・19日・26日 鶴田町傾聴ボランティア養成講座講師 鶴田町

2013年3月3日 「いまこそ手を携えてあおもり県」シンポジウム・コーディネーター 青森県自殺対策に係る民間団体ネットワーク構築事業 青森県精神保健福祉ボランティア団体連絡会

2013年5月31日・6月7日・11日・18日・28日 7月12日 藤崎町 傾聴講座（6回）

2013年6月24日 青森県社会福祉協議会 市民後見フォローアップ研修

2013年6月29日 精神医療の歴史と精神保健福祉法 日本精神科看護技術協会青森県支部研修会

2013年7月9日 ゲートキーパー研修 五所川原市

2013年10月12日 自殺予防フォーラム パネリスト 五所川原市

2013年10月22日・29日 ゲートキーパー研修・傾聴講座 おいらせ町

2013年11月20日 「自立した生活を目指して～福祉制度を利用した自立のために～」青森県精神障害者家族会連合会中弘南黒地区交流学习会

2013年11月23日 「傾聴を学ぶ」 気仙沼市市民健康管理センター 内閣府

2013年11月26日・12月6日・24日「傾聴講座」(3回) 七戸町  
 2013年12月5日 「精神障害者の理解」市民後見人養成研修 青い森ネット  
 2013年12月8日 「傾聴の仕方を学ぶ」メンタルハート八郎潟  
 2013年12月19日 「傾聴を学ぶ」青森県歯科医師会  
 2014年2月14日 窓口担当者連絡会議 七戸町 傾聴と行政の役割・コメンテーター  
 2014年3月5日 鶴田町自殺予防講演会 パネリスト 鶴田町  
 2014年3月23日 福祉サービス第三者評価調査者継続研修 利用者調査・福祉サービスの基本方針と組織 青森県社会福祉協議会  
 2014年5月24日 精神医療の歴史と精神保健福祉法 日本精神科看護技術協会青森県支部研修会  
 2014年5月27日・29日 社会福祉主事認定講習「ケースワーク論」「ケースワーク演習」青森県立保健大学  
 2014年6月10日・17日・19日・26日・7月3日・17日「自殺予防 傾聴講座」藤崎町  
 2014年7月2日「企業でのゲートキーパー」十和田市「スマイルラボ」  
 2014年7月28日「苦情対応のためのコミュニケーション技術の向上を目指して」青森県社会福祉協議会  
 2014年8月26日「苦情解決のためのコミュニケーション」和幸園  
 2014年9月12日「傾聴講座フォローアップ」鶴田町  
 2014年9月19日「精神保健福祉法改正の現状と問題点」青森県精神科病院協会・青森県精神科診療所会  
 2014年9月25日・30日「町職員対象ゲートキーパー研修会」七戸町  
 2014年10月2日・7日・14日「ゲートキーパー研修会」五所川原市  
 2014年10月21日・30日・12月20日「ゲートキーパー研修会」七戸町  
 2014年10月21日・30日・12月13日・26日1月8日「自殺予防傾聴講座」野辺地町  
 2014年11月13日「ゲートキーパー養成講座」青森市保健所  
 2014年11月18日「ストレスへの対処」正寿園  
 2014年11月28日「民生児童委員相談技法研修会」～相談援助技術～青森県社会福祉協議会  
 2014年12月4日・16日・25日「自殺予防傾聴講座」中泊町  
 2014年12月24日・1月13日・15日・27日・2月3日・10日「自殺予防のための傾聴講座」黒石市  
 2015年1月29日「傾聴技法」青森県犯罪被害者支援センター  
 2015年3月17日「ゲートキーパー研修会～医療関係者のための～」藤崎町  
 [学内各種委員]  
 2011年～2014年度  
 倫理・社会調査委員会、留学生支援委員会、将来検討委員会、入試委員会(社会学部)、学生募集連絡会、社会福祉学科国家試験対策委員会、社会学部教務委員会  
 [学外各種委員]  
 青森県精神医療審査会委員  
 青森県運営適正化委員会委員(苦情解決部会)  
 青森県福祉サービス第三者評価調査推進委員会委員  
 青森県精神保健福祉会評議員  
 社会福祉法人花理事及び評議員  
 青森県精神保健福祉士協会理事  
 NPO法人あおもりのちの電話理事(研修委員)

医療観察法参与員

福祉サービス第三者評価調査者

地域密着型サービス外部評価審査委員会委員

つがる地域障害者自立支援協議会委員

名 佐藤 豊 (SATO Yutaka)

所属 社会学部社会学科

職名 教授 (社会学部 学科長)

生年月日 1952 年 8 月 27 日

[履歴]

[学歴]

1981年3月 東京都立大学経済学部経済学科卒業

1985年3月 東京都立大学人文学部仏文科卒業

1993年3月 学習院大学人文科学研究科イギリス文学後期課程満期退学

[学位]

文学修士

[職歴]

1971年 株式会社 弥生工業入社

1975年 明治薬科大学学生課勤務

1979年 株式会社農林出版編集部入社

1982年 桐光学園中学高等学校勤務

1993年 青森大学社会学部社会学科専任講師

1999年 青森大学社会学部社会学科助教授

2002年 青森大学社会学部社会学科教授 (現在に至る)

[所属学会]

日本比較文化学会 (役員)

[教育活動]

[担当科目] 英語 I・II (経営学科、社会学科、ソフトウェア情報学科、薬学科)、英語 III (選択英語)、社会学演習 V・VI、就職活動実践演習 A・B

[学生指導に関する特記事項]

1. バスケットサークル顧問

[研究活動]

[研究テーマ]

(1) 英語教育

(2) イギリス古典派詩人ジョン・ドライデン

[著書]

1. 『古典・聖書・文学基礎事典』 A.H.ラス、共訳、1992年7月、北星堂.

2. 『雌鹿と豹』 (ジョン・ドライデン)、単訳、1994年3月、『研究紀要』 (青森大学・青森短期大学)

3. 『地球からの手紙』 (マーク・トウエイン)、共訳、1995年5月、彩流社

4. 『ミステリアス・ストレンジャー44号』 (マーク・トウエイン)、共訳、1995年9月、彩流社.

5. 『アメリカ教養辞典』、共訳、1995年9月、丸善株式会社.

6. 『ウォルター・スコット伝』 共訳、2001年5月、彩流社.

7. 『平信徒の宗教』 (ジョン・ドライデン)、翻訳、2010年7月、『研究紀要』 (青森大学・青森短期大学)

8. 『メダル：扇動に反対する諷刺』 (ジョン・ドライデン)、翻訳、2011年7月、『研究紀要』 (青森大学・青森短期大学)

9. 『ドライデン 『平信徒の宗教』 とメダル—近代イギリス史の中の詩と政治』、単著、

2012年12月.

10.『イギリス文化事典』(一部執筆担当)、2014年11月、丸善出版.

[論文]

- 1.「ポープとヴォルテール」、単著、1990年11月、学習院大学英文学会誌.
- 2.「ポープの『人間論』—オプティミズムとその周辺」、単著、1991年3月、学習院大学文学部年報.
3. ドライデン『平信徒の宗教』を読む①」、単著、1994年2月、『構築』第九号.
- 4.「スコットの歴史小説と大陸への影響」、単著、1997年11月、『研究紀要』(青森大学・青森短期大学)
- 5.「ブレイクの悪魔像」、単著、2001年2月、『研究紀要』(青森大学・青森短期大学)
- 6.「ポープとブレイク」、単著、2002年3月、『研究紀要』(青森大学・青森短期大学)
- 7.「ポープとブラックモア」、単著、2003年3月、『研究紀要』(青森大学・青森短期大学)
- 8.「ポープの『人間論』と大陸への影響」、単著、2004年4月、『構築』第15号.
- 9.「ポープとサミュエルソン」、単著、2005年7月、『研究紀要』(青森大学・青森短期大学)
- 10.「ドライデンの『平信徒の宗教』を読む②—フランスの影響から見たドライデンの宗教観」、『構築』2007年3月17号 単著
- 11.「古典作家を通してドライデンの『アブサロムとアキトフェル』を読む」、単著、2008年3月、東北英文学会『Proceedings(第60大会)』.
12. Reading The Duke of Guise written by John Dryden and Nathaniel Lee - A Literary Work Where Two Big Parties Stand in Opposition -, 単著、2009年7月、研究紀要(青森大学・青森短期大学)第32巻第1号.
- 13.「英国二大政党のせめぎ合いの中の文学とは」、単著、2010年11月、「文学の万華鏡」(れんが書房新社)所収.
- 14.「メダルの表裏に描かれた事実とは何か—ドライデン『メダル』を読む」、単著、2012年3月、「ヘルメスたちの饗宴」(音羽書房鶴見書店)所収.

[学会発表]

- 1.「ブレイクと悪魔像」、東北英文学会シンポジウム(場所:福島大学)、2000年11月.
- 2.「ポープとブレイク」、イギリスロマン派学会全国大会(場所:札幌大学)、2001年11月.
- 3.「ポープとブラックモア」、東北英文学会(場所:東北大学)、2002年11月.
- 4.「ポープと『人間論』と大陸への影響」、日本比較文学東北・北海道支部大会(場所:福島大学)、2003年12月.
- 5.「ポープとサミュエルソン」、日本英文学会(場所:日本大学文理学部)、2005年5月.
- 6.「ドライデンの『平信徒の宗教』—大陸の影響から読み直す」、日本比較文学会東北支部大会(場所:福島大学)、2006年11月.
- 7.「古典作家を通してドライデンの『アブサロムとアキトフェル』を読む」、東北英文学会(場所:山形大学)、2007年11月18日.
- 8.「ドライデン・リー合作『ギーズ公爵』(悲劇)を読む—二大政党のせめぎ合いの中の文学—」、日本比較文化学会 東北支部・関東支部合同発表会(場所:弘前学院大学)2008年11月.
- 9.「ドライデンと物理神学(physico-theology)について」、日本比較文化学会東北支部大会(場所:弘前学院大学)、2009年10月.
- 10.「英語の授業で映画制作にチャレンジ」、日本比較文化学会東北支部大会(場所:弘前学院大学)、2014年3月.

[その他の活動]

[学内各種委員]

1. 社会学部 就職委員、
2. 学習支援センターミニセミナー担当
3. 語学関係の委員

氏名 安藤 清美 (ANDO Kiyomi)

所属 社会学部社会学科

職名 教授

生年月日 1962年4月26日

[履歴]

[学歴]

1987年3月 亜細亜大学法学部法律学科卒業

1994年3月 亜細亜大学大学院法学研究科博士前期課程修了

1998年3月 帝京大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得満期退学

[学位]

法学修士

[職歴]

1987年4月～1989年3月 NTT System Service(株)第1システム部

1989年4月～現在 (有)安藤建設取締役

1997年9月 教員組織審査 青森中央学院大学経営法学部専任講師

(民法総則、基礎演習、専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、外書講読)

1998年4月～2004年3月 青森中央学院大学経営法学部専任講師

(民法総則、親族相続法、債権各論、基礎演習、専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、外書講読)

2002年11月 教員組織審査 ○合 (家族法特論)

～現在 弘前学院大学大学院社会福祉学研究科人間福祉専攻兼任講師

(家族法特論、2009年度より社会福祉法制特論)

2003年11月 教員組織審査 東京法科大学院助教授○合 (家族法、演習)

2004年4月～2010年3月 青森大学社会学部社会福祉学科准教授

2010年4月～現在 青森大学社会学部社会福祉学科教授

2000年9月～2001年3月 中央大学法学部通信教育部非常勤講師 (民法)

2001年4月～2004年3月 弘前大学人文学部非常勤講師 (家族法)

2001年4月～2003年3月 青森公立大学経営経済学部非常勤講師 (民法)

2004年9月～2006年3月 青森県営農大学校非常勤講師 (法学)

[所属学会]

日本私法学会、日本家族〈社会と法〉学会、青森法学会

[教育活動]

[担当科目]

法学 (国際法含む)、日本国憲法、権利擁護と成年後見制度、社会学演習Ⅴ、Ⅵ

[卒業研究指導]

[ゼミ指導]

2009年度 4年ゼミ

2010年度 4年ゼミ

2011年度 4年ゼミ

2012年度 4年ゼミ、2年ゼミ

2015年度 4年ゼミ

[教育指導に関する特記事項]

1. 社会福祉士国家試験支援のため、特講を行っている。
2. 社会福祉士国家試験・公務員試験・教員採用試験等を目指す学生は勿論、就職試験対策としても有用となるよう、過去問や法学検定試験4級・3級問題を中心とした小テスト



を実施している。

3. 法学部生ではない学生が理解しやすいよう、ポイントや重要判例等につき、毎回レジュメを作成し配布している。

#### [研究活動]

##### [研究テーマ]

- (1) 遺言の方式
- (2) 選択的夫婦別氏制
- (3) 医療過誤

#### [著書、論文、総説]

##### 著書

1. 『民法総則・親族相続法 24 講』 文教出版会（東京）2001 年
2. 『入門 民法総則』 法学書院（東京）2015 年

##### 主な論文

1. 「夫婦間の日常家事債務と代理権の有無」『銀行法務 21』第 527 号（経済法令研究会）
  2. 「英国における遺言の方式について」『青森中央学院大学研究紀要』創刊号
  3. 「遺言を撤回する遺言を更に別の遺言をもって撤回した場合と当初の遺言の効力の復活」『青森中央学院大学研究紀要』創刊号
4. 「近時における自筆証書遺言の方式をめぐる判例の動向」『法律のひろば』第 54 巻第 11 号(ぎょうせい)
5. 「陣痛促進剤投与による過強陣痛により生じた胎児仮死について、分娩監視義務を怠った過失があるとして、病院側の不法行為責任が認められた事例」『青森大学・青森短期大学研究紀要』第 27 巻第 1 号
6. 「豊胸手術の際に切開位置を誤った過失が認められ、これによる慰謝料等の損害賠償請求が認容された事例」『青森大学・青森短期大学研究紀要』第 29 巻第 1 号
7. 「選択的夫婦別氏制に関する一考察」『青森大学・青森短期大学研究紀要』第 32 巻第 1 号
8. 「自筆証書遺言の方式に関する一考察 - 遺言能力をも視野に入れて - 」『青森大学・青森短期大学研究紀要』第 33 巻第 3 号

##### [その他の活動]

#### [公開講座、講演、セミナー]

1. 民法学の立場から福祉を考える「遺言」  
青森大学オープンカレッジ市民大学（2006 年 6 月 2 日）
2. 平成 18 年度社会福祉主事資格認定講習会「民法」  
青森県立保健大学（2006 年後期 2 回）
3. 民法学の立場から福祉を考える「夫婦別姓・遺言」  
平川市・創年アカデミー（2007 年 1 月 25 日）
4. 身近な法律 - 夫婦別姓・医療過誤 -  
(社)青森県社交ダンス教師協会定期研修会（2007 年 1 月 28 日）
5. 民法学の立場から福祉を考える「夫婦別姓」  
青森大学オープンカレッジ市民大学（2007 年 9 月 28 日）
6. 法と裁判 - 裁判員制度を中心として -  
青森大学オープンカレッジ市民大学（2008 年 6 月 27 日）
7. 民法学の立場から福祉を考える「夫婦別姓、遺言」  
五所川原市教育委員会・寿大学（2008 年 9 月 25 日）
8. 知っておきたい相続の概要

青森大学オープンカレッジ市民大学（2009年7月10日）

9. 身近な法律～遺言の知識

社団法人青森県高齢・障害者雇用支援協会（2009年11月20日）

10. 遺言の書き方と手続き

青森大学オープンカレッジ市民大学（2010年9月17日）

11. 民法学の立場から福祉を考える - 夫婦別姓、遺言 -

平川市（2012年7月26日）

12. 権利擁護と成年後見制度 - 個人の尊厳を支え、権利を擁護すること -

平成25年度青森県社会福祉協議会市民後見人登録者研修会

社会福祉法人 青森県社会福祉協議会（2013年10月28日）

13. 民法学の立場から福祉を考える - 遺言 -

五戸町教育委員会・五戸町民大学講座（2014年2月21日）

【学内各種委員】

学術研究会（2004年4月1日～現在）

ハラスメント防止対策委員会委員（2004年4月1日～現在）

教務委員会委員（2005年4月1日～2007年3月31日）

就職委員会委員（2011年4月1日～現在）

組換えDNA実験安全委員会委員（2013年4月1日～現在）

医の倫理委員会委員（2014年～現在）

入学試験作題委員・採点委員（2006年度 現代社会、2009年度 小論文、  
2012年度 現代社会、2013年度 現代社会）

【学外各種委員】

青森県情報公開審査会委員（2000年1月～2006年1月）

青森県介護等体験実施連絡協議会委員（2000年9月1日～2002年8月31日）

青森家庭裁判所委員会委員（2002年6月1日～2008年5月31日）

青森県土地収用事業認定審議会委員（副会長）（2002年7月10日～2012年7月9日）

研究誌論文審査委員（青森法学会）（2009年～現在）

青森山田高校野球部死亡事故調査委員会委員（2012年）

氏名 柏谷 至 (KASHIWAYA Itaru)

所属 社会学部社会学科

職種 教授・地域貢献センター長

生年月日 1966年6月22日

【履 歴】

【学 歴】

1989年3月 筑波大学第1学群社会学類卒業

1989年4月 筑波大学大学院社会科学研究所社会学専攻入学(5年一貫制)

1991年3月 同研究科に中間評価論文を提出。社会学修士号を取得

1996年3月 同研究科単位取得退学

【学 位】

社会学修士

【職 歴】

1992年4月 日本学術振興会特別研究員(1994年3月まで)

1992年4月 茨城県きぬ看護専門学校 非常勤講師(担当科目:社会学・社会病理、1997年3月まで)

1996年8月 筑波大学文部技官(社会科学系担当・準研究員。1999年2月まで)

1997年4月 流通経済大学社会学部非常勤講師(担当科目:環境社会学。1999年3月まで)

1999年3月 筑波大学社会科学系助手(同年3月31日まで)

1999年4月 青森大学社会学部専任講師

2000年4月 青森公立大学非常勤講師(担当科目:社会と人間。2004年9月まで)

2003年4月 青森大学大学院環境科学研究科を兼務(2013年3月まで)

2006年4月 青森大学社会学部助教授

2007年4月 青森大学社会学部准教授

2012年4月 青森大学社会学部教授(現在に至る)。社会学科長(2013年3月まで)

2012年12月 青森大学地域貢献センター長(現在に至る)

【受 賞】

特になし

【所属学会】

環境社会学会

【教育活動】

【担当科目】(2014年度)

(社会学科) 社会調査論I・II、環境社会学I・II(複数教員で分担)、社会調査実習(基礎スタンダード科目) 地域貢献基礎演習(コーディネータ)

【卒業研究指導】(過去5年間)

社会学科 2012年度卒業研究: 6名

2011年度卒業研究: 14名

2010年度卒業研究: 13名

大学院 2010年度修士論文指導: 2名

【ゼミ指導】(過去5年間)

社会学科 2012年度: 17名(3年生11名・4年生6名)

2011年度: 26名(3年生13名・4年生13名)

2010年度: 26名(3年生13名・4年生13名)

大学院 2010年度：2名（2年生2名）

【教育指導に関する特記事項】

1. 「地域貢献基礎演習」では、9つのクラス毎にテーマを設定し、1年生全員が学部混成の小グループで、地域での生活や地域社会の課題についてインタビューや見学を行い、その結果を発表した。

2. 担当科目のうち、「社会調査論 I・II」と「社会調査実習」は社会調査士資格（一般社団法人社会調査協会）の科目認定を受けている。

【研究活動】

【研究テーマ】

1. 環境社会学（地域社会における地球温暖化対策、再生可能エネルギー普及と地域の内発的発展）

2. 社会運動論（日本における環境運動の展開、日本における市民活動セクターの形成史）

【著書、論文、総説】（過去5年間）

（著書）

1. 環境エネルギー政策研究所(編) 2014『地域の資源（ヒト・ワザ・カネ）を活かす再生可能エネルギー事業』金融財政事情研究会（担当箇所：第2章「地域の資源を活かす」 p.65-110）.

（論文）

1. 中村 和生・柏谷 至・渋谷 泰秀・佐々木 てる 2013『『フレーム』概念の検討—環境配慮行動の分析にむけて』『青森大学・青森短期大学研究紀要』35(3):73-94, 青森大学学術研究会.

2. 柏谷 至 2010「地域の地球温暖化対策に向けた温室効果ガス排出量算定に関する考察—青森県40市町村の2006年度推計を例として」『地域社会研究』18:1-37, 青森大学地域問題研究所.

（報告書）

1. 北部上北連携バス交通対策検討委員会 『公共交通活性化調査業務報告書』北部上北連携バス交通対策検討委員会（野辺地町・横浜町・六ヶ所村）(担当箇所：第3章4「アンケート調査」、第3章5「パーソントリップ調査」 p.25-44).

（その他）

1. 柏谷 至 2012「書評『脱原発の市民戦略』上岡直見・岡将男著」『環境科学会誌』25(5):397-8, (社)環境科学会.

2. 明るい選挙推進協会(編) 2012『平成23年度協会フォーラム講演録「地域活動」』財団法人明るい選挙推進協会. (2011年11月17日に青森市で行った講演「参加と協働を通じた地域づくり～NPOに学ぶ活動活性化のヒント」の講演録)

3. 柏谷 至 2011「地域に貢献する風力発電を目指して—市民風車をめぐる現状と課題」『環境と文明』19(7):9-10, NPO 法人環境文明 21.

4. 柏谷 至 2010「“地域を元気にする風車”の模索—市民風車わんずの経験から」『風力エネルギー』34(2):9-12, 日本風力エネルギー協会.

【学会発表】（過去5年間）

1. 小久保 温・角田 均・伊藤 匠・織田 将史・三上 絢佳・今 北斗・柏谷 至・工藤 雅世・坂田 令「学生のセルフ・マネジメントのためのゲーミフィケーション・アプリケーションの開発」情報処理学会第77回全国大会 3F-05, 2015年3月18日.

2. 小久保 温・渋谷 泰秀・柏谷 至・吉村 治正・渡部 諭「ウェブ社会調査におけるデバイスによる反応の相違に関する研究」情報処理学会第77回全国大会 3F-01, 2015年3月18日.

3. 西城戸 誠・丸山 康司・柏谷 至・藤 公晴「ポスト開発主義としての再生可能エネルギー事業のための環境社会学」環境社会学会第 45 回大会（秋田県大潟村）自由報告, 2012 年 6 月 3 日.
4. 柏谷 至・丸山 康司・西城戸 誠・藤 公晴「再生可能エネルギーと内発的発展～青森県における風力発電事業の『担い手』をめぐって～」環境社会学会第 44 回大会（関西学院大学）自由報告, 2011 年 12 月 11 日.
5. 藤 公晴・丸山 康司・西城戸 誠・柏谷 至「コミュニティ風車及び風力発電ファームの導入にかかる欧米のガイドライン概観」環境社会学会第 42 回大会（法政大学）自由報告, 2010 年 12 月 5 日.
6. 丸山 康司・西城戸 誠・柏谷 至・藤 公晴「再生可能エネルギーの需要形成と社会的受容性」環境社会学会 第 41 回大会（岩手県葛巻町）自由報告, 2010 年 6 月 5 日.

【研究費の獲得状況】（過去 5 年間）

1. 日本学術振興会・課題設定による先導的人文・社会科学研究推進事業（領域開拓プログラム）「地域に資する再生可能エネルギー事業開発をめぐる持続性学の構築」（研究分担者。研究代表者：西城戸誠・法政大学教授）, 11,400 千円（総額）, 2014 年 10 月～17 年 9 月.
2. 文部科学省科学研究費（基盤研究 C）「人口減少社会の外国人統合政策～青森県における外国籍者の事例から～」（研究分担者。研究代表者：佐々木てる・青森大学教授）, 3,300 千円（総額）, 2014～16 年度.
3. 文部科学省科学研究費（基盤研究 C）「電子エコマネーを活用したボランティア・コーディネータ支援ツールの開発」（研究分担者。研究代表者：石橋修・八戸学院大学教授）, 3,800 千円（総額）, 2013～15 年度.
4. 財団法人青森学術文化振興財団「郊外型住宅団地における地域課題とコミュニティ再生に関する調査研究事業」（研究分担者。研究代表者：菅勝彦・青森大学教授）, 402 千円, 2013 年度.
5. 文部科学省科学研究費（基盤研究 C）「環境配慮行動における文化的フレームと意思決定モデルとの統合的アプローチ」（研究代表者）, 4,200 千円（総額）, 2012～14 年度.
6. 文部科学省科学研究費（挑戦的萌芽研究）「原発事故に伴う広域避難と支援の社会学—『転換後』の社会像と生き方モデルの探求」（研究分担者。研究代表者：後藤範章・日本大学教授）, 2,800 千円（総額）, 2012～13 年度.
7. 科学技術振興機構・社会技術開発研究センター「地域に根ざした脱温暖化・環境共生社会」研究課題「地域間連携による地域エネルギーと地域ファイナンスの統合的活用政策及びその事業化研究」（研究分担者。研究代表：船橋晴俊・法政大学教授）, 5,369 千円（総額）, 2009 年 10 月～11 年 9 月.

【その他の活動】

【公開講座、講演、セミナー】（2014 年度）

1. 『『地域とともに生きる』青森大学この 1 年』青森大学・青森市・平内町「第 2 回 青森地域フォーラム～青森と平内のルネッサンス」, 2015 年 3 月 21 日, 青森市.
2. ワークショップ「みんなで考える！地域活動のお悩み相談室」青森市「地域力向上セミナー」, 2015 年 2 月 21 日, 青森市.
3. パネルディスカッション「空き家の活用と適正管理について」コーディネータ, 青森県住みかえ支援協議会「空き家管理・活用フォーラム」, 2015 年 2 月 5 日, 青森市.
4. 「NPO でまちを変える～非営利活動入門～」青森大学オープンカレッジ, 2014 年 11 月 21 日, 青森市.
5. 「地域コミュニティの再生を目指して～『幸畑団地地区まちづくり協議会』の活動から～」青森大学公開講座・まちなかキャンパス, 2014 年 11 月 19 日, 青森市.

- 6.『話し合い活動』の拡大と深化～公開討論会の経験から～」五所川原市選挙管理委員会・五所川原市明るい選挙推進協議会「明るい選挙出前講座」（青森県明るい選挙推進協会・出前講座事業), 2014年7月29日, 五所川原市.
- 7.ワークショップ「幸畑団地地区まちづくり協議会ワークショップ」幸畑団地地区まちづくり協議会, 2014年7月19日, 青森市.
- 8.ワークショップ「話し合いを活性化させる技術～ファシリテーション入門～」(財)明るい選挙推進協会「地域コミュニティフォーラム(北海道・東北ブロック)」, 2014年7月16日, 山形市.
- 9.『話し合い活動』の拡大と深化～公開討論会の経験から～」平川市明るい選挙推進協議会総会(青森県明るい選挙推進協会・出前講座事業), 2014年5月29日, 平川市.
- 10.«2014年度弘前市市長選挙公開討論会」コーディネータ, 弘前青年会議所, 2014年4月2日, 弘前市.

[学内各種委員]

地域貢献委員・地域貢献センター長、部長会メンバー、将来計画委員、教学改革タスクフォース・メンバー、総合研究所 地域問題研究班長、社会学部倫理審査委員

[学外各種委員・役員等] (2014年度)

- 1.青森県新産業創造課「イノベーション・ネットワークあおもり」タスクフォース・メンバー
- 2.青森県明るい選挙推進協議会 委員
- 3.あおもりで「生きる・働く」を学ぶキャリア教育東青地区実行委員会 委員長
- 4.青函ツインシティ提携 25周年記念事業実行委員会 委員
- 5.青森市道路維持課「防犯灯 LED 化 ESCO 事業委託業務公募型プロポーザル選定委員会」専門委員
- 6.鹿角市新エネルギー利活用促進協議会 委員長
- 7.大鰯町地域公共交通会議 委員
- 8.特定非営利活動法人グリーンエネルギー青森 副理事長
- 9.特定非営利活動法人 アニマルサポート青森 監事
- 10.一般社団法人 グリーンエネルギー鱒ヶ沢 理事
- 11.国家公務員倫理審査会「公務員倫理モニター」
- 12.鱒ヶ沢再生可能エネルギー協議会 コーディネーター
- 13.幸畑団地地区まちづくり協議会 理事
- 14.青森大学×平内町連携プロジェクト実行委員会 委員長

氏名 久慈 きみ代 (K U J I K i m i y o)

所属 社会学部社会学科

職名 教授

生年月日 1948 年 5 月 13 日

[履歴]

[学歴]

1971 年 3 月 駒澤大学文学部国文学科卒業

1996 年 3 月 弘前大学大学院人文科学研究科地域文化論専攻修士課程修了

[学位]

文学修士

[職歴]

1996 年 4 月 青森大学非常勤講師

1997 年 4 月 青森短期大学商経科専任講師

2002 年 4 月 青森短期大学地域創造学科助教授

2006 年 4 月 青森大学社会学部准教授

2009 年 4 月 青森大学社会学部社会学科教授 (現在に至る)

[所属学会]

中古文学会、日本文学協会、弘前大学国語国文学会、国際寺山修司学会 (地区運営委員)

[教育活動]

[担当科目]

文学、「文章の理解と表現」、基礎演習、言説分析Ⅰ・Ⅱ、基礎スタンダード科目「人間と文化」、

学問のすすめ分担「今だびょん！寺山修司劇場」、児童サービス論 (分担)

【ゼミ担当】

2010年 4年ゼミ 12名

2011年 3年ゼミ 9名

2012年 3年ゼミ 13名

2013年 3年ゼミ 9名

2014年 2年ゼミ 18名

[教育指導に関する特記事項] (過去5年間)

1, 新しいスタイルの朗読詩劇を企画、公演。

学外の詩人、舞踏家の協力を得て、学内サークルの演劇集団「健康」(部長萱森由介氏)や文芸部「幸畑文学」の学生たちと活動している。主な活動を以下に記す。

①三沢市寺山修司記念館のイベントに参加(「五月の修司忌」・演劇フェスティバル等)

②講演と朗読詩劇を組み合わせた「誰にでもわかる寺山修司」(つがる市 稲垣いこいの里物産館ギャラリー)

③寺山修司演劇祭2013第1回から参加(星野リゾート青森屋)。

2, 社会学部 学術研究会 学生研究発表会の担当者として、卒論発表大会や

社会学科の卒業生 鈴木綾氏(特定非営利活動法人ビーンズふくしま副理事長)を講師に招き、ワークショップ等を含む、研究発表大会を実施。

3, 担任学生やゼミ学生の教育相談を兼ねた個人面談を行う。

4, 部活動指導 青森大学演劇団「健康」と文芸部「幸畑文学」

[研究活動]

[研究テーマ]

(1) 中古文学研究 (源氏物語、女流日記文学、「高照神社源氏物語之詞」)

(2) 寺山修司研究 (主に寺山修司の青森時代の未開拓資料の発掘)

[著書、論文、総説] (過去5年間)

1, 「編集者寺山修司」青森大学・青森短期大学学術研究会『研究紀要』(第32巻3号)  
2010年3月

2, 「作文を書かない少年寺山修司—新発見『白鳥』にみる寺山芸術の核—『寺山修司研究  
4』(文化書房博文社2010年12月)

3, 『源氏物語』「いまめかし」考 その一青森大学・青森短期大学学術研究会『研究紀要』  
(第34巻—第2号)2011年11月

4, 「寺山修司 空白の半年—古間木中学校から青森野脇中学校への転校はいつか?—」『寺  
山修司研究5』文化書房博文社。(2012年3月1日)

5, 『東北近代文学辞典』(勉誠社2012年8月)「寺山修司」「福井緑」「渡辺金次郎」を担  
当。

6, 『別冊太陽 寺山修司』(平凡社2013年5月)「少年ジャーナリスト、始動」を執筆

7, 世田谷文学館「帰ってきた寺山修司」展、図録(2013年2月)に「少年編集者寺山修  
司」を執筆

8, 青森県近代文学館「特別展寺山修司没後30年」図録(2013年7月13日~9月8日)  
に「白鳥発見の意義」を執筆

9, 『編集少年寺山修司』(論創社8月20刊)単著

10, 『寺山修司未発表詩集 秋たちぬ』(岩波書店・11月13日刊)解説注、分担

11, 高照神社所蔵『源氏物語之詞』の基礎調査(1) (『研究紀要』第37巻第1号青森大  
学学術研究会2014・7月1日)

12, 高照神社所蔵『源氏物語之詞』の基礎調査(2) 翻刻編1 (『研究紀要』第37巻第2  
号青森大学学術研究会2014年11月1日)

13, 高照神社所蔵『源氏物語之詞』の基礎調査(3) 翻刻編2 (『研究紀要』第37巻第3  
号青森大学学術研究会2015年2月1日)

[学会発表] (過去5年間)

1, 「寺山修司空白の半年について—古間木中から野脇中への転校はいつか—」国際寺山修  
司学会秋季大会 愛知学院大学 2011年10月29日

[研究費の取得状況]

1, 法人青森学術文化振興財団助成「地域の学術成果等に関する普及のための出版事業」  
(寺山修司青森時代)2008年度

2, 第1回青森大学教育研究プロジェクト「地域文化貢献：津軽家・高照神社所蔵(弘前  
市高岡)「源氏物語之詞」の資料的価値の考察と公開(書籍作成)に向けての準備」

[その他の活動] (過去5年間)

[公開講座・講演・セミナー]

1, 2011年8月27日(土) 「誰でもわかる源氏物語—ワンコイン講演会」講師 於：  
つがる市稲垣 稲穂いこいの里

2, 2012年10月19日(金) 青森大学オープンカレッジ市民講座講師 演題「源氏物  
語の時代背景」 於：青森大学6号館

3, 2012年11月3日(土) 平成24年度寺山修司市民大学教養学科 第3回講師 演  
題「孤独な少年ジャーナリスト寺山修司」 於：寺山修司記念館

4, 2013年1月27日(日) 上北歴史文化研究会主催講演 演題「寺山修司の少年時代」  
於：おいらせ町 向山カワヨグリーンロッジ

5, 2013年8月18日(日) 青森県近代文学館 文学講座2 演題「寺山修司のことば



一内部から成長をはじめるときが来た一

6、2014年2月1日(土) 平成25年度寺山修司市民大学 最終合同講座 於：三沢市公会堂(第8集会室)

鼎談「寺山修司を語る」(九條今日子、佐々木英明、久慈きみ代)

7、2014年2月27日(木) 青森商工会議所女性会講演会 講師

演題「あおり発 クールジャパン「源氏物語之詞(高照神社所蔵)・寺山修司・青森ひば」 於：国際ホテル

8、2014年3月8日(土) 「第1回青森地域フォーラム」、「青森の今と未来を考える」に「寺山修司と青森」で参加 於：リンクステーションホール大会議室

9、2014年11月22日(土) 平成26年度寺山修司市民大学 総合講座講師 於：三沢市寺山修司記念館

演題「編集少年 寺山修司」一寺山少年の光と闇一

10、2014年12月6日(土) 「探ろう!太宰治中学期」講師 於：青森市「湊海」

11、2015年2月21日(土) 平成26年度寺山修司市民大学総合講座 最終回に講師参加 於：三沢市商工会館

(特別企画・実施)

13、2011年10月8日~10日 「布えほん合同展示 あおりさわる絵本&よこはま布えほんぐるーぷ30周年記念青森展示」企画実施

於：青森市民図書館7階・8階・つどいの広場「さんぽぽ」(アウガ6階) 来場者数二千数百名

14、2011年9月6日(火) あおり古典を楽しむ会発足記念講演の企画実施 リンクステーションホール(青森市文化会館) 4階大会議室

講師 東京大学名誉教授鈴木日出男先生 演題『源氏物語』の光と影—光源氏と六条御息所— 参加者約130名参加。

15、2012年10月21日(日) あおり古典を楽しむ会第2回特別講演(主催青森古典を楽しむ会&青森大学オープンカレッジ)の企画実施 リンクステーションホール 4階大会議室

講師 東京大学名誉教授 鈴木日出男先生 演題「夕顔の物語—源氏物語の女君—」参加者約120名。

16、2014年10月18日(土) あおり古典を楽しむ会第3回特別講演(主催青森古典を楽しむ会・協力青森大学)企画実施 リンクステーションホール 4階中会議室

講師 駒澤大学名誉教授 高橋文二先生 演題鈴虫の巻—『源氏物語』の風景— 参加者満席75名

[報告書・書評・寄稿など](過去5年間)

1、「辺境」を越えた発信—「北奥氣圏」第7号を読む『陸奥新報』2011・8・21(日)

2、「没後30年寺山修司を探して⑥」編集少年の才能 デーリー—東北:2013年7月11日(木)

3、印象記 弘前大学国語国文研究会シンポジウム「寺山修司の可能性をめぐって」(弘前大学国語国文学第36号平成27年3月)

[講演・出演](過去5年間)

1、NHKラジオ深夜便 「寺山修司が残したもの」2013年9月28日(土)

2、出演 BS朝日 昭和偉人伝「寺山修司」2013年・10月23日(水)

3、出演 NHKテレビ(青森あつぷるワイド、東北版、後全国放送)「今こそ!寺山修司」2013年11月11日

4、青森大学オープンカレッジ「源氏物語を読む」講師 (1998年~2013年)

5, NHK文化センター青森「じっくり読みたい源氏物語」講師 2004年～現在に至る

6, あおもり古典を楽しむ会『紫式部日記』読む 講師 2011年4月～継続

【学内各種委員】(過去5年間)

図書委員会、学術研究会、入試委員会、資格審査委員会(社会学部)、教務委員会(社会学部)

【学外各種委員】(過去5年間)

国際寺山修司学会東北地区運営委員

あおもり古典を楽しむ会 特別顧問

氏名 工藤 雅世 (KUDOH Masayo)

所属 社会学部社会学科

職名 教授

生年月日 1952年10月5日

[履歴]

[学歴]

1975年3月 弘前大学人文学部文学科卒業 (国文学専攻)

1995年7月 筑波大学大学院修士課程修了

[学位]

修士

[職歴]

1975年4月 NHK青森放送局FM放送ディスクジョッキー

1977年4月 青森県立高等学校教諭

1983年4月 フリーランス・ジャーナリスト

1993年4月 青森大学兼任講師

1995年4月 青森大学講師

1997年4月 青森大学助教授

2008年4月 青森大学教授

[所属学会]

日本レジャー・レクリエーション学会、日本国語国文学会、日本教育保健学会

[教育活動]

[担当科目]

地域観光学Ⅰ・Ⅱ、図書館概論、図書館施設論、図書館総合演習、社会学演習Ⅱ・Ⅲ、基礎スタンダード・人間と文化「地域の幸福のために：手法を知り、アイデア生産する!」、基礎スタンダード・学問のすすめ「ヘルス・ツーリズム@本州北端の都市：健康・観光・中心商店街活性のサイクル」

[卒業研究指導]

2006年卒業論文：12名

2007年卒業論文：13名

2008年卒業論文：12名

2009年卒業論文：3名

2010年卒業論文：5名

2011年卒業論文：3名

[ゼミ指導]

2006年：25名

2007年：25名

2008年：15名

2009年：3名

2010年：30名

2011年：28名

2012年：36名

2013年：32名

2014年：19名

## [教育指導に関する特記事項]

### 1, 自治体等による委託調査実施

自治体等から依頼を受けた社会調査を学生と共に実施し、その成果を調査報告書としてまとめ、調査依頼主に提出している。これまでの主な調査依頼主を以下に示す。

- ・青森県地域振興課
- ・青森県南郷村（当時）
- ・岩手県遠野市
- ・遠野ビール協同組合
- ・サンタランド白神（当時）
- ・青森県南郷村・名川町・福地村（当時）における3公共宿泊施設
- ・黒石こみせ保存会

### 2, 調査報告書作成指導

社会調査をした結果を調査報告書として作成することに関し、学生を指導している。

### 3, 調査報告会実施

社会調査をした結果に関する調査報告会実施に関し、発表する学生を指導している。例えば、以下のシンポジウムにおいて、学生が、「地域の固有価値としての文化資本を活用した『持続可能な観光』プログラムの開発」をテーマに調査・研究した結果を発表する際、事前に指導をした。

同シンポジウムにおいては、筆者の研究室の学生による調査・研究結果、および、同結果を、本学ソフトウェア情報学部の学生がコンピュータ・グラフィックスで表現したものを、それぞれ発表した。異なる専門分野の学生たちがコラボレーションとして研究し結果を発表した。

・「黒石市歴史的町並み景観シンポジウム：歴史的町並み景観を活かした観光のあり方を考える」（主催：黒石市・黒石市教育委員会・青森大学・黒石こみせ保存会）（2007年2月11日 青森県黒石市において開催）

### 4, 青森市による事業「あおもり街てく」に関する調査等

青森市による事業「あおもり街てく」（青森市中心市街地を対象とした散策型観光プログラム）3D CG版のコンテンツ充実のため、ゼミ生と共にアイデア生産をした。アイデア生産に当たって、当該中心市街地を対象としたフィールド調査をゼミ生と共に実施。隠れた魅力・土地の記憶を感じ取れる事柄の掘り起こしを行った。3D CG版の開発は、本学ソフトウェア情報学部「デジタル青森」プロジェクトチームが担当した。学内の文理融合型プロジェクトと位置づけられる。

### 5, 「あおもり街てく」ショートコース開発

前掲4における「あおもり街てく」3D CG版のショートコース（所要時間1時間～1時間半）のコンテンツ開発を、ゼミ生と共に行った。同開発に当たって、当該中心市街地を対象としたフィールド調査をゼミ生と共に実施。隠れた魅力・土地の記憶を感じ取れる事柄・観光プログラムとして訴求力の高い事柄の掘り起こしを行った。

3D CG版の開発は、本学ソフトウェア情報学部「デジタル青森」プロジェクトチームが担当した。学内の文理融合型プロジェクトと位置づけられる。

同ショートコースは開発済みで、「あおもり街てく」の主管課である青森市観光課に対し、2012年11月、プレゼンテーションを行った。

### 6, 「あおもり街てく」新コース開発のための調査

「あおもり街てく」新コース開発のためのフィールド調査をゼミ生と共に実施した。フィールド調査の結果を、観光学およびマーケティング論を視角として整理・分析した。一

連の行為に関し、ゼミ生を指導した。

#### 7, 「あおもり街てく」新コース開発

「“まずは青森市を” 幸福な地域とすること」を大目的に、「健康・観光・中心商店街活性をホリスティックに捉えた散歩道プログラム開発」を目標とし、「あおもり街てく」新コースとして、ゼミ生と共に【ヘルス・ツーリズム@本州北端の都市：健康・観光・中心商店街活性のサイクル】を開発した（2014年4月～）。これは、地域の内発的発展、および、経済の地域内循環等の実現に向け、ヘルス・ツーリズム（健康回復・増進・維持、病気予防のための観光）の視点から、以下の3つの散歩道プログラムを開発したものである。

##### 1) 「青森アドベンチャー」

青森市の中心商店街および海辺を対象に、「冒険(未知のもの・発見を楽しむ)」をコンセプトとして開発したプログラムである。

本学ソフトウェア情報学部とのコラボレーションにより、スマートフォンのアプリケーションソフトを開発、観光者自身による「マイ散歩道コース」作り支援を実現した。

##### 2) 「観（み）るテツ@本州北端の都市」

青森駅隣接の海辺に係留されている旧・青函連絡船「八甲田丸」、および青森駅、両周辺を対象に、「鉄道および鉄道関連文化遺産を満喫」をコンセプトとして開発したプログラムである。

本学ソフトウェア情報学部とのコラボレーションにより、スマートフォンのアプリケーションソフトを開発、観光者自身による「マイ散歩道コース」作り支援を実現した。

##### 3) 「太宰治ゆかりの地と海辺の散歩道」

1923（大正12）年～1927（昭和2）年、旧制・青森中学校の生徒として、青森市中心部に在住していた太宰治ゆかりの地と、海辺の街を対象に、「記憶の旅→心・意志を決める」をコンセプトとして開発したプログラムである。「土地の記憶」を掘り起こし、青森市の街が持つ「場所の力」に着目した散歩道プログラムである。コンテンツ・ツーリズムの視点も採用した。

本学ソフトウェア情報学部とのコラボレーションにより、同散歩道プログラムのWebサイトを開発した。観光媒体として提供する。

8, 青森大学教育研究プロジェクト「行動変容のための自己マネジメント促進ポイントシステムの構築と活用」本学1年生を対象に、学生による自己管理を援助し、学生の自己肯定感向上・学生生活における行動変容促進を目的として、社会学部・ソフトウェア情報学部の教員と共に（合計4人）、（株）リンクステーションと連携して実証実験を実施した（2014.10.29～12.17）。ゲーミフィケーションの考え方に基づき、カードによるポイントシステムをベースに仕組みを設計、同実験の前後における自己肯定感の変化を「セルフ・エフィカシー」の概念を分析視角として分析した。

[研究活動]

[研究テーマ]

- (1) 自律的観光に関する研究
- (2) ヘリテージ・ツーリズムに関する研究
- (3) 歴史的環境の維持・活用に関する研究
- (4) ヘルス・ツーリズムに関する研究
- (5) コンテンツ・ツーリズムに関する研究
- (6) 空間環境に関する研究

[著書、論文、総説]

1. 工藤雅世：文化と観光・自律的観光の視点から、都市問題研究 681、都市問題研究会、2007、9月

2. 小久保温・土屋薫・工藤雅世：散策型観光支援モバイル Web アプリケーションの開発、研究紀要 117、青森大学学術研究会、2013、11 月

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

2005～2008 年度 国立民族学博物館共同研究員として、同博物館共同研究会「ヘリテージ（遺産）の所有と利用に関する観光文明学的研究」において研究・発言した。

2006～2013 年度 社団法人 日本ニューオフィス推進協議会・FM資格試験実力養成講座「論述」担当講師として、論述の書き方に関する講義を行った。

2007～2008 年度 青森県総合社会教育センター・あすなるマスターカレッジ人文科学コース講師として講義・演習を行った。

2007 年 2 月 11 日 「黒石市歴史的町並み景観シンポジウム：歴史的町並み景観を活かした観光のあり方を考える」（主催：黒石市・黒石市教育委員会・青森大学・黒石こみせ保存会）においてパネリストを務めた。

2014 年 3 月～ 北海道大学観光学高等研究センター共同研究会・共同研究員として活動を開始する。

2014 年 9 月 2 日 みちのく銀行国道支店開設 120 周年記念講演「イノベーションとオフィス環境」を行った。

2014 年 10 月 28 日 大野女性大学・大学院において講義「旅の魅力と観光の力」を行った。

2014 年 12 月 3 日 まちなかキャンパスにおいて講義「ヘルス・ツーリズム@本州北端の都市：健康・観光・中心商店街活性のサイクル」を行った。

[国際交流]

2014 年 10 月 21 日 タイの大学生 28 人と本学学生による、本学における交流イベントをプロデュースした。

[地域貢献]

2013 年 2 月～ 『「地域を遊ぶ」あおもりクエスト』実証実験（青森大学地域連携プロジェクト）のメンバーとして、企画・マネジメント・運用に当たる。同クエストは、本学学生による青森市内の文化施設を対象とした見学を核とし、学生による地域連携活動のサポートツールとして、FeliCa カードを活用したものの。

[学内各種委員]

2006 年度 就職委員会委員、教務委員会委員、バリアフリー委員会委員

2007 年度 就職委員会委員、教務委員会委員、バリアフリー委員会委員

2008 年度 就職委員会委員、企画・運営委員会／ホームページ委員会委員、自己点検委員会委員

2009 年度 就職委員会委員、企画・運営委員会／ホームページ委員会委員、自己点検委員会委員

2010 年度 就職委員会委員、企画・運営委員会／ホームページ委員会委員

2011 年度 就職委員会委員、情報・IT委員会委員、教務委員会委員、大学案内作成小委員会委員

2012 年度 就職委員会委員、情報・IT委員会委員、学生委員会委員、大学案内作成小委員会委員、司書養成課程主任

2013 年度 情報・IT委員会委員、学生委員会委員、学生募集委員会委員、司書養成課程主任

2014 年度 情報・IT委員会委員、学生委員会委員、学生募集委員会委員、司書養成課程主任

2015年度 情報・IT委員会委員、学生委員会委員、学生募集委員会委員、司書養成課程主任

[学外各種委員会]

- 2006年度 青森県環境審議会委員、青森県地球温暖化対策推進委員会委員  
(財)東北産業活性化センター「教育文化施設の活用による地域活性化に関する調査」委員会委員
- 2007年度 青森県環境審議会委員、青森県地球温暖化対策推進委員会委員
- 2007～2008年度 青森県総合社会教育センター・あすなろマスターカレッジ  
企画委員会委員
- 2007～2008年度 青森県総合社会教育センター・あすなろマスターカレッジ  
人文科学コース検討委員会委員
- 2008年度 青森県環境審議会委員、青森県地球温暖化対策推進委員会委員
- 2009年度 青森県環境審議会委員、青森県地球温暖化対策推進委員会委員、  
青森県水産振興審議会委員
- 2011年度～ 青森県立郷土館協議会委員
- 2013年度～ 三内丸山応援隊理事

氏名 見城 美枝子 (KENJOU Mieko)

所属 社会学部社会学科

職名 教授

生年月日 1946 年 1 月 26 日

[履歴]

[学歴]

1968 年 3 月 早稲田大学教育学部英語英文学科卒業

1993 年 5 月 早稲田大学大学院理工学研究科入学

1995 年 3 月 早稲田大学大学院理工学研究科修士課程修了

1999 年 4 月 同博士課程入学

2005 年 3 月 同博士課程単位取得

[学位]

工学修士

[職歴]

1968 年 4 月 東京放送入社

1973 年 10 月 東京放送退社 フリーアナウンサーとなる

1973 年 10 月 海外取材番組『おはよう 700』(JNN 全国ネット)のキャスターとし  
～1980 年 9 月 て海外取材を 7 年間務める。訪問した国は現在で 56 カ国。

1981 年 1 月 「24 時間テレビ・愛は地球を救う」で総合司会を担当

1987 年 4 月 「愛ラブリビング」(JNN 系)住宅の取材・紹介を行う

～1993 年 10 月 その功績により建設大臣賞(当時)を受賞

1981 年 10 月 本の紹介番組「ザベストセラー」(JNN 系)の司会を務める

～1982 年 9 月

1982 年 10 月 生活情報番組「素敵なミセスに」(テレビ朝日)司会を務める

～1983 年 3 月以後、現在まで 2005 年 8 月～2007 年 3 月「スーパーモーニング」(テ  
レビ朝日)、2006 年 9 月～「情報ライブミヤネ屋」(読売テレビ)、2007 年 3 月～「ウェ  
ークアップ!ぷらす」(読売テレビ)等のコメンテーターを務める。

1995 年 4 月 福岡県春日市ふれあい文化センター館長就任

1999 年 3 月 福岡市春日市ふれあい文化センター館長退任

2002 年 12 月 JA 全農経営役員就任

2005 年 7 月 JA 全農経営役員退任

2004 年 7 月 オルト株式会社 取締役就任

2008 年 6 月 オルト株式会社 取締役退任

1996 年 4 月 青森大学社会学部教授就任

2006 年 5 月 株式会社三越 社外取締役就任

2008 年 4 月 株式会社三越 社外取締役退任

2008 年 5 月 株式会社三越 顧問就任

2009 年 4 月 株式会社三越 顧問退任

現在に至る

[所属学会]

日本建築学会、日本語ジェンダー学会

[教育活動]

[担当科目]

建築社会学



[教育指導に関する特記事項]

人はその大半を建造物の中で過ごし、生活文化を構築している点からも、建築の社会性が高いことが分かる。「建築社会学」では私の修士論文のテーマとして調査を行った国の重要文化財、弘前市の『石場家住宅』等、訪ね、家と人と社会との関係を実際の住空間から学びとれるように指導している。

[研究活動]

[研究テーマ]

日本建築における住空間の研究—上り框論—

[著書、論文、総説]

[論文]

塩尻市における本棟造りの分布—本棟造りの研究—

The distribution of HONMUNE-ZUKURI at Shiojiri city — A study on HONMUNE-ZUKURI part 2

2007年8月より早稲田大学理工学部建築学科中川武研究室の中川武教授と、長野県にお

ける塩尻を中心とした本棟造りの合同調査を開始する。  
現在執筆中で平成22年度日本建築学会にて発表予定。

[著書]

『女のティータイム』『見知らぬ国のパビリオン』…集英社文庫

『女の日曜日』『女と男の風景』『女のタイムテーブル』…文化出版局

『おとうさん、お元気ですか』(訳書)…文化出版局

『旅の季節、女の季節』…日本交通交社

『タフでなければ女でない』…講談社

『25時のテイクオフ』…フレーベル館

『すぐに役立つ手紙、ハガキ文実例集』…日東書院

『女は悩んで美しくなる』…リヨン社

『見城美枝子の本音で！リフォーム奮闘記』…ニューハウス出版

『会話が苦手なあなたへ』…リヨン社

『会話が上手になりたいあなたへ』…リヨン社

[その他の活動]

農業支援、地域活性化、子育て、教育へのボランティア、サポート活動

[学外各種委員]

過去

国立那須甲子少年自然の家運営委員会

気象審議会委員(気象庁)

中央教育審議会委員(文部科学省)

東京都観光事業審議会委員(東京都)

日本ごはん党副党首

産業技術審議会臨時委員(通商産業省)

国土審議会特別委員(半島振興対策特別委員)(国土庁)

河川審議会委員(建設省)

日本エイズストップ基金協力委員((財)エイズ予防財団)

瀬戸内海境保全審査会委員(環境庁)

静岡県生涯学習審議会委員

快適な暮らしのスタイル開発推進事業検討委員会委員（厚生省）  
 北海道地域農政推進方策検討委員会委員（農水省）  
 住宅及び住宅産業の在り方に関する懇談会委員（通商産業省）  
 児童環境づくり推進協議会委員（厚生労働省）  
 伝統的工芸品産業審議会委員（通商産業省）  
 たばこ行動計画検討会委員（厚生省）  
 （財）日本郵便友の会協会評議員  
 国立病院・診療所の政策医療再編成等に関する懇談会委員（厚生省）  
 次代を担う人材小委員会（経済企画庁）  
 「星空の街・青空の街」全国協議会表彰選考委員（（財）日本環境協会）  
 生活環境審議会（厚生省）  
 建設技術開発会議技術政策部会委員（建設省）  
 河川審議会（国土交通省）  
 青森県総合開発審議会委員（青森県）  
 早稲田大学創立 125 周年記念事業募金実行委員  
 国土審議会北海道開発分科会（国土交通省）  
 港湾技術検討会議委員  
 メディア・リテラシー教材の応募案件の選定・開発の調査研究会委員  
 食品安全委員会専門委員（内閣府）  
 放送と青少年に関する委員会（放送論理・番組向上機構）  
 生涯学習分科会（文部科学省）  
 子どもの未来 21 プラン研究会（厚生労働省）  
 保育問題検討委員会（厚生労働省）  
 社団法人 経済団体連合会 創造的な人材の育成に関する懇談会  
 第 22 期東京都社会教育委員会  
 建設技術開発会議（国土交通省）  
 福祉機器技術政策小委員会（経済産業省）  
 産業構造審議会臨時委員会（経済産業省）  
 日本郵政公社設立委員会（総務省）  
 これからの教育を語る懇談会（文部科学省）  
 国立国会図書館納本制度審議会委員  
 家族・地域の教育力の向上に関する特別委員会  
 国土審議会委員（国土交通省）  
 公衆衛生委員会委員（日本医師会）  
 メディア・リテラシー教材の応募案件の選定・開発の調査研究会委員（（財）未来工学研究所）  
 受動喫煙防止対策のあり方を検討する検討会委員（厚生労働省）  
 平成 22 年度児童福祉週間標語選定委員会委員（厚生労働省）  
 教育委員会の権限に属する事務の点検・評価委員（渋谷区教育委員会）  
 社会保障審議会福祉文化分科会委員（厚生労働省）  
 国土技術政策総合研究所研究評価委員（国土交通省）  
 技術研究開発評価委員会委員（国土交通省）  
 独立行政法人文化財研究所外部評価委員会委員  
 医道審議会医道分科会委員（厚生労働省）  
 「金融教育プログラム検討委員会」アドバイザー・グループ委員（金融広報中央委員会）  
 技術研究開発助成制度評価委員会委員（国土交通省）

## 国立国会図書館の資料利用の在り方に関する有識者会議構成員

現在

NPO 法人 ふるさと回帰支援センター 理事長

早稲田大学稲門女性ネットワーク 会長

早稲田大学年次稲門会 43 年

社会教育団体 日本リーダー養成協会 理事長

食料・農林漁業・環境フォーラム 幹事

社団法人公共建築協会 公共建築賞審査委員会委員

東京都水道事業経営問題研究会委員

渋谷区立臨川小学校学校評議員

特定非営利活動法人 群馬ふるさと回帰支援センター 理事長

21世紀土地改良区創造運動大賞中央選考委員会委員

東京農業大学「食と農」の博物館委員会委員

東京都現代美術館運営諮問委員会委員

独立行政法人医薬品医療機器総合機構救済・審査・安全業務運営評議会委員

社会保障審議会医療部会（厚生労働省）

秋田県能代市 能代 PR 大使

財団法人郵便貯金振興会(現 財団法人ゆうちょ財団)理事

公益財団法人東京動物園協会理事

財団法人給水工事技術振興財団理事

財団法人農学会評議員

財団法人リバーフロント整備センター 理事

有限責任中間法人 JA バンクアグリ・エコサポート基金事務局理事

福島県 しゃくなげ大使

2015 年ミラノ国際博覧会日本館サポーター

一般社団法人農林水産業みらい財団理事

全国農業会議所学識経験会員

矯正医療の在り方に関する有識者検討会委員（法務省）

アルコール健康障害対策関係者会議委員（内閣府）

公益財団法人エイズ予防財団助成金交付選考委員

教育委員会の権限に属する事務の点検・評価委員（渋谷区教育委員会）

大阪府枚方市市政アドバイザー

JTB 交流文化賞審査員

ぐんま・街・人・建築顕彰会審査員長

氏名 佐々木てる (SASAKI Teru)  
所属 社会学部社会学科  
職種 教授  
生年月日 1968年6月17日

[履 歴]

[学 歴]

1989年4月～1994年3月 東洋大学 社会学部  
(1992年～1993年 ドイツマールブルク大学交換留学)  
1994年4月～1996年3月 筑波大学修士課程 地域研究研究科  
1996年4月～2003年4月 筑波大学博士課程 社会科学研究科 社会学専攻

[学 位]

1996年3月 修士 (地域研究)  
1999年3月 修士 (社会学)  
2003年3月 博士 (社会学)

[職 歴]

2003年4月～2003年11月 筑波大学 博士特別研究員  
2003年11月～2008年11月 筑波大学 社会科学研究科 文部科学技官 (助手)  
2008年12月～2012年3月 早稲田大学 文化社会研究所 招聘研究員  
2012年4月～2015年3月 青森大学 社会学部 准教授  
2015年4月～現在に至る 青森大学 社会学部 教授  
非常勤講師  
非常勤講師  
1999年4月 茨城県きぬ看護専門学校 現代社会論・家族社会学 (2000年3月迄)  
2003年4月 埼玉大学 教養学部 社会学特殊講義 (2003年9月迄)  
2004年4月 筑波学園看護専門学校 家族社会学 (2009年3月迄)  
2006年4月 東京外国語大学 外国語学部 社会学 (2006年9月迄)  
2007年4月 駒沢大学 GMS学部 グローバル文化論 (2007年9月迄)  
2007年12月 国際基督教大学 社会科学科 地域社会論 (2008年3月迄)  
2008年4月 立教大学 社会学部 専門演習1 (2008年9月迄)  
2009年4月 千葉大学 文学部 国際社会学 (2009年9月迄)  
2009年4月 法政大学 社会学部 演習3 (卒業論文) (2010年3月迄)  
2009年9月 立教大学 社会学部 基礎演習 (～現在に至る)  
2010年4月 芝浦工業大学 工学部 グローバリゼーション論 (2012年3月迄)  
2010年12月 国際基督教大学 国際人口移動とエスニシティ (2014年3月迄)  
2011年4月 芝浦工業大学 工学部 社会学概論 (2012年3月迄)  
2011年9月 立教大学 社会学部 卒業論文 (2012年3月迄)  
2012年10月～ 青森市立看護専門学校 社会学  
2013年9月～ 八戸学院大学 歴史学  
2015年4月～ 国際基督教大学 家族社会学

[所属学会]

日本社会学会 関東社会学会 移民政策学会 日本移民学会

【教育活動】

【担当科目】

社会学概論Ⅰ、社会学概論Ⅱ、家族社会学Ⅰ、家族社会学Ⅱ、グローバリゼーション論Ⅰ、グローバリゼーション論Ⅱ、社会調査実習、基礎演習、卒業論文演習、卒業論文

【教育指導に関する特記事項】

学生の積極的な授業、講義への参加を促すよう、できるだけ対話を中心とした教育活動を行っていく予定。特に社会調査士関連科目、地域社会学などで、専門的な質的調査のスキルを教え、資格取得はもちろんのことコミュニケーションスキルの向上を促していきたい。卒業論文に関しては自らがテーマを設定し、調べ、書くという作業を行えるように指導していく。

【学内業務】

社会調査士連絡責任者、社会学部教務委員長、全学教務委員会委員  
全学FD委員会委員、留学生総合支援局局員、学術研究会委員  
青森大学陸上競技部監督

【研究活動】

【研究テーマ】

- (1) グローバリゼーション下におけるネーション、エスニシティ研究
- (2) 質的調査法（聞き取り調査、特にライフストーリー研究）
- (3) 在日コリアン（コリア系日本人）の国籍、アイデンティティ
- (4) 人口減少社会における移民統合と政策について
- (5) 青森ねぶたまつりについて

【研究業績】

2014年度

論文

1. 「在日コリアンとシティズンシップ—権利と国籍を中心に」『移民政策研究 第6号』  
移民政策学会

その他したもの

1. 書評 クリスチャン・ヨプケ／訳『軽いシティズンシップ』『移民政策研究 第6号』  
移民政策学会

2. 報告書 佐々木研究室『2014年度 青森学術文化振興財団事業報告書 「観光としてのねぶた」と「民俗としてのねぶた」』青森大学

報告、コメント、講演など

1. 「ねぶた調査からみえてきたもの」『青森ねぶた祭りの問題と将来 ～人々の語りから考える～』2014年9月23日 於：ワ・ラッセ 学習交流室(2)

2. 「日常的差別を読み解く」第54回北上地方小中学校教頭会研究大会講演、2014年11月21日(金) 於：三沢市国際交流教育センター

3. 「走ることと生きること ～ボストンマラソン参加から見えた世界～」第20回 青森大学文化講演会、平成26年10月11日(土) 於：青森大学 視聴覚室

4. 「華人とは何か？華人3世、2世、1.5世の語りから見る在日華人意識の変容」。コメンテーター：杉村美紀(上智大学)、山本須美子(東洋大学)、佐々木てる(青森大学) 2014年11月29日 早稲田大学3号館4階401室

5. 「地域文化としての青森ねぶた祭り ～個人史を中心として～」『青森大学ワークショップ ～地域の歴史文化を考える～』2015年2月6日 於：青森大学642教室

2013年度

## 著書

1. 「「少子高齢化問題」と国際人口移動」今泉礼右編著『グローバル時代の社会学』株式会社みらい
2. 「近代日本の人種差別と植民地政策」駒井洋／小林真生『レイシズム外国人嫌悪』明石書店

## 論文

1. 中村和生・柏谷至・澁谷泰秀・佐々木てる「「フレーム」概念の検討ー環境配慮行動の分析にむけてー」『研究紀要』第35号 第3号（通巻115号）2013年2月

## その他

1. 青森大学社会学学部 佐々木研究室『日常文化としての「青森ねぶた祭り」』2014年3月31日
2. 「移動から見た身分証明書の社会的意味」『民博通信』国立民族学博物館（2013年9月30日）

## 報告

1. 青森大学地域貢献センター・国立民族学博物館共同研究会『人の移動と地域を考える』2013年6月15日、於：青森大学6号館第五会議室、コーディネーターおよび司会担当
2. 長崎大学 東アジア共生プロジェクト国際シンポジウム『東アジアにおける人の移動と多文化共生：身分証明に着目して』2014年2月9日、於：長崎大学総合研究棟2F（多目的ホール）

第2部会：司会、第3部会：報告「在日コリアンの身分証明と移動」

3. シンポジウム『青森ねぶた祭りの問題と将来 ～人々の語りから考える～』2014年2月27日、於：会場 ねぶたの家 ワ・ラッセ 多目的室(2)、司会：佐々木てる報告：「日常文化としてのねぶたまつり」

## 2012年度

### 著書・編集

1. 陳天璽、近藤敦、小森宏美、佐々木てる編『越境とアイデンティフィケーション』新曜社、2012年3月
2. 「東日本大震災と在日コリアン」駒井洋監修・鈴木絵里子編、『移民・ディアスポラ研究 2 東日本大震災と外国人移住者たち』明石書店、2012年2月

## 論文

1. 「国内避難民と地域社会」『芝浦工業大学研究報告 人文系編 46 No1』芝浦工業大学、2012年3月

## 報告

1. 「オリジン、国籍、アイデンティティ」司会：柳赫秀教授、冒頭発表：古田清悟・姜成明さん（『日本代表李忠成、北朝鮮代表鄭大世』（光文社、2011年）の共同執筆者）主要討論者：高英毅弁護士、金美德教授、黄盛彬教授、佐々木てる。若手ゲスト討論者：金昌浩弁護士、ショートショートフィルムフェスティバル&アジア 柳俊熙。第23回韓国人研究者フォーラム、於：明治大学駿河台キャンパス（御茶ノ水駅前）研究棟4階第1会議室（2012年3月10日）

## 2011年度

### 学会報告等

1. 「震災と集合的トラウマー「永住外国人」から見る震災経験ー」シンポジウム『東日本大震災と日本社会』報告者：副田義也、佐々木てる。司会：黄順姫、討論者：藤村正之、五十嵐康正。第23回筑波社会学会筑波大学、於：東京文京キャンパス（2011年10月29日）

2. 「グローバリゼーションと複数国籍制度 ～現代日本における国籍制度を通じてにネーションの再編を問う～」第84回 日本社会学会、於：関西大学（2011年9月15日）

2010年度

論文

1. 「日本人」と「外国人」の間 ～コリア系日本人という試み～『フォーラム現代社会学 第10号』関西社会学会、2010年5月

2. 「国籍取得をめぐる在日コリアンへの調査研究」『社会と調査第4号』一般社団法人社会調査協会、2010年3月

学会報告・その他の報告

1. 「ライフストーリー研究の射程と地平（司会）」第83回日本社会学会テーマセッション（2010年11月6～7日）

2. 「重国籍の現状と可能性」移民政策研究所研究会、於：港区勤労福祉会館 1F 第一集会室（2010年5月14日）

コラム

1. 小林多寿子編『ライフストーリー・ガイドブック』嵯峨野書院、2010年（蘭信三『満州移民の歴史社会学』、見田宗助「まなざしの地獄」担当。）

2009年度

著書（分担執筆）

1. 「外国人」とは誰か 好井裕明編『排除と差別の社会学』有斐閣、2009年12月

2. 「日本の移民政策とネーションのゆくえ」佐藤成基編『ナショナリズムとトランスナショナリズム—変容する公共圏—』法政大学出版会、2009年3月

学会報告など

1. 'Nationality System of Japan and the problem :From the aspect of foreigner and immigration policy in Japan', International Symposium KOREA・CHINA・JAPAN'S Nationality Act, Konkuk Law School, College of Law Konkuk University（2009年12月28日）

2. 'Possibility of Asian Nationalism :from the view point of dual citizenship' "International Workshop on Subjectivity of Other" Graduate Institute of Anthropology, National Chi-nan University, Taiwan, Room206（2009年8月29日）

3. 'Politics of Foreigner and Immigration in Japan' "Third Critical Asian Studies workshop" on "Social conflict and collective action" 於：愛媛大学（2009年8月20日）

4. 「日本人」と「外国人」の間—コリア系日本人という試み— 第60回関西社会学会大会・シンポジウム『包摂と排除のアポリア—多文化状況でのエスニック・アイデンティティ』司会：沢田善太郎、野々山久也。討報告者：佐々木てる、高畑幸、アンワル・アディナ。論者：谷富夫、安里和晃。於：京都大学（共北28教室）（2009年5月24日）

8. 「日本の国籍制度と重国籍の可能性について」移民政策学会 第二回研究会、於：早稲田大学15号館03教室（2009年3月21日）

9. 「国籍とエスニシティの狭間で」愛媛大学・香港大学 ワークショップ「曖昧さと東アジア社会—西欧近代の呪縛からの脱却を求めて—」於：愛媛大学（2009年3月18日）

10. 「人の移動と監理～鑑札もしくは関所手形を題材に～」国立民族学博物館ミニ・シンポジウム「国籍とパスポートの人類学」於：国立民族学博物館（2009年3月7日）

2008年度

論文

1. 「ネーションという語り～山村政明の遺稿集を手がかりに～」『社会学ジャーナル 33 号』筑波大学社会学研究室、2008 年

2007 年度

研究ノート

1. 「国際社会学ノート」『社会学ジャーナル 32 号』筑波大学社会学研究室、2007 年

2. 「異文化理解教育の実践」『社会学ジャーナル 32 号』筑波大学社会学研究室、2007 年

報告

1. 「日本の外国人政策を考えるー 코리아系日本人と日本の国籍制度」韓国人研究者フォーラム、法政大学 ボアソナードタワー (2007 年 4 月 24 日)

2. 「国籍制度と多文化主義」多文化共生教育研究会 第 22 回定例研究会「子どもの国籍問題と学校」報告者：佐々木てる、近藤博徳 (弁護士)、於：立教大学 12 号館地下会議室 (2007 年 3 月 4 日)

2006 年度

著書 (単著、監修、分担執筆)

1. 佐々木てる『日本の国籍制度と 코리아系日本人』明石書店、2006 年

2. 佐々木てる監修／在日 코리아ンの国籍取得権確立協議会編『在日 코리아んに権利としての日本国籍を』明石書店、2006 年

3. 「制度としての国籍、生きられた国籍」桜井厚編『戦後世相と経験史』せりか書房、2006 年

論文

1. 「国籍と権利ー日本国籍取得者のライフストーリーの視点からー」『社会学ジャーナル 31 号』筑波大学社会学研究室、2006 年

その他

1. 「シンポジウム「二十一世紀日本の外国人政策」」外国人政策問題研究所主催、司会佐々木てる。国連大学基調講演：河野太郎 (旧法務副大臣)、シンポジウム：坂中英徳 (外国人政策研究所所長)、浅川晃広 (名古屋大学)、山脇啓造 (明治大学)、李敬宰 (高槻むくげの会)、石原進 (毎日新聞)。於：国連大学 (2006 年 9 月)



氏名 齋藤 直人 (SAITOH Naohito)

所属 社会学部社会学科

職名 教授

生年月日 1958 年 6 月 25 日

[履歴]

[学歴]

1981 年 3 月 日本体育大学体育学部体育学科卒業

[学位]

体育学士

[職歴]

1981 年 8 月~12 月 弘前工業高校非常勤

1985 年 4 月~1987 年 3 月 弘前中央高校非常勤

1987 年 4 月~1990 年 3 月 青森山田高校教諭

1990 年 4 月~1993 年 3 月 青森大学講師

1993 年 5 月~2007 年 3 月 青森大学助教授

2007 年 4 月~ 青森大学准教授

2012 年 4 月~ 青森大学教授・学生部長

[所属学会]

日本体育学会、全国大学体育連合

[教育活動]

[担当科目]

体育実技、体力作り運動、球技、社会調査実習

[教育指導に関する特記事項]

1, 競技方法を簡略化することにより各種目への導入を容易くし、初心者が早く興味を持てる様にした。結果欠席が減った。

2, 少人数でチームを作らせリーグ戦形式を各種目に取り入れた。結果欠席が減った。

3, 授業外で各運動部のトレーニングやリハビリ相談をしたところ、年々増えている。

[研究活動]

[研究テーマ]

1,球技種目のトレーニング

2,初心者への指導法

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

1, 「軽スポーツを楽しむ」 オープンカレッジ

2, 出張講義 平内高校

3, 「中学生バレーボール教室」 むつ市バレーボール協会

4, 「高校バレーボール教室」 八戸市バレーボール協会

5, 春高バレー決勝 TV解説

6, NHK杯決勝 TV解説

[学内各種委員]

1, 学生委員会

[学外各種委員]

1,青森県バレーボール協会理事長

2,日本バレーボール協会評議員

3,青森県体育協会評議員

4,青森県大学バレーボール連盟理事長

「課外活動」 バレーボール部監督

1, 平成18年度東北地区大学総体 優勝

2, 平成18年～20年青森県一般6人制選手権 優勝

3, 平成5年～平成21年 東北大学1部リーグ所属

4, 平成5年～平成21年 青森県大学選手権 優勝

氏名 宋戸 聡 純 (Shishido Toshisumi)

所属 社会学部社会学科

職種 教授

生年月日 1960 年 3 月 26 日

[履 歴]

[学 歴]

1984 年 3 月 青森大学経営学部経営学科 卒業

[学 位]

経営学士

[職 歴]

1984 年 4 月 オリエンタルエレクトロニクス株式会社 富士通光システム研究出向

1985 年 10 月 学校法人青森山田学園採用

同年 オリエンタルエレクトロニクス株式会社出向

1987 年 4 月 青森短期大学助手

1990 年 4 月 青森短期大学講師

1998 年 4 月 青森短期大学助教授

2004 年 4 月 青森短期大学教授、副部長

2006 年 4 月 青森短期大学部長

2013 年 4 月 青森大学社会学部社会学科教授、青森大学事務局次長

2013 年 4 月 青森大学社会学部社会福祉学科教授、青森大学事務局長

[受 賞]

[所属学会]

情報処理学会、大学行政管理学会

[教育活動]

[担当科目]

社会福祉学応用演習 IA、社会福祉学応用演習 IB、基礎演習、情報社会と情報倫理、  
情報処理 II

[卒業研究指導]

[ゼミ指導]

2014 年 基礎演習 1 年 19 名、社会福祉学科 4 年 10 名

[教育指導に関する特記事項]

・参加型授業の展開

[研究活動]

[研究テーマ]

- ・青森大学の学生募集 ー入学生確保への戦略ー
- ・地方総合大学の魅力とは ー学びたいキャンパスー
- ・1 年生学生指導と就職指導 ー4 年後を見据えた大学教育ー
- ・大学生の資格取得指導 ー教育と指導
- ・SD ー専門職としての大学職員をどのように養成するかー

[著書、論文、総説]

2000 年 3 月 「コンピューターリテラシーにおける工夫」

・短期大学における教科別授業の工夫 青森大学・青森短期大学学術研究会

[学会発表]

[その他の活動]

2011年4月 学校法人青森山田学園評議員  
2012年4月 学校法人三ツ葉学園理事  
2012年4月 北東北地区大学野球連盟理事  
2012年7月 青森大学自己評価担当者 (Liaison Officer=LO)

[公開講座、講演、セミナー]

[学内各種委員]

- ・青森大学事務局長
- ・青森大学学長補佐
- ・学生募集員会 副委員長
- ・教務委員会 副委員長
- ・青森大学協議会
- ・自己点検評価委員会
- ・認証評価再審査対策委員会 LO

氏名 澁谷 泰秀 (SHIBUTANI Hirohide)

所属 社会学部社会学科

職名 教授・学長補佐

生年月日 1959 年 2 月 1 日

[学歴]

1981 年 順天堂大学体育学部健康学科卒業

1983 年 順天堂大学大学院体育学研究科 (修士課程環境衛生学専攻) 卒業

1985 年 University of South Florida, Master Program (Master of Art 取得)

1994 年 University of South Florida, Doctor Program (Doctor of Philosophy 取得)

[学位]

Ph.D (計量心理学)

[職歴]

1985 年 8 月 University of South Florida 非常勤講師 (教育測定・評価学: Educational Measurement)

1986 年 5 月 フロリダ州ピネラス群教育研究所フェローシップ研究員

1987 年 8 月 University of South Florida 教育研究所(Institute of Instructional Research and Practice) 研究員

1990 年 4 月 青森大学社会学部専任講師

1995 年 4 月 青森大学社会学部助教授

2006 年 4 月 青森大学社会学部教授 (現在に至る)

2012 年 4 月 青森大学学長補佐 (現在に至る)

[所属学会]

日本行動計量学会、日本テスト学会、国際健康コミュニケーション学会、日本ヒューマンケア学会、American Educational Research Association

[教育活動]

[担当科目]

社会統計学 I、社会統計学 II、教育社会学 I、教育社会学 II、教育原理、教育方法学、生理学

[教育指導に関する特記事項]

1. 科研及びプライベートな研究助成金を用いた社会調査をほぼ毎年行ってきたが、選挙人名簿からのサンプリングを含む一連の社会調査プロセスを学生と共に行ってきた。2006 年度以降の論文は全てこのような社会調査の結果に基づいたものであり (研究業績参照)、学生も実際の研究活動に触れることにより、社会調査論で学んだ事項を応用する場があることから社会調査に関する実務的能力を伸ばしている。本学における社会調査士資格の整備を行い、毎年数名の社会調査士の輩出に貢献している。

2. 教育方法学を担当して 20 年目であるが、最近の学生に対しては講義を行っているだけでは十分な学習効果が望めない為、パワーポイントや演習型のハンドアウトを自作し、ある程度講義が進行した段階で学生がその講義の復習をハンドアウトにショートアンサーを書き込む事のできるようにしている。講義後に自宅で学習する事が望ましいのは勿論であるが、この方法では、講義中に全ての学生が少なくともショートアンサーを要求された部分については理解できるのが利点である。学生の授業評価で効果を確認している。

[研究活動]

[研究テーマ]

(1) 項目反応理論

- (2) フレーミング効果のメカニズム
- (3) 生活の質と高齢者の意思決定方略
- (4) 質問紙とWebを用いた社会調査法の比較及び計量分析

[著書、論文、総説]

1. 中学生における生活の質尺度の開発：項目反応理論による尺度開発，2006，澁谷秀，地域社会研究，14号，p1-24. 青森大学地域問題研究所
2. A町の中学生の子供を持つ家族の家族機能の特徴，2006，中村由美子，杉本晃子，赤羽里子，澁谷泰秀，下山裕子，米谷真紀子，小山内真貴子，工藤明美，青森県立保健大学誌，7巻，1号，p.45-52.
3. 養育期にある家族の家族機能測定尺度の開発，2006，中村由美子，澁谷泰秀，米谷真紀子，小山真貴子，工藤明美，吉川由紀子，赤羽衣里子，杉本晃子，青森立保健大学健康科学特別研究学術報告書（報告書）
4. 高齢者とのコミュニケーションにおけるフレーミング効果，2006，渡部諭，澁谷泰秀，青森大学・青森短期大学研究紀要，28, 3, 59-77.
5. フレーミング効果と高齢者のリスク回避傾向，2007，渡部諭，澁谷泰秀，地域社会研究，15, 53-64.
6. Shibutani, H., (2007). Fundamentals of a new generation of scale analysis: From classical test theory to item response theory, 2007, Regional Study, 15, 31-118.
7. フレーミング効果と高齢者のリスク回避傾向，2007，渡部諭，澁谷泰秀，地域社会研究，青森大学地域問題研究所，15号，pp.53-64,
8. 高齢者における右脳・左脳機能の志向性と幸福感との関連性，2008，澁谷泰秀，渡部諭，青森大学・青森短期大学研究紀要，31,1,27-46.
9. 高齢者と非高齢者の意思決定方略と生活の質(QOL)との関係，2008，渡部諭，澁谷泰秀，地域社会研究，16, 67-84.
10. 項目反応理論を用いたST簡便 QOL 尺度の分析－実測データと2-パラメタロジスティックモデルの比較－，(2008)．澁谷泰秀，地域社会研究，16, 11-29
11. ケアモデルの枠組みの作成過程，澁谷泰秀，浦野 茂，大平肇子，『エスノメソロジー的相互行為分析を用いた助産師のケアモデル作成に関する研究（平成18年度～20年度科学研究費補助金（基盤研究B：代表 村本淳子）研究成果報告書，7-13, 2008年3月（報告書）
12. フレーミング効果は高齢者とのコミュニケーションにおいてどのような意味があるか，澁谷 泰秀，渡部 諭，2007年度財団法人大川情報通信基金助成研究報告書，1-20, 2008年11月（報告書）
13. 病気の子供を持つ家族の家族機能モデルの構築，中村由美子，澁谷 泰秀，科学研究費補助金（基盤研究C）研究成果報告書，2009年3月（報告書）
14. 高齢者の意思決定と幸福感およびQOL（生活の質）との関係に関する研究 - 「すぐれた」意思決定を行なっている高齢者は「幸福」か，2009年，澁谷泰秀，渡部諭，日本興亜福祉財団平成18年度ジェロントロジー研究助成研究.（報告書）
15. 高齢者における右脳・左脳機能の志向性と幸福感との関連性，(2009)．澁谷泰秀，渡部諭，青森大学・青森短期大学研究紀要，31, 1, 27-45.
16. 青森県の出産率減少の要因分析と対応策の検討，(2009)，大関信子，澁谷泰秀，他，平成19年度～20年度青森県立保健大学特別研究(研究代表者大関信子)研究成果報告書，（報告書）
17. 半球優位性とフレーミング効果およびQOLとの関連性－高齢者と若年者との比較（2009)．澁谷泰秀，渡部諭，地域社会研究、17号，41-69.

18. 高齢者の意思決定特性と QOL との関係の研究, 渡部諭, 澁谷泰秀, 科学研究費補助金(基盤研究C)研究成果報告書, 2009年3月(報告書)
19. Shibutani, H. and Watanabe, S., (2009). Risky-choice framing effect and risk-seeking propensity: An application of IRT for analyzing a scale with a very small number of items. *Aomori University and Aomori Community College Academic Journal*, 32, 2, 65-80.
20. Watanabe, S., and Shibutani, H., (2010). Aging and decision making: Differences in susceptibility to the risky-choice framing effect between older and younger adults in Japan, *Japanese Psychological Research*, 52, 3,
21. Shibutani, H. & Watanabe, S., (2010) "An application of classical test theory, item response theory, and partially ordered scalogram analysis for evaluating the scalability of the risky-seeking propensity", *Journal of Aomori University and Aomori Junior College*, 33, 49-70
22. 澁谷泰秀・渡部諭, (2011). 『詐欺犯罪被害傾向と生活の質: 高齢者と若年成人との比較』, 青森大学・青森短期大学研究紀要, 第34巻, 89-112.
23. Shibutani, H. & Watanabe, S., (2011). A comparison of binary and polytomous IRT models in terms of the amount of information extracted from items in a risk-seeking propensity scale.", *Journal of Aomori University and Aomori Junior College*, 34, 165-181.
24. 澁谷泰秀, (2011). 『余暇満足度の妥当性評価: QOL 尺度の下位尺度としての余暇満足度』, 青森大学・青森短期大学研究紀要, 34, 121-163.
25. 澁谷泰秀・渡部諭, (2012). 『高齢者における自己効力と詐欺犯罪被害傾向及び生活の質との関連性: 高齢者の未来展望からの示唆』, 青森大学・青森短期大学研究紀要, 35, 181-202.
26. Watanabe, S. & Shibutani, H., (2012). Interactions between Risky Choice Framing Effect and Risk-seeking Propensity, *秋田県立大学総合科学研究彙報*, 13, 9-20.
27. 渡部諭・澁谷泰秀, (2012). 『犯罪被害に遭いやすい高齢者の認知バイアス- 高齢者はなぜ犯罪に狙われやすいか』社会安全研究財団 2010年度助成研究最終報告書, A4版 23ページ, 2012年1月提出.
28. 澁谷泰秀・渡部諭 2013「高齢者犯罪を防止するための再帰属プログラムの開発・研究」公益財団法人三菱財団助成研究, 2011年度報告書, 1-19 (2013).
29. 渡部諭・澁谷泰秀, (2013). 『振り込め詐欺被害に遭いやすい高齢者の認知バイアスの研究- 社会情動的選択性理論からの認知心理学的研究-』公益財団法人三井住友財団助成研究, 2012年度報告書, 1-25
30. 中村和生・柏谷至・澁谷泰秀・佐々木てる (2013) 『「フレーム」概念の検討- 環境配慮行動の分析にむけて-』 青森大学・青森短期大学研究紀要 35(3):73-94.
31. 小久保温・澁谷泰秀・吉村治正・渡部諭 (2013). 『Web 社会調査のためのマルチ・デバイスに対応したユーザー・インターフェイスの設計』青森大学・青森短期大学研究紀要, 35(3):115-128.
32. 澁谷泰秀・渡部諭 (2013) 「高齢者の社会情動的選択性とリスク志向性が生活の質に及ぼす影響」, 『青森大学研究紀要』, 36(2), pp9-32.
33. 吉村治正・小久保温・澁谷泰秀・渡部諭 (2014). 「社会調査の入力ミスの発生率について」, 『青森大学付属総合研究所紀要』, 15 (1), 1-5.
34. 小久保温・澁谷泰秀・吉村治正・渡部諭 (2014). 「社会調査における郵送とマルチ・デバイス Web アプリケーションの比較」, 『青森大学付属総合研究所紀要』, 15 (1),

6-9.

35. 澁谷 泰秀・吉村 治正・渡部 諭・小久保温 (2014). 「肯定的項目と否定的項目が社会調査データの分析に及ぼす影響：古典的テスト理論を用いた分析」, 『青森大学附属総合 研究所紀要』, 16(1), 1-13.

[学会発表]

1. Shibutani, H. , and Watanabe, S. , (2007). Application of IRT models for evaluating the risky-choice framing effect, International Meeting of Psychometric Society 2007, Tokyo, Japan, July 10th 2007.
2. 渡部諭, 澁谷泰秀, 『高齢者におけるフレーミング効果』, 日本認知心理学会, 千葉大学, 2008年5月31日
3. 渡部諭, 澁谷泰秀, 『高齢者におけるフレーミング効果について－意思決定方との関係－』, 日本行動計量学会, 成蹊大学 2008年9月3日.
4. 渡部諭, 澁谷泰秀, 『高齢者におけるフレーミング効果 - 意思決定方略と半球優位性 - 』, 日本心理学会, 北海道大学, 2008年9月21日.
5. 澁谷泰秀, 渡部諭, 『項目反応理論を用いたフレーミング効果とリスク志向性の関連性の分析』, 統計関連学会連合大会, 慶応義塾大学, 2008年9月8日.
6. Shibutani, H. , and Watanabe, S. , (2008). A Comparison of binary and polytomous IRT Models for analyzing a relationship between the risky-choice framing effect and risk-seeking propensity, International Association of Statistical Computing 2008, Yokohama Japan, December 7th 2008.
7. 澁谷泰秀, 渡部諭, 『高齢者におけるフレーミング効果に関する項目反応理論分析』, 老年心理学研究会 (高齢者心理学研究部会第1回研究会), 明治学院大学, 平成21年1月31日
8. 渡部諭, 澁谷泰秀, 『意思決定方略における年齢による相違と生活の質(QOL)』, 日本認知心理学会 (高齢者心理研究部会第4回研究会), 東京都健康長寿医療センター研究所, 2010年3月27日
9. 澁谷泰秀, 渡部諭, 『社会調査における測定と誤差 - 計量心理学的視点 - 』, Japanese General Social Survey Study Session, 大阪商科大学, 2010年3月28日
10. 渡部諭・澁谷泰秀 (2010). 『意思決定方略に対する年齢の影響と生活の質 (QOL) 調査データの分析』 日本行動計量学会第38回大会, 2011年9月14日, 埼玉大学.
11. 澁谷泰秀, 渡部諭, (2010). 『項目反応理論による情報関数とクロンバックの $\alpha$ による尺度の信頼性評価』, 2010年統計関連学会連合大会, 早稲田大学, 2010年9月5日.
12. 渡部諭・澁谷泰秀 (2011). 『積極性効果が高齢者のウェブ探索行動とウェブ上の意思決定に与える影響』 日本行動計量学会第39回大会, 2011年9月14日, 富山理科大学.
13. 澁谷泰秀, 渡部諭, (2011). 『回答者のリスク志向性がフレーミング効果に及ぼす影響の評価』, 2011年統計関連学会連合大会, 九州大学, 2011年9月5日.
14. 渡部諭・澁谷泰秀 (2012). 『高齢者の詐欺被害傾向と未来展望』 日本心理学会第76回大会, 2012年9月11日, 専修大学.
15. 渡部諭・澁谷泰秀 (2012). 『高齢者の詐欺被害傾向と未来展望の検討』 日本行動計量学会第40回大会, 2012年9月16日, 新潟県立大学.
16. 澁谷泰秀・渡部諭 (2012). 『高齢者における詐欺被害傾向と未来展望の関連性』 日本認知科学会第29回大会, 2012年12月13日, 東北大学.
17. 澁谷泰秀・渡部諭 (2013). 「詐欺犯罪被害傾向と意思決定モード」 認知心理学会高齢者心理研究部会第7回研究会, 2013年2月19日, 明治学園大学
18. 小久保温・澁谷泰秀・吉村治正・渡部諭 (2013). 「社会調査のためのマルチデバイス



Web アンケートシステムの開発」情報処理学会第 75 回全国大会, 2013 年 3 月 7 日, 東北大学

19. 渡部諭・澁谷泰秀 (2013). 「Taxometric 分析を用いた振り込め詐欺に対する高齢者の脆弱性の検討」, 日本行動計量学会第 41 回大会, 2013 年 9 月 5 日, 東邦大学

20. 澁谷泰秀・渡部諭・吉村治正 (2013). 「高齢者のフレーミング効果と意思決定モード: 項目反応理論と古典的テスト理論の相補的活用」, 統計関連学会, 2013 年 9 月 11 日, 大阪大学

21. 渡部諭・澁谷泰秀 (2013). 「若年者および高齢者における振り込め詐欺被害傾向の相違について-taxometric method による分析」, 日本認知科学会第 30 回大会, 2013 年 9 月 23 日, 玉川大学

22. 渡部諭・澁谷泰秀 (2013). 「高齢者の詐欺犯罪脆弱性に関する taxometric 分析」, 人工知能学会研究会, 2013 年 12 月 22 日, 岩手県立大学

23. 小久保温, 澁谷泰秀, 吉村治正, 渡部諭, (2014) 「郵送とマルチデバイス対応 Web システムによるハイブリッド社会調査の実証実験の解析」, 情報処理学会 第 76 回全国大会, 3 月 11 日, 東京電機大学

23. 小久保温, 澁谷泰秀, 吉村治正, 渡部諭, (2014). 「郵送とマルチデバイス対応 Web システムによるハイブリッド社会調査の実証実験の解析」, 情報処理学会 第 76 回全国大会, 3 月 11 日, 東京電機大学

24. 澁谷 泰秀・渡部 諭・吉村 治正・小久保 温 (2014). 「項目のワーディングが尺度に及ぼす影響: 項目反応理論と古典的テスト理論を用いた社会調査データの分析」, 日本テスト学会第 12 回大会, 2014 年 8 月 31 日, 帝京大学

25. 渡部諭・澁谷泰秀・吉村治正・小久保温 (2014). 「高齢者の詐欺犯罪脆弱性についての taxometric 分析」, 日本認知科学会第 31 回大会, 2014 年 9 月 19 日, 名古屋大学東山キャンパス

26. Watanabe,S., Shibutani,H., Yoshimura,H. & Kokubo, A. (2014). Analysis of personal networks maintained by the elderly in Japan, 2014 Asian Network for Public Opinion Research Annual Conference, Toki Messe Niigata, Nov, 26, 2014

[研究費の取得状況]

1. 文部科学省科学研究費 (基盤研究 B) 『エスノメソドロジー的相互行為分析を用いた助産師のケアモデル作成に関する研究』 (代表研究者 村本淳子: 三重県立看護大学) 研究分担者 (2006 年 4 月~2009 年 3 月)

2. 文部科学省科学研究費 (基盤研究 C) 『郵送調査におけるデータ精度向上のための実験的社会調査の実施』 (代表研究者 吉村治正: 青森大学) 研究分担者 (2008 年 4 月~2010 年 3 月)

3. 文部科学省科学研究費 (基盤研究 C) 『高齢者の意思決定特性と QOL との関係の研究』 (代表研究者 渡部 諭: 青森大学 (当時); 東北芸術工科大学) 研究分担者 (2008 年 4 月~2009 年 3 月)

4. 文部科学省科学研究費 (基盤研究 C) 『病気の子供を持つ家族の家族機能モデルの構築』 (代表研究者 中村 由美子: 青森県立保健大学) 研究分担者 (2008 年 4 月~2009 年 3 月)

5. 財団法人 日本興亜福祉財団 (研究助成 50 万円) 『高齢者の意思決定と幸福感および QOL (生活の質) との関係に関する研究—「すぐれた」意思決定を行なっている高齢者は幸福か?—』 (代表研究者 澁谷泰秀) 2006 年 12 月~2008 年 3 月)

6. 財団法人 大川情報通信基金 (研究助成 100 万円) 『高齢者とのコミュニケーションにおけるフレーミング効果』 (代表研究者 渡部 諭: 青森大学 (当時); 東北芸術工科大学)

研究分担者 (2008 年 4 月～2009 年 3 月)

7. 財団法人 電気通信普及財団 (研究助成 120 万円)『高齢者のウェブサービスとフレーミング効果 -これからの高齢者ネットリテラシーに期待するためには何が必要か-』(代表研究者 渡部 諭:青森大学(当時);東北芸術工科大学) 研究分担者 (2008 年 4 月～2010 年 3 月)

8. 財団法人 吉田秀雄記念事業財団 (研究助成 342.4 万円)『社会情動性選択理論に基づく高齢者のウェブメディア・リテラシーに関する研究 -情動広告が高齢者に与える影響-』(代表研究者 渡部 諭:青森大学(当時);東北芸術工科大学) 研究分担者 (2009 年 4 月～2011 年 3 月)

9. 公益財団法人 三井住友財団助成研究, 渡部諭 (代表研究者)・澁谷泰秀「振り込め詐欺被害に遭いやすい高齢者の認知バイアスの研究-社会情動的選択性理論からの認知心理学的研究-」2011～2012 年度, 600 千円 (総額).

10. 公益財団法人 三菱財団, 澁谷泰秀 (代表研究者)・渡部諭「高齢者犯罪を防止するための再帰属プログラムの開発・研究」2009 年 11 月～2012 年 10 月, 1,800 千円 (総額).

11. 文部科学省科学研究費 (基盤研究 C), 2011～2013 年度, 澁谷泰秀 (代表研究者)・吉村治正・渡部諭「高齢者の社会情動的選択性とリスク志向性が及ぼす生活の質への影響」, 4,680 千円 (総額).

12. 文部科学省科学研究費 (基盤研究 C), 2011～2013 年度, 吉村治正 (代表研究者)・澁谷泰秀・渡部諭「郵送・インターネットによる実験的な職歴調査の実施」5,200 千円(総額).

13. 文部科学省科学研究費 (基盤研究 C), 渡部諭 (代表研究者)・澁谷泰秀・吉村治正「社会情動的選択性から見た高齢者のソーシャルネットワークの研究」2012～2014 年度, 4,680 千円 (総額).

14. 文部科学省科学研究費 (基盤研究 C), 柏谷 至(代表研究者), 澁谷泰秀 (研究分担者)「環境配慮行動委における文化的フレームと意志決定モデルとの統合的アプローチ」2012～2014 年度, 4,800 千円 (総額).

15. 公益財団法人 大川情報通信基金 (研究助成 100 万円)『CASM を応用した WEB 会調査における PC、タブレット、スマホ、携帯電話を用いた反応の相違に関する研究』(代表研究者 澁谷泰秀:青森大学) (2014 年 4 月～2015 年 3 月)

16. 日工組社会安全財団 研究助成 (研究助成 270 万円)『振り込め詐欺脆弱性についての高齢者の認知特性に関する taxometric 分析』(研究代表者:渡部聡 秋田県立大学、研究分担者:澁谷泰秀)

[その他の活動]

[学内各種委員]

地域問題研究所所長、全学入試管理委員、社会学部資格審査委員、社会学部将来計画委員、社会学部自己点検委員、社会学部倫理・社会調査委員、社会学部入試選抜委員、

[学外各種委員]

FM青森番組審議委員 (2006～2007)

青森市立造道中学校学校評議委員 (2007～2010)

氏名 野崎 剛（のざき たけし）

所属 青森大学社会学部社会学科

職種 教授

生年月日 昭和 35（1960）年 1 月 27 日

[履 歴]

[学 歴]

1983 年 3 月 弘前大学人文学部文学科（東洋史専攻）卒業

1984 年 4 月 筑波大学大学院人文社会科学研究科歴史・人類学専攻修士課程入学

1986 年 3 月 筑波大学大学院人文社会科学研究科歴史・人類学専攻修士課程修了

1986 年 4 月 筑波大学大学院人文社会科学研究科歴史・人類学専攻博士課程入学

1991 年 3 月 筑波大学大学院人文社会科学研究科歴史・人類学専攻博士

課程満期退学

[学 位]

文学修士

[職 歴]

1996 年 4 月 青森短期大学商経科講師（2004 年 3 月まで）

2004 年 4 月 青森短期大学ビジネス創造学科助教授（2007 年 3 月まで）

2007 年 4 月 青森短期大学地域創造学科准教授（2009 年 3 月まで）

2009 年 4 月 青森短期大学地域創造学科教授（2013 年 3 月まで）

2013 年 4 月 青森大学社会学部教授（現在に至る）

[受 賞]

なし

[所属学会]

社会文化史学会

歴史人類学会

日本道教学会

[教育活動]

[担当科目]

日本史

外国史

図書館サービス概論

図書館情報資源概論

図書館制度・経営論

情報資源組織論

児童サービス論

情報サービス論

[卒業研究指導]

青森短期大学において「ねぶた・ねぶた」に関する地域資料に関する卒論指導をおこなった。

青森大学ではなし。

[ゼミ指導]

青森短期大学において図書館学のゼミを担当し、地域資料に着目してゼミ指導をおこない、「ねぶた・ねぶた」の文献目録の作成、ねぶた・ねぶた専門図書館の企画を指導した。

青森大学では、2013 年度ゼミを担当。青森ねぶたの文献資料を使つての考察をおこなう。

【教育指導に関する特記事項】

1, 短期大学において図書館学のゼミを担当し、地域資料に着目した

【研究活動】

【研究テーマ】

1, 中国清代少数民族史

2, ねぶた・ねぶた文献史および書誌学

【著書、論文、総説】

1, 「道教官表・道教文献目録」『道教 3 道教の伝播』（平河出版社）（編集協力・共著）  
1983 年 8 月

2, 「清代雍正年間の改土帰流について—四川と貴州を中心に—」筑波大学大学院修士論文（単著）1985 年 3 月

3, 「広西土司と土目について—その族譜の存在を中心として—」『史峯』創刊号（単著）  
1988 年 7 月

4, 「明清宗教史研究文献目録」『史峯』第 4 号別冊（共著「明清宗教史研究文献目録」）  
1992 年 3 月

5, 『ねぶた・ねぶた専門図書館所蔵目録』青森短期大学ライブラリーコース発行・青森短期大学ホームページに掲載（単著）2005 年～2012 年 10 月

6, 「大学図書館で〈探す〉〈調べる〉」青森大学・青森短期大学附属図書館報『書物の森』  
第 23 号（単著）2010 年 7 月

【学会発表】

なし

【その他の活動】

青森短期大学において図書館学のゼミで、ねぶた・ねぶた専門図書館の企画を指導し、2005 年から 2012 年の大学祭において一般に公開するとともに、ねぶた・ねぶたに関する文献の書誌情報を学外に提供した。

2012 年 8 月 8 日、青森大学ホームページに「青森ねぶたと青森山田学園ねぶた」のエッセイ第 1 回目「ねぶたの歴史」を執筆

2013 年 3 月 22 日、青森大学ホームページに「青森ねぶたと青森山田学園ねぶた」のエッセイ第 2 回目「青森山田学園ねぶたの歴史（前編）」を執筆

2013 年 7 月 15 日、年青森山田学園ホームページに「青森ねぶたと青森山田学園ねぶた」のエッセイ第 3 回目「青森山田学園ねぶたの歴史（中編）」を執筆

2013 年 11 月 29 日、年青森山田学園ホームページに「青森ねぶたと青森山田学園ねぶた」のエッセイ第 4 回目「青森山田学園ねぶたの歴史（後編その 1）」を執筆

【公開講座、講演、セミナー】

青森県総合学校教育センターにおいて県内教員に対する司書教諭の講義「図書の整理」担当（1998 年 12 月）

【学内各種委員】

総合研究所文化・環境研究班班員

図書委員会委員

入試管理委員会委員

学術研究会編集委員

学修支援センター員

氏名 船木 昭夫 (FUNAKI Akio)

所属 社会学部社会福祉学科

職名 教授

生年月日 1956 年 6 月 6 日

[履歴]

[学歴]

1979 年 3 月 東北福祉大学社会学部社会福祉学科卒業

[学位]

社会学士

[職歴]

1979 年 4 月 八甲病院 精神科ソーシャルワーカー

1997 年 4 月 精神障害者地域生活支援センター八甲 精神科ソーシャルワーカー

2001 年 4 月 むつ総合病院精神科 精神保健福祉士

2002 年 4 月 青森大学社会学部社会福祉学科 就任

[受賞]

東北地方更生保護委員会感謝状 2006

札幌矯正管区感謝状 2012

[所属学会]

日本精神保健士協会

SST 普及協会

[教育活動]

[担当科目]

医療ソーシャルワーク援助論、更生保護制度、精神保健福祉援助演習Ⅰ、社会福祉学演習 A・B、コミュニケーショントレーニング、精神保健福祉援助技術各論、社会福祉援助技術演習Ⅱ、人間関係とコミュニケーション、家族関係学、保健医療サービス

2013 年度

保健医療概論、コミュニケーション技術、精神保健福祉援助演習（基礎）、医療ソーシャルワーク論、精神保健福祉論、精神障害者の生活支援システム、基礎演習 A・B、精神保健福祉援助技術各論、精神保健福祉に関する制度とサービス、更生保護論

[卒業研究指導]

2007 年卒業研究： 17 名

2008 年卒業研究： 19 名

2009 年卒業研究： 2 名

[ゼミ指導]

2006 年 科学方法論演習Ⅰ・Ⅱ（2 年ゼミ）： 20 名

社会福祉学演習ⅠA・B（3 年ゼミ）： 19 名

2007 年 社会福祉学演習ⅠA・B（3 年ゼミ）： 19 名

社会福祉学演習ⅡA・B（4 年ゼミ）： 17 名

2008 年 社会福祉学演習ⅡA・B（4 年ゼミ）： 19 名

2009 年 社会福祉学演習 A・B（4 年ゼミ）： 21 名

2010 年 社会福祉学演習 A・B（4 年ゼミ）： 16 名

2011 年 社会福祉学演習 A・B（4 年ゼミ）： 14 名

社会福祉学基礎演習 A・B（1 年ゼミ）： 17 名

2012 年 一般教養演習Ⅰ・Ⅱ（1 年ゼミ）： 17 名

2013 年 社会学部基礎演習 A・B (1 年ゼミ) : 18 名

[教育指導に関する特記事項]

- 1, 社会福祉士国家試験支援のため、特別講義を行っている。
- 2, 精神保健福祉士国家試験支援のため、特別講義を行っている。
- 3, 精神保健福祉の理解のため、学生とともに精神科病院、精神保健福祉施設等に訪問し、利用者等と交流している。
- 4, 更生保護の理解のため、学生とともに更生保護施設プラザあすなろに訪問し、利用者と交流している。

[研究活動]

[研究テーマ]

- (1) 精神保健福祉
- (2) 認知行動療法・SST (ソーシャル・スキルズ・トレーニング)
- (3) 福祉オンブズマン活動のあり方
- (4) 自殺予防対策

[著書、論文、総説]

- 1, 船木昭夫: 「精神障害者雇用促進事業の調査・研究報告書」、青森県精神障害者雇用促進事業評価委員会編、青森県精神障害者社会復帰施設協会、2006、
- 2, 船木昭夫: 「ジョブサポーター育成研修テキスト」、P110~P119 第 9 章ジョブコーチロールプレー『障害者とのコミュニケーション』、青森県すこやか福祉事業団監修 2006、
- 3, 船木昭夫: エッセイ SST と私「SST でなにが変わるか」、こころの科学 本人・家族のための SST 実践ガイド、P 101-102、日本評論社 2008、
- 4, 船木昭夫: 「青森県自殺対策取り組み検証事業報告書」、青森県自殺対策検証研究会、2011、2012

[研究費の取得状況]

- 1, 船木昭夫: 介護福祉士養成施設動向調査、1,710,000 円、青森県健康福祉部、2009、
- 2, 船木昭夫: 青森県自殺対策取り組み検証事業、3,899,500 円、青森県、2011、2012、2013

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

公開講座の企画・開催運営を担当する。

- 1, ルーテル学院大総合人間学研究科教授 前田 ケイ氏、「豊かな社会生活と人間関係力」、2008、6 月
- 2, ホテル青森社長 久保 和見氏、「ホテル経営と心の健康」、2008、10 月
- 3, 弘前・愛成会病院長 田崎 博一氏、「精神障害治療への取り組みの現状」、2008、10 月講演、出張講義等

学校法人古川学園高等学校、「高校生のこころの健康」、古川市、2006、8 月

八戸市教育委員会、「明るい職場・家庭とメンタルヘルス」、八戸市、2006、8 月

青森市男女共同参画課、「メンタルヘルスについて」、青森市女性の家、2006、9 月

上十三地区家族学習交流会、「自分らしく生きるために」、十和田市、2006、10 月

むつ市立角違小中学校、「未成年者の飲酒は危険です」、むつ市、2006、11 月

青森県立百石高校、「ストレスとコミュニケーション」、百石町、2006、11 月

野辺地町教育委員会、「ストレスとコミュニケーション」、野辺地町、2006、11 月

ホテル青森職員研修「明るい職場・家庭とメンタルヘルス」、ホテル青森、2006、12 月

家庭裁判所調査官研修会青森家庭裁判所主催「集団援助技術とSST」青森家庭裁判所、2007、7月

社会復帰のためのSST、函館少年刑務所、2007、7月

児童員養成研修会秋田県主催「集団援助技術」秋田市・横手市・大館市、2007、7月

福祉オンブズマン養成講座、青森市しあわせプラザ、2007、7月

青森県男女共同参画センター相談員スーパービジョン、アピオあおもり、2007、8月

発達障害者中学生グループSST、青森県発達障害者支援センター、2007、9月

青森県立百石高校、「高校生のこころに健康」、百石町、2007、10月

三沢市校長会、「明るい職場・家庭とメンタルヘルス」、三沢市、2007、11月

知的障害者更生施設妙光園、「明るい職場・家庭とメンタルヘルス」、2008、3月

カントリージェントルマンクラブ、「ストレスとコミュニケーション」、2008、4月

医療法人青仁会法人研修会、講演「医療倫理について」、青南病院千葉記念ホール、2008、7月

特定非営利活動法人レジオン・ラポール、「よりよい人間関係を築くコミュニケーションとは」、青森市、2008、7月

函館少年刑務所受刑者研修、「問題解決場面への対応・SST（生活技能訓練）」、函館少年刑務所、2008、8月

青森県社会福祉協議会主催、介護支援専門員実務研修受講試験準備講習会、「高齢者保健・医療の基礎知識」、県民福祉プラザ、2008、8月

青森県言語障害児教育研究会主催、言語障害部会夏季研修会、「SST（生活技能訓練）」、青森県社会教育センター、2008、8月

青森山田高校修養会、「よりよい人間関係を築くコミュニケーション」、2008、9月

青森少年院、SST（生活技能訓練）「危機場面での対処方法」、青森少年院、2008、9月

青森県すこやか福祉事業団、「ストレスとコミュニケーション」、福祉プラザ、2008、9月

青森県社会福祉協議会主催、介護福祉基礎講座、「社会福祉援助技術」、県民福祉プラザ、2008、9月

青森県児童館連絡協議会主催、児童厚生二級指導員研修会、「集団援助活動」、アピオ青森、2008、9月

北五中学校教育研究会、「未成年者の飲酒は危険です」、五所川原市、2008、10月

弘前愛成会病院研修会、「SST」弘前愛成会病院研修室、2008、11月

青森市地域包括支援センター連絡会職員研修会、「リスクマネジメント」、しあわせプラザ、2008、11月

青森県民生委員児童委員協議会、「相談技法研修」、アラスカ会館、2008、11月

青森市地域包括支援センター連絡会職員研修会、「ストレスコーピング」、しあわせプラザ、2008、12月

青森県発達障害支援センター主催、中学・高校生グループ指導「SST（生活技能訓練）」、青森県発達障害支援センター、2007、6月～2008、3月

青森県発達障害支援センター主催、SST（生活技能訓練）リーダー養成研修会、青森県発達障害支援センター、2008、9月～12月

青森障害者職業センター研修会、「発達障害者へのSST」、2009、1月

函館少年刑務所受刑者研修、問題解決場面への対応・SST（生活技能訓練）」、函館少年刑務所、2009、2月

青森県社会福祉協議会、コミュニティワーカー研修会、浅虫・海扇閣、2009、2月

青森県立精神保健福祉センター地域生活支援研修、「認知行動療法と地域生活支援」、2009、6月

南部町立福地中学校、「コミュニケーション方法を学ぼう」、南部町、2009、7月  
青森県消費者協会、「消費生活啓発講座」、県民福祉プラザ、2009、7月  
函館少年刑務所受刑者研修、「問題解決場面への対応・SST（生活技能訓練）」、函館少年刑務所、2009、9月  
財団法人こころすこやか財団、福祉人材育成事業、「認知行動療法」、福祉育成人材センター、2009、10月  
むつ市社会福祉大会、「認知症を理解し、地域で支えるために」、むつプラザホテル、2009、11月  
つがる市役所職員研修、「健康教室・ストレスとコミュニケーション」、つがる市役所、2009、11月  
保育施設職員研修会、「児童福祉におけるソーシャルワーク」、しあわせプラザ、2010、1月  
青森障害者職業センター職員研修、「職場のメンタルヘルス」、青森障害者職業センター、2010、1月  
医療法人青仁会研修、「個人情報法の理解のために」、医療法人青仁会メモリアルホール、2010、1月  
財団法人こころすこやか財団福祉人材育成センター、「S S T（生活技能訓練）」、2010、2月  
十和田市ほのぼのの交流事業研修会、「よりよいコミュニケーション」、十和田市総合福祉センター、2010、3月  
青森市民間福祉施設職員研修会、「ストレスとコミュニケーション」、しあわせプラザ、2010、3月  
介護老人保健施設青森ナーシングライフ、「明るい職場・家庭とメンタルヘルス」、2010、3月  
函館少年刑務所受刑者研修、「問題解決場面への対応・SST（生活技能訓練）」、函館少年刑務所、2010、3月  
青森若者サポートステーション、フリーター支援「社会人基礎力アップセミナー」、アスパム、2013、10月、12月  
青森市若者に対する消費生活教育推進モデル事業、担当施設・青森第二養護高等学校、精神障害者通所施設クッキー、青森大学1年ゼミ、2013  
函館少年刑務所受刑者研修、「問題解決場面への対応・SST（生活技能訓練）」、函館少年刑務所、2014、2月  
盛岡少年院入所者研修、「SST（生活技能訓練）」、盛岡少年院、2014、3月  
青森県地域生活定着支援センター処遇困難検討会、県民福祉プラザ、2014、5月  
青森市教育委員会少年指導委員研修会、「よりよいコミュニケーション」、2014、6月  
青森県日常生活自立支援事業研修会、「対人援助の方法」、県民福祉プラザ、2014、6月  
青森県立青森工業高校、「よりよいコミュニケーション」、2014、6月  
全国情緒障害児短期治療施設職員研修会、「事例検討」、ホテル青森、2014、7月  
教員免許状更新講習、「子ども、大人のためのSST」、青森大学、2014、7月  
函館少年刑務所受刑者研修、問題解決場面への対応・SST、函館少年刑務所、2014、9月  
青森県自殺対策連絡協議会、報告「青森県自殺対策状況」、アラスカ会館、2014、9月  
青森県社会福祉主事資格認定講習会、「グループワーク」、青森県立保健大学、2014、9月  
北海道・北東北情緒障害児短期治療施設職員研修会、「職場のメンタルヘルス」、2014、10月  
青森県社会福祉主事資格認定講習会、「グループワーク」、青森県立保健大学、2014、11



月

SST 北東北支部「中級研修会」講師、秋田県青少年交流センター、2014、11月  
青森高齢・障害者雇用支援センター、障害職業生活相談員資格認定講習会、2014、11月  
青森県西北中教研健康教育部会秋季研修会、「SSTと健康教育」、2014、11月  
青森職業訓練支援センター、「明るい職場・家庭とメンタルヘルス」、2014、11月  
秋田県鹿角市立十和田小学校「SST講座」、鹿角市、2014、12月  
盛岡少年院、入院者研修「SST」、盛岡市、2015、2月  
上十三地区障がい者就労支援セミナー、「就労支援とSST」、三沢市、2015、2月  
ジョブカフェあおもり、「若年者就職支援ミニセミナー」むつ市、2015、2月  
ジョブカフェあおもり「社会人基礎力アップセミナー」青森市、2015、3月  
青森県「こころの相談窓口ネットワーク」相談担当者研修会、アラスカ会館、2015、3月  
青森県立青森中央高校、「よりよいコミュニケーション」、2015、3月

[学内各種委員]

2006年、学生委員会、組換えDNA実験安全委員、公務員受験対策講座、  
2007年、入試管理委員、入試選抜委員、将来計画委員、組換えDNA実験安全委員、  
学際情報研究所運営委員、地域問題研究所所員

2008年、入試管理委員、入試選抜委員、将来計画委員、学生募集連絡会、学際情報研究所運営委員、地域問題研究所所員

2009年、入試管理委員、入試選抜委員、将来計画委員、学生募集連絡会、地域問題研究所所員

[学外各種委員]

青森地域広域事務組合介護認定審査委員

青森市健康福祉行政運営協議会運営委員

青森市健康福祉行政運営協議会障害者部会副部長

青森市健康福祉審議会委員

青森市障害者自立支援協議会議長

青森県女性相談所苦情処理第三者委員会委員長

青森県精神保健福祉協会評議員

青森県福祉オンブズマン研究会代表

青森県医療ソーシャルワーカー協会会長

青森県精神障害リハビリテーション研究会副会長

青森県自殺対策連絡協議会委員

青森県介護予防市町村支援委員会委員

青森県介護予防市町村支援委員会閉じこもり・認知症・うつ部会委員

青森県社会福祉協議会評議員推薦委員会委員

青森県社会福祉協議会理事

青森県福祉人材センター運営委員会担当理事

大学コンソーシアム青森協議会委員

SST 普及協会理事・北東北支部支部長

精神保健参与員

配偶者からの暴力被害者支援アドバイザー

あおもり共生社会づくり推進会議議長

氏名 長内 直人 (Naoto,Osanai)

所属 青森大学社会学部社会学科

職名 准教授

生年月日 1967年8月27日

[履歴]

[学歴]

1990年 青森大学社会学部社会学科卒業

1992年 東北福祉大学大学院社会福祉学研究科社会福祉学専攻修士課程卒業

[学位]

社会福祉学修士 1992年3月 東北福祉大学

[職歴]

1992年4月 青森短期大学 専任講師

1996年4月 青森大学社会学部社会学科 助手

1997年4月 青森大学社会学部社会福祉学科 専任講師 現在に至る

[受賞]

[教育活動]

[担当科目]

卒業論文指導Ⅰ・Ⅱ、卒業論文、ソーシャルワーク演習A、ソーシャルワーク演習B、  
ソーシャルワーク演習E、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、ソーシャルワーク実習  
Ⅰ・Ⅱ、相談援助の基盤と専門職Ⅰ、相談援助の理論と方法Ⅲ、社会保障論Ⅰ、社会保障  
論Ⅱ

[ゼミ指導]

ソーシャルワーク演習A・B(2年ゼミ)において福祉実習の事前教育関わる指導を  
行った。

卒業論文指導Ⅰ・Ⅱにおいて卒業論文執筆にかかわる指導を行っている。

[教育指導に関する特記事項]

社会福祉士及び精神保健福祉士国家試験対策委員委員として、特別講座を開催して  
いる。

社会福祉士及び精神保健福祉士国家試験対策のために個別に勉強会等を行っている。  
ソーシャルワーク実習の事前指導として補講を行っている。

[研究活動]

[研究テーマ]

(1)現場実習における有効的指導法。

(2)現場実習における事前教育(感性と観察的視点の強化)の方法論について。

(3)北欧の社会福祉(社会保障)政策について。

[著書、論文、総説]

(1)「安楽死における死の問題」

青森大学・青森短期大学学術研究会発表会(1992年7月)

(2)「安楽死について」

青森県保健福祉学会(1994年2月)

(3)「高齢化社会における死の問題」

青森大学・青森短期大学研究紀要18巻一第2号(1995年11月)

(4)「単親家族・離婚における今日的課題」

青森大学・青森短期大学研究紀要34巻一第3号(2012年2月)

(5) 「自殺における今日的課題～社会福祉・社会病理的視点から～」  
青森大学・青森短期大学研究紀要35巻一第3号（2013年2月）

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

(1)平成20年(2008年)9月27日

青森県民主医療機関連合会「欧米の社会福祉」

(2)平成21年(2009年)3月6日

青森県福祉・介護人材確保対策事業

(進路選択学生等支援事業)

(3)平成23年(2011年)7月16日青森県社会福祉士会実習指導者フォローアップ研修会「実習生に対する実習指導の在り方」

(4)平成23年(2011年)10月26日青森中央市民センター「北欧の社会福祉」

その他、オープンキャンパス及び大学見学会における講義多数。

[学内各種委員会]

(1)入試選抜

(2)就職(副委員長)

(3)実習

(4)IT・HP作業部会(副委員長)

(5)国家試験対策(副委員長)

(6)学生募集委員会

氏名 櫛引 素夫(KUSHIBIKI Motoo)

所属 社会学部社会学科

職種 准教授

生年月日 1962年12月19日

【履歴】

【学歴】

1985年3月 東北大学理学部地理学科卒業

1987年3月 東北大学大学院理学研究科（地学専攻）博士前期課程修了

2006年3月 弘前大学大学院地域社会研究科（後期3年博士課程）修了

【学位】

理学修士

博士（学術）

【職歴】

1986年4月 東北学院榴ヶ岡高校非常勤講師（1987年3月まで）

1987年4月 株式会社東奥日報社（2013年3月まで）

【受賞】

特記事項なし

【所属学会】

日本地理学会、東北地理学会、経済地理学会、日本都市学会、日本地域政策学会、地域経営学会、日本地球惑星科学連合、日本マス・コミュニケーション学会

【教育活動】

【担当科目】

青森大学基礎スタンダード「社会と環境」、「学問のすすめ」、地域貢献プランニング（コーディネーター）、メディア論Ⅰ・Ⅱ、地域社会学Ⅰ・Ⅱ、社会学演習Ⅴ・Ⅵ、就職活動実践演習Ⅱ

【卒業研究指導】

【ゼミ指導】

2015年度：社会学演習Ⅴ・Ⅵ（11人）

2014年度：社会学演習Ⅱ（16人）

社会学演習Ⅲ（15人）

※社会学演習Ⅳ（26人＝菅ゼミ）サポート

2013年度：基礎演習A（15人）

社会学演習Ⅱ（17人）

社会学演習Ⅲ（11人）

社会学演習Ⅳ（9人）＝幸畑プロジェクト・サポート

【教育指導に関する特記事項】

専門地域調査士（日本地理学会認定）や防災士（日本防災士機構認定）の視点を生かし、学修と地域貢献・社会貢献活動、さらに就職活動を一体化させた指導をイメージして、一つの能力や経験の獲得が、他の領域へ連鎖的に発展・展開していくことを実感させる授業・指導を目指している。各授業において、ソーシャルメディアやマスメディアを活用し、時事の話題を可能な限り採り入れながら、基礎的な知識と体系だった思考、リテラシー（読解力・表現力）の育成に努めている。

特に新聞については、学生が情報を得るだけでなく、自らを内省するツールとしても積極

活用している。パワーポイントやオンラインのビデオ・コンテンツを積極的に採り入れ、また、各授業とも原則としてミニ・レポートを毎回提出させて、アクティブ・ラーニングの進展を図るとともに、卒業生や先輩学生、外部スピーカーを直接、またはオンラインで招き、「社会の中の大学」を実感させる仕組みづくりに取り組んでいる。

#### 【研究活動】

##### 【研究テーマ】

- 地理学分野(整備新幹線の政治的・経済的・社会的諸課題、人口減少・過疎問題)
- 幸畑プロジェクト(青森市・幸畑団地の地域社会研究ならびに地域貢献)
- 平内プロジェクト(平内町における地域再発見・若者ネットワークづくり)
- 地域防災力の向上
- メディア論(特に新聞産業論・新聞労働論、東日本大震災との関連)

##### 【著書、論文、総説】

1. 榎引素夫：「地域振興と整備新幹線—『はやて』の軌跡と課題」、136p、弘前大学出版会、2007
2. 弘前大学震災研究交流会編：「東日本大震災 弘前大学からの展望 2011-2012 —それぞれの3. 11—」、弘前大学出版会、2013(執筆分担)
3. 榎引素夫、北原啓司：「東北新幹線八戸開業が地元にもたらした経済的、社会的 変化と課題」、弘前大学大学院地域社会研究科年報、p76-95、2005
4. 戸所隆ほか 16名：「実務地理関係者の活動実態とその社会貢献の在り方に関する調査研究」(平成21年度財団法人国土地理協会研究助成事業、2010)
5. 社団法人日本地理学会企画専門委員会：「実務地理関係者の活動実態とその社会貢献の在り方に関する調査研究」(E-journal GEO Vol.6, No.1 P38-71, 2011(執筆分担))
6. 榎引素夫：「北海道新幹線開業への課題—道南地域と青森県を中心に」、青森大学研究紀要、36(2)、pp33-52、2013.11
7. 榎引素夫：「北陸新幹線開業をめぐる地域課題—上越、富山、金沢地域の比較」青森大学研究紀要、36(3)、p219-238、2014.2
8. 榎引素夫：「『新幹線効果』を考える—八戸・弘前・青森」、地域社会研究/弘前大学地域社会研究会編;弘前大学大学院地域社会研究科監修、(7)、p135-145, 2014.3
9. 榎引素夫：「幸畑団地における居住動向の変化と地域課題」、青森大学附属総合研究所紀要、15(1)、p11-24(菅勝彦ほか9名との共著)、2014.3
10. 榎引素夫：「青森市の観光ボランティアにみる東北新幹線開業への評価」青森大学附属総合研究所紀要、16(1)、p14-22, 2014.9
11. 榎引素夫：「整備新幹線が地域にもたらす変化の検討—『存在効果』を中心に」、地域社会研/弘前大学地域社会研究会編;弘前大学大学院地域社会研究科監修、(8)、p136-145, 2015.3

##### 【学会発表】

1. 「東北新幹線八戸駅開業に向けての地元の諸課題」(東北地理学会 2002年秋季学術大会、2002.10.12)
2. 「東北新幹線八戸駅開業に伴う変化(速報)」(東北地理学会 2003年春季学術大会、2003.5.18)
3. 「東北新幹線八戸駅開業が地域に及ぼした効果・影響」(経済地理学会北東支部 2003年11月例会、2003.11.29)
4. 「東北新幹線八戸開業が住民にもたらした変化と課題」(日本都市学会第51回大会、2004.10.16、北原啓司と連名)

5. 「東北新幹線・新青森開業に向けての地域の諸課題」(東北地理学会 2008 年春季学術大会、2008.5.18)
  6. 「東北新幹線・新青森開業への対応と課題—八戸開業との対比から—」(東北地理学会 2009 年秋季学術大会、2009.10.3)
  7. 「東日本大震災とメディア・ビジネスモデル—東北の地方紙を中心に—」(東北地理学会 2011 年春季学術大会、2011.5.15)
  8. 「東日本大震災へのメディアの対応—東北の地方紙を中心に—」(東北地理学会 2011 年秋季学術大会、2011.10.9)
  9. 「青森県の準限界集落にみる他出者の動きと内面」(青森大学地域貢献センター・国立民族学博物館共同研究会「人の移動と地域を考える」、2013.6.15)
  10. 「災害と報道の狭間—地域防災力強化への視点—」(弘前大学震災研究交流会、2013.12.10)
  11. 「郊外型住宅団地における人口の変化と空き家の状況—青森市幸畑団地の事例から—」東北地理学会春季学術大会 (2014.5.18)
  12. 「整備新幹線開業をめぐる空間的・時間的課題—北陸・北海道新幹線を中心に—」、東北地理学会春季学術大会 (2014.5.18)
  13. 「整備新幹線の開業に関する地理学的視点からの論点整理—東北・北海道新幹線の事例から—」、日本地理学会秋季学術大会 (2014.9.20)
  14. 「新聞産業の現状とジャーナリズムの行方」、日本マス・コミュニケーション学会秋季研究発表会ワークショップ (2014.11.8=藤森研と連名)
  15. 「道南開業の特徴と課題:九州・北陸・東北との比較から」経済地理学会北東支部 11 月例会 (2014.11.15)
  16. 「青森県の住民意識にみる東北新幹線の開業効果—青森, 弘前, 八戸市の調査から」、日本地理学会春季学術大会 (2015.3.28)
- [その他の著作物]
1. フォーラム「不透明な東北新幹線八戸延伸の効果」、季刊地理学、54(2)、p117-120、東北地理学会、2002
  2. フォーラム「地理と学校と新聞—NIE の持つ可能性」、季刊地理学、54(4)、p251-254、東北地理学会、2002
  3. 『『あらざる、等しからざるを憂えず』—巨大開発が青森県にもたしたものの』、地域政策 2005 年・夏季号、三重県、2005) 地
  4. 「九州新幹線開業前夜・新幹線開業がもたらしたものの」(7 回連載)、九州経済調査月報／九州経済調査協会編、63～69、2010～2011) 調
  5. 「新青森開業の準備はなぜ『進まない』か—東北新幹線の政策的な課題と可能性」、地域社会研究／弘前大学地域社会研究会編;弘前大学大学院地域社会研究科監修、(3)、p27-37、2010
  6. 「震災とメディア : 東北の地方紙を中心に」、地域社会研究／弘前大学地域社会研究会編;弘前大学大学院地域社会研究科監修、(5)、p55-64、2012
  7. フォーラム「東日本大震災以降の地理学とマス・メディアの関係性の課題」季刊地理学、64(1)、p12-15、東北地理学会、2012
  8. 「試される地域経営力 : 「全国最長の並行在来線・青い森鉄道」(特集 並行在来線と暮らし)、月刊地理、57(10)、p68-75、古今書院、2012
  9. 「整備新幹線の『開業効果』をどうみるか—青森県の事例から (特集 新幹線延伸により変わる地域)、NETT、No.78、p10-13、ほくとう総研、2012
  10. 「北陸新幹線開業に思う」、2014 年 1 月 15 日付北日本新聞朝刊寄稿

- 11.「北海道新幹線開業に向けた連携態勢の整理と今後の課題ー北陸新幹線の開業準備事例などから」、平成 25 年度青森県商工会議所連合会補助事業「商工業に関する調査・研究事業」、p28、2014.3
- 12.「東北新幹線の歴史から」、2014 年 7 月 29 日～31 日付・函館新聞朝刊寄稿（3 回続き）
- 13.「社会に向き合う覚悟をーメディア活用の重要性」、月刊地理、60(1)、p32-35
- 14.「青森市・幸畑団地の取り組みー連載・空き家が増える都市と郊外 なぜ？どうする？第 6 回」、月刊地理、60(3),p72-78
- 15.「東北新幹線の開業が地元の生活に及ぼした影響の検証ならびに北海道新幹線の開業準備の検討と提言」、平成 26 年度青森学術文化財団助成事業・成果報告書、p48、2015.3
- 16.「北陸新幹線の開業が東北地方の交通に及ぼす広域的变化の基礎調査」、平成 26 年度ほくとう総研地域活性化連携支援事業・成果報告書、p21、2015.3
- 17.「北陸新幹線の開業が東北地方の交通に及ぼす広域的变化の基礎調査～『2014 年問題』が提示する諸課題」、NETT、No.88、p、ほくとう総研、2015.4

【その他の活動】

放送大学非常勤講師（2014 年度～）

青森地方労働審議会委員（2013 年 9 月～）

青森地方最低賃金審議会委員（2015 年 4 月～）

青森地方労働審議会・青森県電気機械器具製造業最低工賃専門部会委員（2013 年 12 月～）

青森労働局労働関係紛争担当参与（2015 年 4 月～）

青森県オープンデータ検討会委員（2014 年 4 月～）

青森県あおもり共助社会づくり推進事業協働プロジェクト認定審査会委員（2014 年 6 月～）

NPO 法人青森県防災士会理事（2012 年 4 月～）

NPO 法人ひろだりサーチ理事（2014 年 5 月～）

「大学生観光まちづくりコンテスト 2014」北日本ステージ運営委員（2014 年 4 月～）

幸畑団地地区まちづくり協議会運営委員（2014 年 7 月～）

青森大学×平内町連携プロジェクト実行委員会・副実行委員長（2014 年 11 月～）

津軽鉄道活性化支援（2014 年 12 月～）

東北地理学会評議員（2013 年 4 月～）

弘前大学大学院地域社会研究科客員研究員（2013 年 4 月～）

新幹線ほくとう総研連携研究会会員（2014 年 10 月～）

弘前大学地域社会研究会会員

弘前大学防災社会研究会会員

専門地域調査士（日本地理学会）

こぎんフェス実行委員会委員（2013 年 2 月～）

青森 KEN 民塾・世話人（2012 年 5 月～）

文部科学省大学設置審議会文学専門委員会委員（2010 年 4 月～2013 年 3 月）

新聞労連・産業政策研究会研究員（2007 年 8 月～2013 年 9 月・座長＝2011 年 9 月～2013 年 9 月）

新聞労連・消費税問題対策チーム・コーディネーター（2013 年 12 月～2014 年 4 月）

日本地理学会企画専門委員（2006 年 4 月～2010 年 3 月）

【公開講座、講演、セミナー】

1.経済地理学会北東支部 10 月例会シンポジウム「改正まちづくり三法の施行と地方都市中心商店街の再生について」報告者:「コンパクトシティの取り組みと背景ー青森市を中心に」(2006.10.21)

2.福岡県主催・九州新幹線研修会講師「新幹線開業と地域振興ー『2011 年春』への視点ー」

(2008年10月、久留米市)

- 3.国土交通省東北運輸局主催・鉄道シンポジウム・パネリスト提起「『2010』へのハードルー東北新幹線・新青森駅開業」(2008年10月、青森市)
- 4.コープあおもり研修会講演:「21世紀をどう生き抜くかー高齢化・人口減・新幹線開業・暮らしの知恵」、2008.11.21)
- 5.日本地域政策学会シンポジウム「港・駅を活かしたコンパクトなまちづくり」討論者:(2008.7.6)
- 6.「新幹線開業をどう迎えるかー『東北』の事例から」(第3回「北海道新幹線地域活性化フォーラム」、函館市、2008.11.8)
- 7.九州・沖縄地連春闘討論集会講演:「嵐にたつ新聞ーマルチメディア社会の中で」(2009.1.15)
- 8.新聞労連九州・沖縄地連春闘学習会講演:「新聞が生き残っていくには」(2010年1月21日)
- 9.「あおもり経済デザイン会議」提起・パネリスト「新幹線開業をどうとらえるかー青森・津軽の現状と課題」:(青森市、2010.2.19)
- 10.新聞労連東北地連春闘学習会講演「新聞が生き残っていくには」(2010年2月4-5日)
- 11.青森中央学院大学・連続公開講座講義「新幹線開業をめぐる光と影ー東北新幹線全線開通ー」(2010.9.1)
- 12.新聞労連・中四国地連春闘討論集会講演「『NIE』『読者ニーズ』の視点からー産政研2010年報告書を読む」(2011.1.14)
- 13.函館・新幹線開業対策塾講演「津軽からみた新青森開業ー整備新幹線と地域の課題ー」(2011.2.8)
- 14.新聞労連・産業政策研究会全国集会(主催、ワークショップ講師、2013.8.24-25)
- 15.宮崎日日新聞労働組合・産業政策研究講演会講師「宮日の明日・宮崎の未来」(2013.8.27)
- 16.宮崎公立大学・ジャーナリズム論ゲスト講義(水野剛也教授集中講義)「宮崎の明日はどちらだ!?ーメディアの行方と若者の未来」(2013.8.28)
- 17.第2回青森大学オープンキャンパス模擬授業「新幹線「はやぶさ」と青森」(2013.9.7)
- 18.青森大学・青森商工会議所「まちなかキャンパス」第1回講演「新幹線とまちづくり」(2013.9.12)
- 19.青森市観光ボランティア交流会・講師「「はやぶさ」のある風景とボランティア」(2013.11.1)
- 20.観光カリスマ角田周氏主催シンポジウム・東北新幹線新青森開業3周年記念「新幹線活性化カリスマ放談」(2013.12.4)
- 21.新聞労連・消費税対策検討チーム・検討会コーディネーター(2013年12月~2014.4.6回)
- 22.青森公立大学・金融学習会講演「新幹線とまちづくり」(2013.12.18)
- 23.幸畑団地・居住状況調査報告会報告「幸畑団地の居住状況調査について」(2014.2.8)
- 24.FM青森・「ラジオで徹底討論!青森県応援フォーラム『AOMORISM』」出演(2014.2.11)
- 25.青森市消費者教育モデル事業・青森市「クッキー」(自立訓練・生活訓練施設)講演(2014.2.17)
- 26.青森商工会議所・食品部会総会講演「食を通じた街おこし」(2014.2.27)
- 27.青森大学・第1回青森地域フォーラム「青森の今と未来を考える」、報告「幸畑プロジェクト」(2014.3.8)
- 28.こぎんフェス実行委員会・「こぎんフェス2014」特別記念シンポジウム・コーディネーター(2014.4.29)



- 29.青森大学オープンカレッジ「新幹線と青森の将来－『函館』に向けて『新青森』を考える」(2014.5.9)
- 30.東北活性化研究センター・津軽海峡圏広域観光シンポジウム in 仙台「新幹線が変えた東北の現状と課題」(2014.9.4)
- 31.NPO 法人クリエイト・第5回まち塾授業「まちで暮らす 地域と生きる」(2014.9.23)
- 32.「空き家で空き家シンポジウム」開催(2014.10.2、幸畑団地地区まちづくり協議会・青森県住みかえ支援協議会と共催)
- 33.新聞労連東北地連・拡大常任委員会講演「若者と語り未来へ～『オヤジ』からの新聞奪回作戦」(2014.11.21、弘前市民センター)
- 34.青森大学公開講座「第2回まちなかキャンパス」講演「県民の視点からみた東北新幹線開業」(2014.11.26、青森市・シュトラウス)
- 35.大学コンソーシアム富山・第2回コラボ塾講演「新幹線時代の『富山』像－先行事例から考える」(2014.12.9)
36. NPO法人「プラットフォームあおもり」主催「あおもりこれからゼミ・青森大学編」参画(2014.12.11、2月7日青森テレビでオンエア)
- 37.今別町役場・職員勉強会「Facebook を活用した情報発信」(2014.12.12)
- 38.むつ市民生委員児童委員研修会「地域防災力をどう向上させるか」(2015.1.9)
- 39.平内町「ひらない魅力発掘晚餐会」企画・運営(2015.1.23)
- 40.はちのへ観光復興委員会・八戸前沖さばブランド推進協議会・観光セミナー「新幹線が変えた八戸」講演(2015.1.29)
- 41.公開フォーラム「新幹線が変えた青森・弘前・八戸」企画・開催(2015.1.31、青森大学地域貢献センター共催、あおもり観光デザイン会議協力、青森学術文化振興財団助成事業)
- 42.板柳ロータリークラブ定例会講演「新幹線が変えた青森」、2015.4.7  
【学内各種委員】  
(全学) 学長補佐室、総合研究所・地域問題研究班、就職委員会、情報・IT委員会

氏名 藤 公晴 (TO Kimiharu)

所属 大学 社会学部社会学科

職名 准教授

生年月日 1968 年 9 月 21 日

[履歴]

[学歴]

1993 年 12 月 カリフォルニア州立 Humboldt State University 「資源利用に関する社会科学— Natural Resources Economics and Policy」卒業

2001 年 3 月 青森大学・大学院環境科学研究科修士課程 修了

2005 年 1 月より、ニューヨーク州立大学大学院環境科学森林学部博士課程後期在籍中 博士学位候補生 専攻：環境コミュニケーションと参加型プロセス

[学位]

環境科学修士

[職歴]

2001 年 4 月 社団法人日本環境教育フォーラム 国際事業部

2004 年 12 月退職

2009 年 4 月 青森大学大学院講師

2012 年 4 月 青森大学社会学部准教授

[賞罰]

日本政府世界銀行共同大学院奨学金フェロー (2006-2008)

[所属学会]

日本環境教育学会 (-2011)、国際環境コミュニケーション学会、日本環境社会学会、全米評価学会 (-2007)、国連システム学術評議会、環境思想・教育研究会

[教育活動]

[担当科目]

社会学演習 I

英語 II A & B

環境社会学 I & II

地域貢献基礎演習

英語 I & II A, 英語 I & II B (再履修)

[担当科目]

地域環境概論

環境教育実践論

環境保全学

環境教育学演習 I

環境教育学実習 I

[修士論文指導]

修士論文指導 3名

修士論文副査 6名

[研究活動]

[研究テーマ]

(1) 質的研究方法

(2) 社会運動論

(3) 持続可能な開発 言説論

(4) 環境教育・持続可能な開発のための教育政策

(5) ディープ・エコロジーを中心とした環境思想

[著書・論文]

Cheryll Glotfelty. and Eve Quesnel (Eds). (2014) The Biosphere and the Bioregion: Essential Writings of Peter Berg. Routledge Environmental Humanities Series (Series Editor: Iain McCalman, Libby Robin). Taylor & Francis. New York. ISBN-13: 9780415704403

藤 公晴「ネイチャー・ライティングの授業への導入の可能性をさぐる」環境思想・教育研究会誌、2014 年第 2 号

藤 公晴 (共著)『日本型環境教育の知恵：人・自然・社会をつなぎ直す』小学館 第 6 章「官民協働の意義と課題」189-208 ページ、2008 年 9 月

藤 公晴「インタープリテーション、哲学、エコロジー運動—アルネ・ネス氏追悼」環境思想・教育研究会誌、39-43、2009 年第 3 号

藤 公晴「持続可能な開発のための教育 (ESD) と環境教育について」(第 4 部第 14 章：169-196 ページ)と「ESD と自然学校の関わりについて」(第 15 章：197-208 ページ)『自然学校指導者養成講座テキスト』 社団法人日本環境教育フォーラム 2009 年

藤 公晴「インタープリテーション、哲学、エコロジー運動—アルネ・ネス氏追悼」地球のこども (社) 日本環境教育フォーラム 機関誌 2009 年 7&8 月号 9-10

井上有一、藤 公晴 (共訳)『ディープ・エコロジー：生き方から考える環境の思想』昭和堂 第 5 刷 2010 年

[報告書など]

藤 公晴 アメリカにおける青少年教育施設等の調査報告 (平成 24 年度文部科学省受託事業) (平成 25 年 3 月)

「諸外国の青少年教育施設等調査」報告書 独立行政法人国立青少年教育振興機構

藤 公晴 特集 諸外国の青少年施設調査 文部科学省・国立青少年教育振興機構合同研究会 (発表報告) 独立行政法人国立青少年教育振興機構 青少年教育研究センター 紀要第 2 号 (平成 25 年 11 月)

[学会発表]

環境社会学会第 45 回大会 (秋田県大潟村) 自由報告 (共同発表：西城戸 誠・丸山 康司・柏谷 至・藤 公晴)「ポスト開発主義としての再生可能エネルギー事業のための環境社会学」(平成 24 年 6 月)

環境社会学会第 44 回大会 (関西学院大学) 自由報告 (共同発表：柏谷 至・丸山 康司・西城戸 誠・藤 公晴)「再生可能エネルギーと内発的発展—青森県における風力発電事業の「担い手」をめぐる—」(平成 23 年 12 月)

環境社会学会第 42 回大会 (法政大学) 自由報告 (共同発表：藤 公晴・丸山 康司・西城戸 誠・柏谷 至)「コミュニティ風車及び風力発電ファームの導入にかかる欧米のガイドライン概観」(平成 22 年 12 月)

環境社会学会 第 41 回大会 (岩手県葛巻町) 自由報告 (共同発表：丸山 康司・西城戸 誠・柏谷 至・藤 公晴)「再生可能エネルギーの需要形成と社会的受容性」(平成 22 年 6 月)

[専門家会合や国際会議発表]

藤 公晴 アメリカの事例 (1) 諸外国の青少年教育施設等調査 文部科学省&国立青少年教育振興機構合同研究会 会場：国立オリンピック記念青少年総合センター 平成 25 年 7 月

Kimiharu To. Qualitative Research Approaches for Understanding the Progress of the United Nations Decade of Education for Sustainable Development (DESD), 10th UNESCO-APEID International Conference 6-8 December 2006, Bangkok, Thailand (2006)

[学会における小集会主宰]

藤 公晴「ESD 研究にかかる解釈学的アプローチの可能性と課題」『日本環境教育学会第20回大会』 東京農工大学、2009年7月26日

[論文査読など学会活動]

論文査読 Nature+Culture 誌 The Helmholtz Centre for Environmental Research (UFZ) ライプツィヒ, ドイツ (平成25年7月)

日本環境教育学会編集委員会依頼「研究論文」の原稿査読 (平成24年5月)

日本環境教育学会青森大会「論文の書き方セミナー」協力 (平成23年7月)

日本環境教育学会第22回大会青森大会 実行委員

日本環境教育学会編集委員会依頼「報告論文」の原稿閲読 (平成21年12月)

[共同研究]

Cross-national influence of the term sustainable development upon the field of environmental education: Comparison between the United States and Japan

共同研究者: Sharon Moran (Ph.D. ニューヨーク州立大学大学院環境学研究科),

Andrea Parker (Ph.D. ニューヨーク州立大学大学院環境科学研究科), Beth

Folta (Ph.D. ニューヨーク州立大学大学院環境森林生物学科) (2011~)

科学技術振興機構・社会技術研究会開発センター 助成研究 (2009-2011)

「地域連携による地域エネルギーと地域ファイナンスの統合的活用政策及びその事業化研究」(代表飯田哲也) 地域再生可能エネルギー開発調査グループに参画し、再生可能エネルギーの地域レベル導入に関する青森県内関係者を対象としたアンケート調査、ガイドライン作成、フォーラム「地域のお金とエネルギーを地域と地球に活かす」開催に参画。

[研究協力・支援]

平成25年8-9月

研究者: Julie Celnik, フランス社会科学高等研究院 (Ecoles des Hautes Etudes en Sciences Sociales) Paris FRANCE

テーマ: Bioregionalism in Japan

[社会貢献および地域活動など]

青森県環境審議会 委員 (平成24年度~)

独立行政法人国立青少年教育振興機構「諸外国の青少年教育施設等調査」

担当: 米国農務省等における4-Hの国立青少年施設、青少年行政等に関する現地調査 (Washington D.C. and New York) 平成24年10月28日~同年11月13日。

青森県教育庁:「青い森水辺を守る環境サミット」全体会コーディネーター 青森県総合学校教育センター 2011年11月

環境思想・教育研究会 第1回研究大会 (会場 弘前大学)

環境教育特別セミナー「青森の自然を書(描)くーネイチャーライティングの授業への導入の可能性をさぐるー」総合討論コーディネーター (平成24年9月)

平成23年損保ジャパン SAVE JAPAN 希少動植物の保全にかかる啓発事業 80万円 9月3日(土)「みんなで守ろう! 希少動物オオセッカの生息地 観察会」

場所: 岩木川下流部のヨシ原 (中泊町) 講師: 竹内健悟氏

協力: 中泊町博物館、日本環境教育フォーラム、日本 NPO センター、損保ジャパン

参加者数：約6名

9月17日(土)「みんなで守ろう！希少動物オオセッカの生息地 観察会」

場所：岩木川下流部のヨシ原(中泊町) 講師：竹内健悟氏

協力：中泊町博物館、日本環境教育フォーラム、日本 NPO センター、損保ジャパン

参加者数：約25名

9月18日(日)「みんなで守ろう！希少動物オオセッカの生息地 観察&調査」

場所：岩木川下流部のヨシ原(中泊町) 講師：竹内健悟氏

協力：中泊町博物館、日本環境教育フォーラム、日本 NPO センター、損保ジャパン

参加者数：約15名

10月23日(日)「メダカの生活、水辺の健康、私たちによる保全活動」

場所：青森中央インターループ内ビオトープ 講師：佐原雄二教授(弘前大学農学生命科学部)

参加者数：約20名

協力：東日本高速道路(株) 東北支社青森管理事務所、日本環境教育フォーラム、

日本 NPO センター、損保ジャパン

藤 公晴「青森県内グリーンツーリズム実践者を対象とした意識動向調査」平成 21 年度農林水産省グリーンツーリズム促進等緊急対策事業

藤 公晴「着地型をベースにしたグリーンツーリズム・モデルコース構想」平成 21 年度農林水産省グリーンツーリズム促進等緊急対策事業

藤 公晴「青森県内グリーンツーリズムにかかる潜在的指導者のリスト作成」平成 21 年度農林水産省グリーンツーリズム促進等緊急対策事業

藤 公晴「青森県内グリーンツーリズム実践者の意識と動向に関する勉強会」アウガ男女共同参画プラザ研修室、2009年3月12日 18:30-20:45 主催：青い森グリーンツーリズム推進協議会

藤 公晴 あすなろマスターカレッジ自然科学コース(青森校) 講師 第12回 環境コミュニケーション論(9月13日)、第18回 イベント企画(11月7日) 青森県立社会教育センター

藤 公晴 青森大学自然学校 OB/OG 会 顧問就任(2009年4月)

藤 公晴「はぐくもう グリーンツーリズム王国」主催：NPO 法人元気王国 共催：

河北新報社、荘内銀行 3月29日付 河北新報 紙面対談記事掲載(10段分、23ページ)

【国際交流】

Kimiharu To "Teacher Bill." Planet Drum Pulse Planet Drum Foundation

Newsletter 2010. なお、同記事は2009年10月10日の故ビル・ディボル氏(カリフォルニア州立大学ハンボルト校社会学部名誉教授)の偲ぶ会における追悼頌徳演説。なお、同演説の動画は [www.video.yahoo.com/watch/6298332/16342609](http://www.video.yahoo.com/watch/6298332/16342609) にて配信。

Kimiharu To Planet Drum Foundation (米国環境 NPO) の理事業務

エクアドル共和国 Bahia de Caraquez 市郊外の Bioregional Sustainability

Institute (2010年春開校予定) 設立準備への参画およびコンサルティング。

2010年バンクーバーと2014年ソチ冬季五輪における環境負荷に関する提言活動。

【学内各種委員】

国際交流委員会

学生募集委員会

留学生支援委員会(-2012)

図書委員会(2012)

[その他]

学校法人青森山田学園 法人本部 本部長補佐

学校法人青森山田学園 評議員

氏名 田中 志子 (TANAKA Sachiko)

所属 社会学部 社会福祉学科

職名 准教授

生年月日 1973 年 5 月 27 日

[履歴]

[学歴]

1997 年 3 月 東北福祉大学社会福祉学部社会福祉学科 卒業

1999 年 3 月 東北福祉大学大学院福祉学研究 (修士課程) 修了

[学位]

社会福祉学修士

[職歴]

1997 年 4 月～1998 年 3 月

学校法人城東学園 弘前ホスピタリティーアカデミー介護福祉科 助手

1998 年 4 月～1999 年 3 月

宮城県教育委員会教育研修センター 電話教育相談員 (非常勤)

1999 年 4 月～2007 年 3 月

青森県立保健大学 健康科学部 社会福祉学科 助手

青森県事務吏員兼務 (青森県立中央病院) (2000 年 6 月～2002 年 3 月)

2007 年 4 月～2009 年 3 月

学校法人ノースアジア大学 秋田看護福祉大学 看護福祉学部 社会福祉学科 講師

2009 年 4 月～2010 年 3 月

青森大学社会学部社会福祉学科 (非常勤講師)

弘前学院大学社会学部社会福祉学科 (非常勤講師)

青森明の星短期大学現代介護福祉学科 (非常勤講師)

2010 年 4 月

青森大学社会学部社会福祉学科 講師

2012 年 4 月

青森大学社会学部社会福祉学科 准教授

[所属学会]

日本社会福祉学会、日本社会福祉士学会

[教育活動]

[担当科目]

障害者に対する支援と障害者自立支援制度、相談援助の理論と方法 I・II、ソーシャルワーク実習指導 I・II・III、相談援助の基盤と専門職 II、ソーシャルワーク演習 A・B・C・D、ソーシャルワーク実習 I・II

[ゼミ指導]

なし

[教育指導に関する特記事項]

1, 社会福祉士国家試験支援のため、補講を行っている。

[研究活動]

[研究テーマ]

(1) 入所型社会福祉施設におけるソーシャルワーク業務について

(2) ホームレス支援に関する問題

[学会発表]

1, 「青森市におけるホームレス支援の現状と課題～(社)青森県社会福祉士会のホームレス支援の取り組みから～」第16回日本社会福祉士学会全国大会(神奈川大会)、2008年6月8日、神奈川県横浜市(共同発表)

[研究費の取得状況]

「社会福祉施設におけるソーシャルワーク業務の現状と課題」単独(文部科学省特別研究費若手研究(B)2004年度～2006年度)

「郊外型住宅団地における地域課題とコミュニティの再生に関する調査研究」青森県学術文化振興財団.2013年度(採択:共同研究)

科研費基盤研究C「電子エコマネーを活用したボランティア・コーディネート支援ツールの開発」(採択:分担研究者)

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

第8回ハンセン病市民学会イン青森・宮城「分科会C 地域での共生を考える」シンポジスト

幸畑フォーラム 2013～地域を知る、地域とつながる～ パネリスト

[学内各種委員]

教務委員会

国家試験対策委員会(学科内)

入試実施委員会



氏名 中村 和生 (NAKAMURA Kazuo)

所属 社会学部社会学科

職名 准教授

生年月日 1970 年 1 月 22 日

[履歴]

[学歴]

1993 年 3 月 東京都立大学社会学社会学科卒業

1995 年 3 月 明治学院大学大学院社会学・社会福祉学研究科社会学専攻博士前期課程  
修了

1999 年 3 月 明治学院大学大学院社会学・社会福祉学研究科社会学専攻博士後期課程  
単位取得満期退学

2015 年 1 月 博士 (社会学) の学位 (論文博士) を取得 (明治学院大学)

[学位]

社会学修士

博士 (社会学) (論文博士)

[職歴]

2001 年 4 月 明治学院大学社会学部非常勤講師

2002 年 4 月 清泉女子大学文学部非常勤講師

2004 年 4 月 武蔵工業大学環境情報学部非常勤講師

2007 年 4 月 一橋大学大学院非常勤講師

2010 年 4 月 青森大学社会学部社会学科講師

2012 年 4 月 青森大学社会学部社会学科准教授

[所属学会]

日本社会学会、関東社会学会

[研究活動]

[研究テーマ]

(1) 科学の実践的達成のエスノメソドロジ的分析

(2) 社会学的営為の概念分析

[著書]

1, 2006 年 5 月『新版 構築主義の社会学』平英美・中河信俊 (編) (第 4 章「『推定無罪』  
と科学知識の社会学」)

2, 2007 年 8 月『ワードマップ エスノメソドロジ』前田泰樹・水川喜文・岡田光弘 (編)  
(第 4 章「合理的であるとはどのようなことか」、第 8 章 2 節「実験する」、第 8 章 3  
節「比較する／測定する」、コラム(2))

3, 2009 年 4 月『概念分析の社会学』酒井泰斗・浦野茂・前田泰樹・中村和生 (編) (第  
8 章「科学社会学における『社会』概念の変遷」、ナビゲーション 3)

[論文]

1, 2012 年「社会生活技能訓練における発話の共同産出 —— 広汎性発達障害児への療育  
場面のエスノメソドロジ」『三重県立看護大学紀要』第 16 号 (共著: 浦野茂・水川  
喜文・中村和生)

2, 2013 年「「フレーム」概念の検討—環境配慮行動の分析にむけて—」『青森大学・青  
森短期大学研究紀要』第 35 巻第 3 号 (共著: 中村和生・柏谷至・渋谷泰秀・佐々木て  
る)

3, 2013 年「社会生活技能訓練におけるカテゴリーと社会秩序 —— 自閉症スペクトラム

児への療育場面のエスノメソドロジー——」『保健医療社会学論集』第 24 号第 1 卷  
(共著：水川喜文・中村和生・浦野茂)

4, 2013 年「「心の理論」と社会的場面の理解可能性——自閉症スペクトラム児への療育  
場面のエスノメソドロジーにむけて——」『年報社会学論集』(関東社会学会) 第 26  
号 (共著：中村和生・浦野茂・水川喜文)

5, 2015 年「ポスト分析的エスノメソドロジーの展望と展開 ——科学実践の理解可能性の探究——」  
(博士論文)

6, 2015 年「分析的エスノメソドロジーとポスト分析的エスノメソドロジー」『社会学・社会福祉  
学研究』144 号(明治学院大学社会学部)

[翻訳]

1, 2012 年 マイケル・リンチ著『エスノメソドロジーと科学実践の社会学』勁草書房 (水  
川喜文・中村和生 (監訳))

氏名 美濃 香 (MINO Kaori)

所属 社会福祉学科

職名 講師

生年月日 1959 年 3 月 19 日

[履歴]

1981 年 3 月 弘前学院大学英米文学科卒業

2005 年 3 月 弘前学院大学社会福祉学研究科修了

2010 年 3 月 弘前大学大学院・地域社会研究科地域社会専攻地域政策研究講座後期博士課程単位取得満期退学

[学位]

福祉学修士

[職歴]

1981 年 4 月 農用地開発公団

2008 年 4 月 青森大学 専任講師

[学会]

日本社会福祉学会

[教育活動]

[担当科目]

地域福祉の理論と方法 I・II、福祉計画論、福祉行財政論、現代社会と福祉 I・II  
社会福祉学応用演習 II A・II B、ソーシャルワーク演習 C・D・E

[卒業研究指導]

[ゼミ指導]

2008 年 1 年ゼミ 10 名 3 年ゼミ 13 名

2009 年 1 年ゼミ 14 名 3 年ゼミ 12 名

2010 年 1 年ゼミ 10 名、2 年ゼミ 12 名

2011 年 1 年ゼミ 19 名、4 年ゼミ 4 名

2012 年 2 年ゼミ 18 名、4 年ゼミ 16 名

2013 年 3 年ゼミ 22 名、4 年ゼミ 16 名

2014 年 4 年ゼミ 16 名

[教育指導に関する特記事項]

社会福祉士国家試験対策の補講および個別指導

[研究活動]

[研究テーマ]

(1) 福祉政策

(2) 高齢者福祉

(3) 地域福祉

[著書、論文、総説等]

美濃香・渡部諭 介護現場における問題と課題 2008.7. 青森大学・青森短期大学学術研究会研究紀要、第 31 巻、第 1 号、65-83

美濃香 高齢者福祉の変遷—高齢化社会に至る以前を中心に— 2009.3 地域社会研究、VoL.17

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

平成 19 年度社会福祉主事資格認定講習会 講義「老人福祉論」青森県立保健大学 (10

月 29・11 月 2・5 日)

平成 20 年度社会福祉主事資格認定講習会 講義「老人福祉論」青森県立保健大学 (11 月 3・7・10 日)

平成 21 年度社会福祉主事資格認定講習会 講義「老人福祉論」青森県立保健大学 (11 月 2・9・10 日)

平成 21 年日本社会福祉士養成校協会・日本社会福祉教育学校連盟東北ブロック教職員研修会シンポジスト (12 月 5 日)

[学内各種委員]

学生募集委員会オープンキャンパス班、学生台帳、就職委員会

氏名 宮川 愛子 (MIYAKAWA Aiko)

所属 社会学部社会福祉学科

職名 講師

生年月日 1974 年 6 月 3 日

[履歴]

[学歴]

1997 年 3 月 日本社会事業大学社会学部児童福祉学科卒業

[学位]

社会福祉学士

[職歴]

1997 年 4 月 社会福祉法人福音会職員

[所属学会]

日本介護学会

[教育活動]

[担当科目]

介護総合演習Ⅳ、高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ・Ⅱ、相談援助の理論と方法Ⅳ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ、介護技術演習

[卒業研究指導]

2008 年度卒業論文： 19 名

2009 年度卒業論文： 2 名

[ゼミ指導]

2007 年度 社会福祉学演習ⅠA・B：19 名

2008 年度 社会福祉学演習ⅡA・B：19 名

2009 年度 社会福祉学基礎演習 A・B：13 名

2009 年度 社会福祉学演習 A・B：20 名

2013 年度 社会福祉学応用演習ⅡA・B：19 名

[教育指導に関する特記事項]

1. 社会福祉振興・試験センターへ、介護福祉士国家資格を取得した学生の資格登録手続きの実施。

2. 介護福祉士養成施設協会が毎年実施している「卒業時共通試験」を学内で実施し、試験監督及び採点、介護福祉士養成施設協会への採点結果の報告等の業務の実施。

[研究活動]

[研究テーマ]

(1) 高齢者の生活介護

(2) スペシャルオリンピックスの果たす役割

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

<2006 年度>

・青森大学介護技術講習会 指導者 (8 月・9 月)

・青森県立保健大学 社会福祉主事資格認定講習会「介護概論(実習)」(9 月 22 日・26 日)

・訪問介護員養成研修事業所きらら弘前主催 訪問介護員 2 級課程養成研修講座「ホームヘルプ概論」「ホームヘルパーの職業倫理」「介護概論」(10 月 6 日・11 日・31 日、11 月

1 日)

<2007 年度>

- ・青森大学介護技術講習会 指導者 (8 月 21 日～24 日、8 月 28 日～31 日)
- ・社会福祉主事資格認定講習会「介護概論 (実習)」(5 月 28 日、6 月 4 日)
- ・訪問介護員養成研修事業所きらら弘前主催訪問介護員 2 級課程養成研修講座「ホームヘルプ概論」「ホームヘルパーの職業倫理」「介護概論」(5 月 16 日、6 月 6 日・13 日、10 月 15 日・24 日、11 月 5 日・12 日)
- ・青森県海外技術研修員受入事業担当 介護の研修を希望したパラグアイからの女性研修生 1 名を担当 (受入期間:7 月 10 日～2 月 21 日)

<2008 年度>

- ・訪問介護員養成研修事業所きらら弘前主催訪問介護員 2 級課程養成研修講座「ホームヘルプ概論」「ホームヘルパーの職業倫理」「介護概論」(4 月 28 日・30 日、8 月 12 日・18 日、10 月 7 日・15 日、2 月 23 日・24 日)
- ・社会福祉主事資格認定講習会「介護概論 (実習)」(8 月 4 日・5 日)
- ・青森大学介護技術講習会 指導者 (8 月 21 日・22 日・28 日・29 日)
- ・オープンカレッジ市民大学「介護保険制度の概要と介護技術」(9 月 12 日)

<2009 年度>

- ・訪問介護員養成研修事業所きらら弘前主催訪問介護員 2 級課程養成研修講座「ホームヘルプ概論」「ホームヘルパーの職業倫理」「介護概論」(4 月 13 日・15 日、7 月 2 日、8 月 3 日～5 日・10 日、10 月 26 日・29 日、11 月 2 日・4 日、2 月 16 日・23 日、3 月 5 日・10 日)
- ・社会福祉主事資格認定講習会「介護概論 (実習)」(6 月 3 日・5 日)
- ・青森大学教員研究発表会「スペシャルオリンピックスと地域貢献」(7 月 15 日)
- ・青森大学介護技術講習会 指導者 (8 月 18 日～21 日、8 月 23 日～28 日、9 月 1 日・2 日)
- ・青森市社会福祉協議会主催介護員養成研修 2 級課程「訪問介護員の職業倫理」「ホームヘルプサービス概論」「介護概論」「相談援助とケア計画の方法」(9 月 10 日・14 日・17 日・29 日)
- ・オープンカレッジ市民大学「在宅介護とケアプラン」(11 月 6 日)
- ・青森県消費者協会主催 消費生活相談員養成研修会「高齢者の生活と様々な福祉サービス」(1 月 22 日)
- ・第 22 回介護福祉士国家試験 (実技試験) 実地試験委員 (3 月 6 日・7 日)

<2010 年度>

- ・訪問介護員養成研修事業所きらら弘前主催介護職員基礎研修「介護の基本的視点とケアワークの意義」「コミュニケーションと信頼関係形成の基礎的理解」「介護技術—介護の考え方」「介護職員の職務理解」(5 月 11 日、6 月 9 日・14 日、8 月 5 日、9 月 22 日、10 月 18 日・25 日、12 月 20 日)
- ・訪問介護員養成研修事業所きらら弘前主催訪問介護員 2 級課程養成研修講座「ホームヘルプ概論」「ホームヘルパーの職業倫理」(5 月 24 日、6 月 24 日、7 月 26 日、9 月 29 日、12 月 1 日)
- ・社会福祉主事資格認定講習会「介護概論 (実習)」(6 月 3 日・4 日)
- ・青森大学介護技術講習会 指導者 (8 月 23 日・24 日・26 日・27 日・30 日・31 日、9 月 1 日・2 日)
- ・青森市社会福祉協議会主催介護員養成研修 2 級課程「訪問介護員の職業倫理」「ホーム

ヘルプサービス概論」「介護概論」「相談援助とケア計画の方法」(9月1日・8日・9日・13日)

・第23回介護福祉士国家試験(実技試験) 実地試験委員(3月5日・6日)

<2011年度>

・訪問介護員養成研修事業所きらら弘前主催訪問介護員2級課程養成研修講座「ホームヘルプ概論」「ホームヘルパーの職業倫理」(5月17日、7月12日、9月21日、11月29日、12月28日)

・訪問介護員養成研修事業所きらら弘前主催介護職員基礎研修「介護の基本的視点とケアワークの意義」「コミュニケーションと信頼関係形成の基礎的理解」「介護技術—介護の考え方」「介護職員の職務理解」(7月19日、8月22日、10月20日)

・青森大学介護技術講習会 指導者(8月25日・26日・29日・30日、9月1日・2日・5日・6日)

・青森市社会福祉協議会主催介護員養成研修2級課程「訪問介護員の職業倫理」「ホームヘルプサービス概論」「介護概論」(9月7日・9日・13日)

・第24回介護福祉士国家試験(実技試験) 実地試験委員(3月3日・4日)

<2012年度>

・訪問介護員養成研修事業所きらら弘前主催訪問介護員2級課程養成研修講座「ホームヘルプ概論」「ホームヘルパーの職業倫理」(8月2日、1月8日)

・訪問介護員養成研修事業所きらら弘前主催介護職員基礎研修「介護の基本的視点とケアワークの意義」「コミュニケーションと信頼関係形成の基礎的理解」「介護技術—介護の考え方」「介護職員の職務理解」(6月19日、7月31日、9月4日、10月9日・23日、12月25日)

・青森大学介護技術講習会 指導者(8月30日・31日、9月6日・7日)

・青森市社会福祉協議会主催介護員養成研修2級課程「訪問介護員の職業倫理」「ホームヘルプサービス概論」「介護概論」(9月3日・10日・11日)

・第25回介護福祉士国家試験(実技試験) 実地試験委員(3月2日・3日)

<2013年度>

・訪問介護員養成研修事業所きらら弘前主催介護職員初任者研修講座「介護の基本」(6月18日、8月6日・9日、10月15日・22日)

・青森市社会福祉協議会主催介護職員基礎研修講座「介護の基本」(9月6日)

・第26回介護福祉士国家試験(実技試験) 実地試験委員(3月1日・2日)

<2014年度>

・青森市社会福祉協議会主催介護職員初任者研修講座「介護の基本」(9月2日)

・第27回介護福祉士国家試験(実技試験) 実地試験委員(2月28日・3月1日)

[学内各種委員]

・教務委員会(カリキュラム編成のほか、東北厚生局への事務手続き等を行った)

・入試委員会

[学外各種委員]

・青森県原子力政策懇話会 委員(2011年10月～2013年10月)

・スペシャルオリンピックス日本・青森 事務局長(2012年2月～現在に至る)

氏名 木原 博 (KIHARA Hiroshi)

所属 社会学部社会学科

職種 助教

生年月日 1987 年 4 月 17 日

[履 歴]

[学 歴]

2006 年 4 月～2009 年 3 月 早稲田大学スポーツ科学部

[学 位]

2009 年 3 月 学士

[職 歴]

2009 年 4 月～2012 年 3 月 早稲田大学本庄高等学院 非常勤講師

[教育活動]

[担当科目]

文章の理解と表現 体育実技 A 体育実技 B 運動学、体育実習（陸上競技）

卒業論文指導

[教育指導に関する特記事項]

学生が積極的に参加できるような授業・講義にしていくためにも、学生とのコミュニケーションを大切にしたい。そして様々な知識や情報を提供していきたい。

[研究活動]

[研究テーマ]

民俗芸能における身体の構成

[学内各種委員]

教務委員